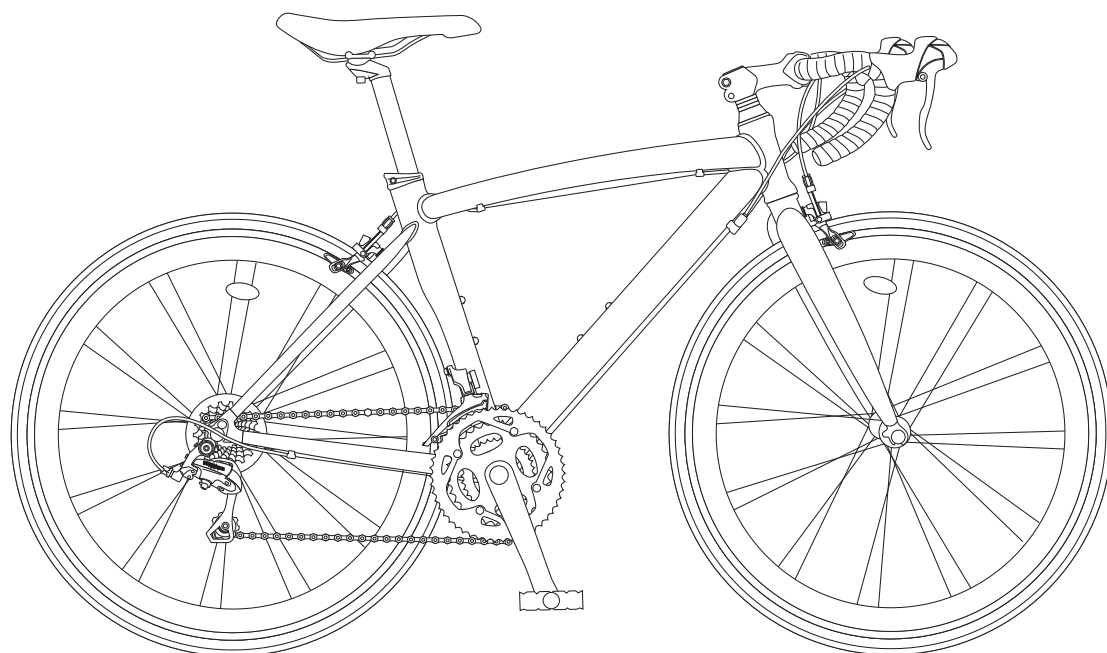


自転車共通 取扱/組立説明書



- この度はお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- この商品を正しく安全に使用していただくために、お使いになる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 全車共通の取扱説明書となります。**組み立て手順(P3)**を参考にして必要なページをご確認頂くようお願いいたします。
- お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管し、必要なときにお読みください。

目次

警告表示	02	ブレーキの調整について	27
組み立て手順	03	後変速について	28 ~ 30
Q & A	04	前変速について	31 ~ 33
各部名称	05 ~ 06	変速機の調整と取扱について	34
梱包材・タイヤの向きについて	07	カゴの取付	35
タイヤ・バルブの取扱について	08	ライトと鍵について	36
前輪の取付方法	09 ~ 10	補助輪の取付	37
ディスクブレーキ車種の前輪取付	11	各自転車種の警告事項	38 ~ 39
折りたたみフレームの組立	12	自転車の乗車前チェック	40 ~ 41
ハンドルの取付・組立・固定	13 ~ 17	正しい使用条件	42
ハンドルポストの固定	18	お手入れについて	43
サドルの高さ調整	19	幼児用座席の注意事項・ライトの取扱	44 ~ 45
ペダル取付	20	警告事項	46 ~ 50
Vブレーキの調整	21 ~ 22	交通ルールについて	51
キャリパーブレーキの調整	23 ~ 24	点検・チェックリスト	52
ディスクブレーキの調整	25	防犯登録について	53
バンド・ローラーブレーキの調整	26	保証規定	54 ~ 55

お買い上げありがとうございます。

図は代表車種を記載させていただいておりますので、若干の仕様の違いがございます。

- お買い求めになった自転車に当てはまらない説明内容も含まれております。
- 間違った取扱いや調整は事故につながる恐れがありますので、警告・禁止・注意事項を必ず守ってください。
- 乗車前の「日常点検」と「2ヶ月以内・1年ごとの定期点検」を必ず実行してください。
- 取扱いがわからないときは販売店にご相談ください。
- 子供または幼児が使用する場合には保護者の方が使用上の注意事項を教えてあげてください。

- 自転車は組み立て品につき、未完成の状態でのお届けとなっております。未完成部分はお客様に組み立てが必要となります。組み立てにはある程度の技術が必要となります。本書をよくお読みの上、手順に従って組み立ててください。
- ブレーキや変速機につきましては、輸送中や組立時に調整がずれることがあり、完全な調整ができていない場合がございます。
- ペダルは左右でネジ山の向きが異なりますので左右を間違えないようご注意ください。
- 自転車の推奨適応体重は65kg以下(子供車は45kg以下)です。
- 万が一、不具合があった場合、ご使用後の商品につきましては交換対応致し兼ねますので、必ず乗車前点検を行ってください。
- 空気圧は低めとなっているので、組み立て時に空気を入れていただく必要があります。
- 事前連絡なしでお客様の方で修理されたものに関しましては一切の保証を致し兼ねます。[保証規定B-31]
- 本書をよくお読みのうえ、保証規定(上記は抜粋となります。)を確認し承じていただいてから組立調整をしていただき、ご乗車ください。

この自転車は一般道路用です。
オフロードや競技用には絶対にご使用にならないでください。

本書をいつでも再読できるように大切に保管してください。
※製品改良のため、予告なくデザイン及び仕様を変更することがあります。

警告表示について

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するにあたり、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

- 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。

 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)

 このような絵表示はしてはいけない「禁止」内容です。
 このような絵表示は、必ず実行していただく「指示」内容です。

組み立て手順

本書は全車種共通の説明書となっております。

下記の手順は機種ごとの参考例となります。機種により手順が異なるものや特別なものもございます。
こちらの冊子以外にも別紙が付属しているものは併用して組立、ご使用をお願い致します。

折り畳み自転車	組立前のご確認 到着時は空気圧が低めに設定されております。 完成後のご乗車前には空気圧を必ず確認して頂くようお願い致します。 ※「完成品自転車」の購入の場合も配送の都合上により空気が完全に入っておりません。 ※2 仏式バルブを採用している車種は、英式への変換アダプターが、自転車1台につき「1つ」付属しております。(P8) 参照	フレームの固定 (P12) 参照	フロントフォークの向きに注意してください 方向に間違いないかご確認ください (P7) 参照	ハンドルの取付 ※種類があります 差し込みタイプ (P13-15) 参照 アヘッドタイプ (P16-17) 参照 ワイヤーが絡まないように注意して取り付けてください。	サドルの取付 / 調整 ※種類があります (P19) 参照 限界線が見えない位置で固定してください。	ペダルの取付 (P20) 参照 左右でネジの向きが違いますので、左右を間違えないようご注意ください。	カゴの取付 ※車種により、付属していないものもございます。(P35) 参照	ブレーキ・変速調整 車種により必要無いものもございます。 キャリパーブレーキ (P23-24, P27) 参照 Vブレーキ (P21-22, P27) 参照 ドラムブレーキ (P26, P27) 参照 ディスクブレーキ (P25, P27) 参照 それぞれ仕様が異なりますので、仕様にあったページをご参考ください。
シティサイクル								
クロスバイク		前輪の取付 ※クイックタイプのみ (P9-10) 参照 ディスクブレーキの車種は (P11) もご参照ください。						
ロードバイク								
MTB								
BMX								
子ども車		補助輪の取付 補助輪のないタイプもございます。(P36) 参照					カゴの取付 ※車種により、付属していないものもございます。(P35) 参照	

弊社ホームページ内の製品サポートに詳しい案内がございます。

<http://www.e-otomo.co.jp/support>

下記事項に該当するものが見当たらないようときは、ホームページもご覧ください。

■車輪が重い、ブレーキが硬い、車輪をまわすと異音がある、変速しない

自転車を組み立てる際に

- ・フロントフォークが逆向きのまま前輪の取付けとなっている
- ・ハンドルが向きは正常でも 360 度回転してしまっている状態

等の事が要因となりワイヤーの絡みが発生している事があります。そのような症状が見られた際は、絡みを修正して頂くようお願い致します。
(P7・P15) 参照

ワイヤー類に異常がみられない場合は、商品に採用されているブレーキ部 (P21 ~ P27) や変速部 (P28 ~ P34) を確認して調整をおこなってください。

異音の原因は、物理的に何かが接触している事も考えられます。ワイヤーの余り部が車輪に接触していないか、梱包材が挟まっていないかなどをご確認ください。

ディープリムを採用している商品では、加工された際の削りカス等が車輪内部で鳴動する事があります。パルプ穴から破片を抜き取る事により改善される事があります。

■サドルが固定できない

サドルの固定は、車体に入った切れ込み部 (スリット) を物理的に狭める事により固定します。シートピン側に潤滑剤を添付するなどして強く締め付ける事によって解決する事があります。切れ込み部が狭まらない、または切れ込み部が無いというような時は商品名、車体番号を確認した上で弊社サポート、または販売店へご連絡をお願い致します。

■バルブ変換アダプターが見当たらない。または 1 つしかない

仏式チューブ等を採用している商品には変換アダプターが「1 つ」だけ付属しております。使用する場合は前後付け替えて使って頂くものとなります。お届け時には、車輪バルブくちに既に取り付けられている商品と、付属物として説明書とともに同梱されている商品がございます。
(P8) 参照

■樹脂部品が割れている

梱包材の可能性がございます。(P7) 参照

樹脂梱包材は必要ないものとなりますので商品に異常がなければそのまま廃棄してください。

※保証対応時や修理等の際に自転車が入っている箱は必要となります。

■カゴ取付ネジが硬い

緩み防止のため樹脂を混入したナイロンナットを採用しているものがあります。樹脂を潰すように締めつけて頂くとネジがナットを貫通します。(P35) 参照

■付属キャップの取付場所がわからない

車輪を固定しているナットに被せるハブキャップ、ハンドルを固定するネジ部に被せるハンドルキャップ等がございます。※付属していない商品もございます。

■フレーム折り畳み部が固定できない

潤滑油を塗布して頂く、またはレバーの反対側にあるナットを調整する事により、調整できることがあります。(P12) 参照

■クイックレバーの締め具合がわからない

クイックレバーは、レバーの付いている側で無い方のナットを締めこむ事により、レバーを曲げた際の力の調整を行います。レバーが緩い時、または堅すぎてレバーを曲げられないような際は、反対側のナットにて調整を行ってください。また車輪等にクイックを使用しているものは、定期的に点検し緩みの無い事を必ずご確認ください。(P9-10) 参照

■補助ブレーキがきかない

構造上、本ブレーキよりも制御力が劣るものとなります。補助ブレーキの特性をよく理解したうえで使用して頂くようお願い致します。
「ブレーキ効き調整」は本ブレーキ側にておこないます。(P37) 参照

■変速がうまく切り替わらない / 変速部から異音がある

調整状態により変速器の作動は大きく作用します。説明書を読んでワイヤーやネジの調整をしてください。外装式変速機は調整がしやすいものとなりますが、内装式よりも調整がくるとい易いものとなり定期的な調整が必要な箇所となります。(P28 - P34) 参照

■ペダルから異音がある

周期的に異音が発生するようであれば、ペダル取り付け部を増し締めして頂くことによりなおる可能性があります。(P20) 参照

■スタンド

スタンドの動きが悪いような際は可動部に潤滑剤を塗布してください。

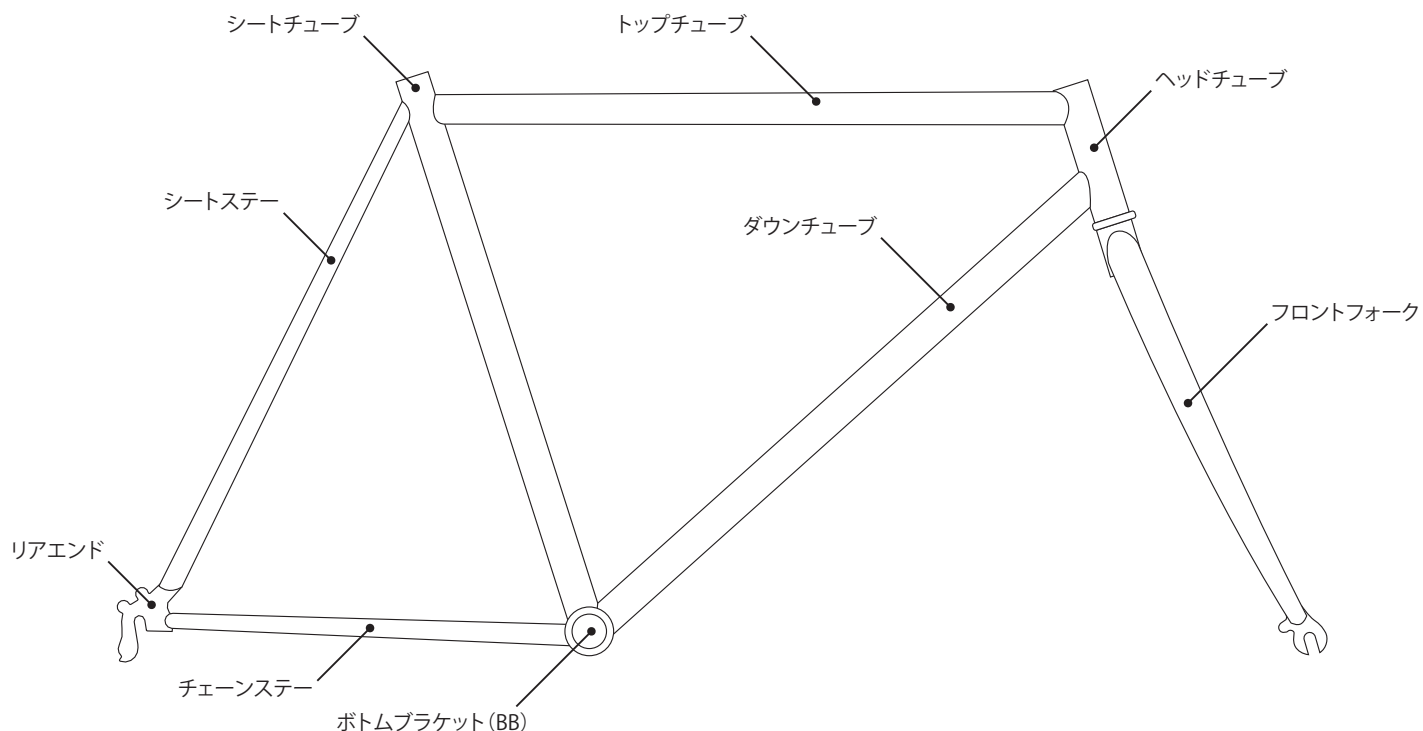
センタースタンドを採用している車種は構造上、停車状態でクランクを回して変速調整をする事は出来ません。調整の際には、後輪を浮かせるような自転車用スタンドが必要となります。※弊社にて別販売はしておりません。

構造上クランクとスタンドが接触し易いものとなります。クランクと接触する、接触しそうな際は力を加えて頂いて押し込んで頂くようお願いいたします。

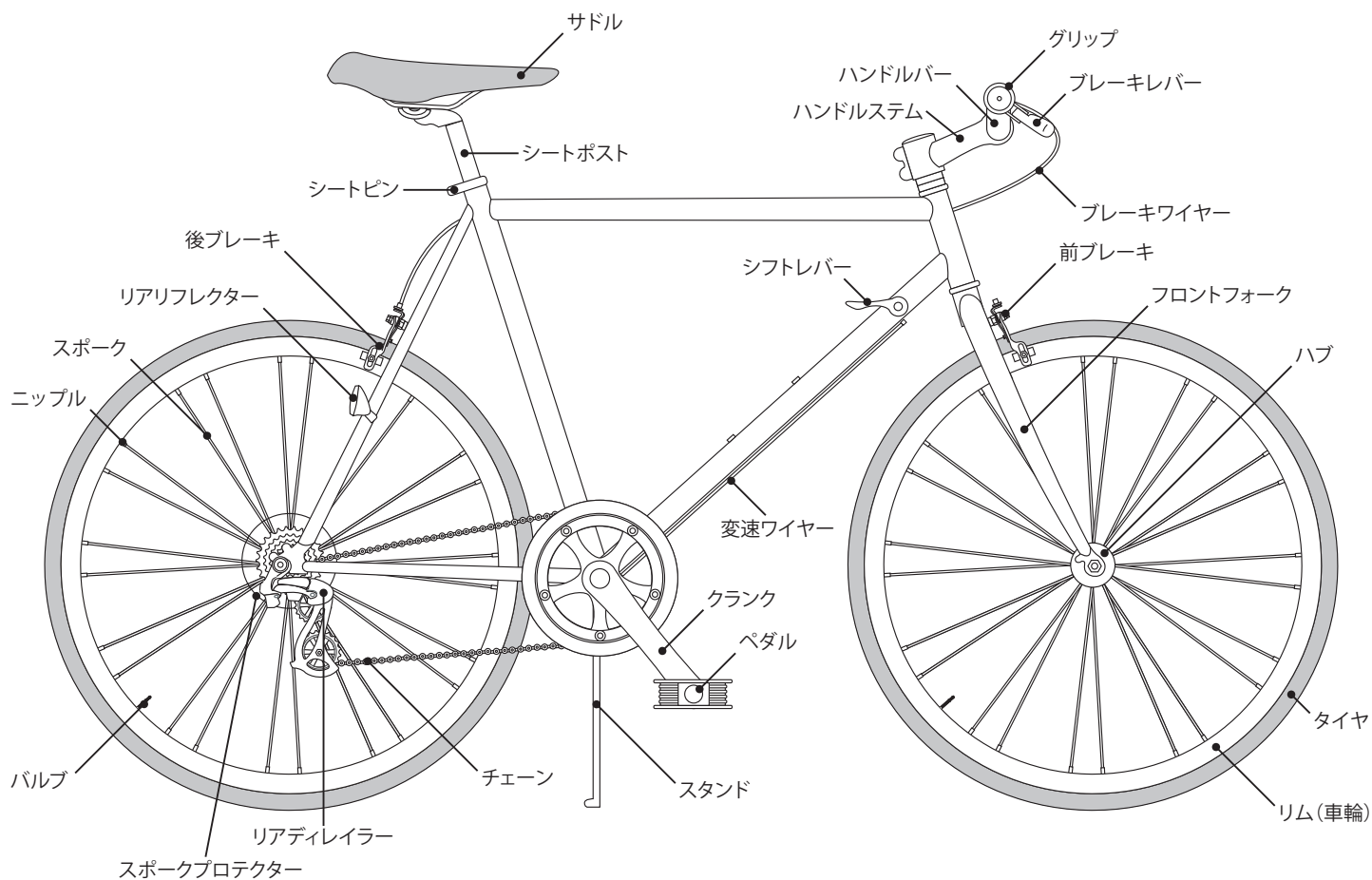
押さえても戻らないような際は、根元にある固定ボルトを緩めて角度の調整が必要です。

各部のなまえ

フレーム各部の名称



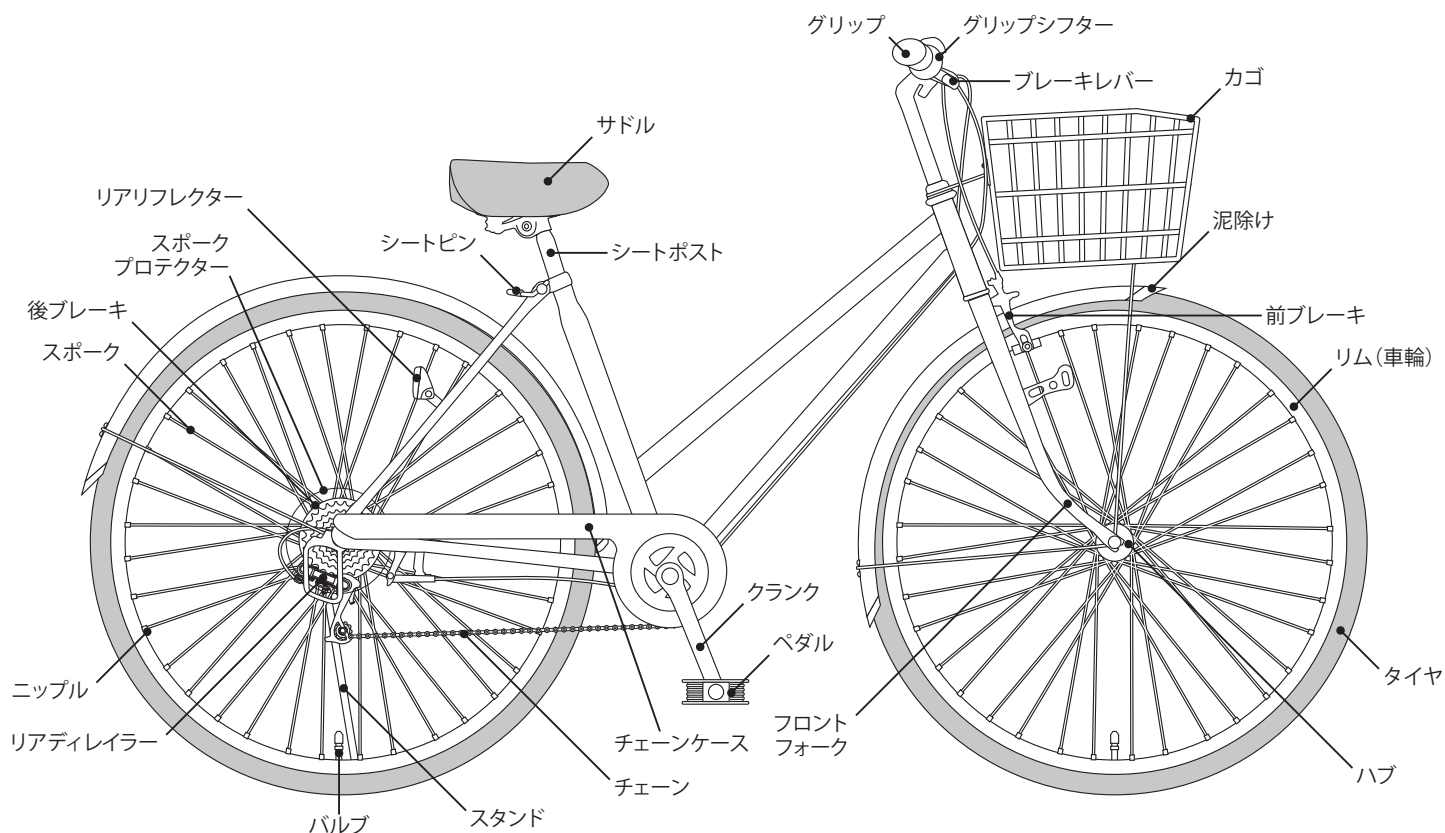
スポーツ車



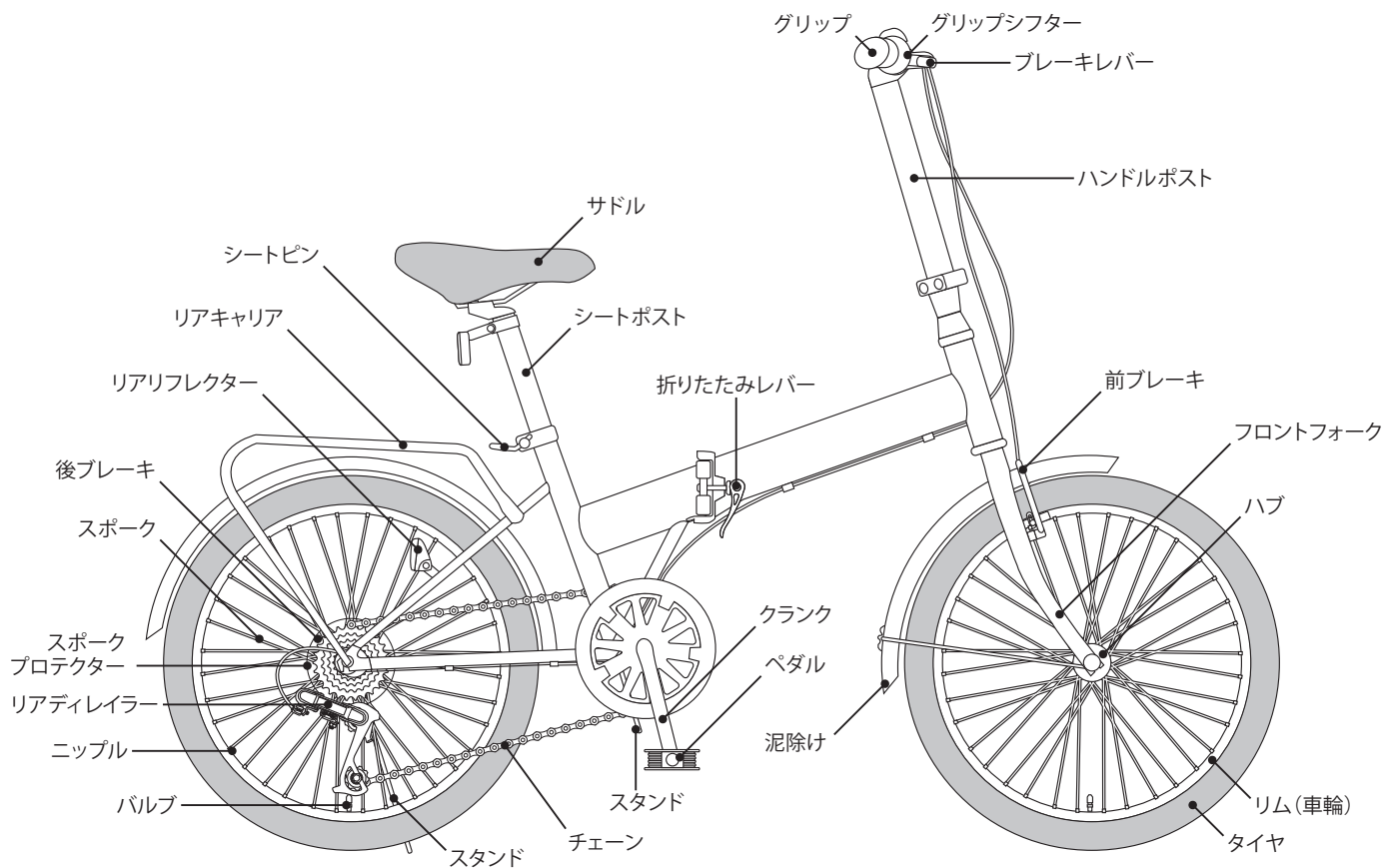
図は代表車種を記載させていただいておりますので、若干の仕様の違いがございます。

各部のなまえ

軽快車(シティサイクル)



折りたたみ自転車



組立前のご確認

ダンボールから取り出した状態は70%～95%での未完成の状態です。

まず説明書、付属工具などが入っているかを確認してください。フレームや部品等の破損が見られる際は、販売店へ連絡をお願い致します。

※車種により付属工具は異なります。また、作業内容により付属していない工具が必要になる場合がございますのでご了承ください。

※梱包箱は、修理・交換の際には必要となります。初期不良が見られないことを確認するまでは廃棄せず、保管してください。別途梱包箱が必要な際は有償となりますのでご注意ください。

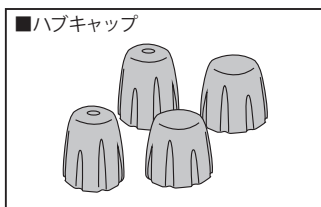
各作業、組立方法については弊社ホームページの動画でもご参照いただけるものがございます。

<http://www.e-otomo.co.jp/support/>

ハブキャップ・梱包材について

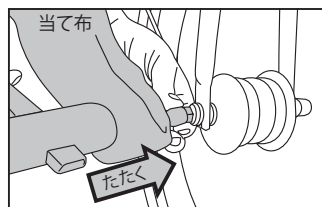
説明書等に同梱されている樹脂製のキャップは車輪用のハブキャップとなります。ハブキャップは、車輪軸部のハブナットにはめこむ仕様となっておりますが、走行時にはずれたりしないよう取付はきつめになっています。

取付が難しい場合は、布等を当てていただきハンマー等でたたいてはめこんでください。

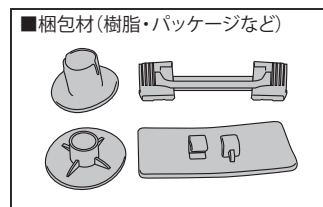


※通常、ハブキャップは4つ付属しています。

※車種により数量は変わります。(車輪側に既に取り付けられている車種や付属していない車種もございます。)



※必ず当て布を当てて、ハンマーで叩いてください。ヒビ・亀裂によりキャップが割れる恐れがあります。



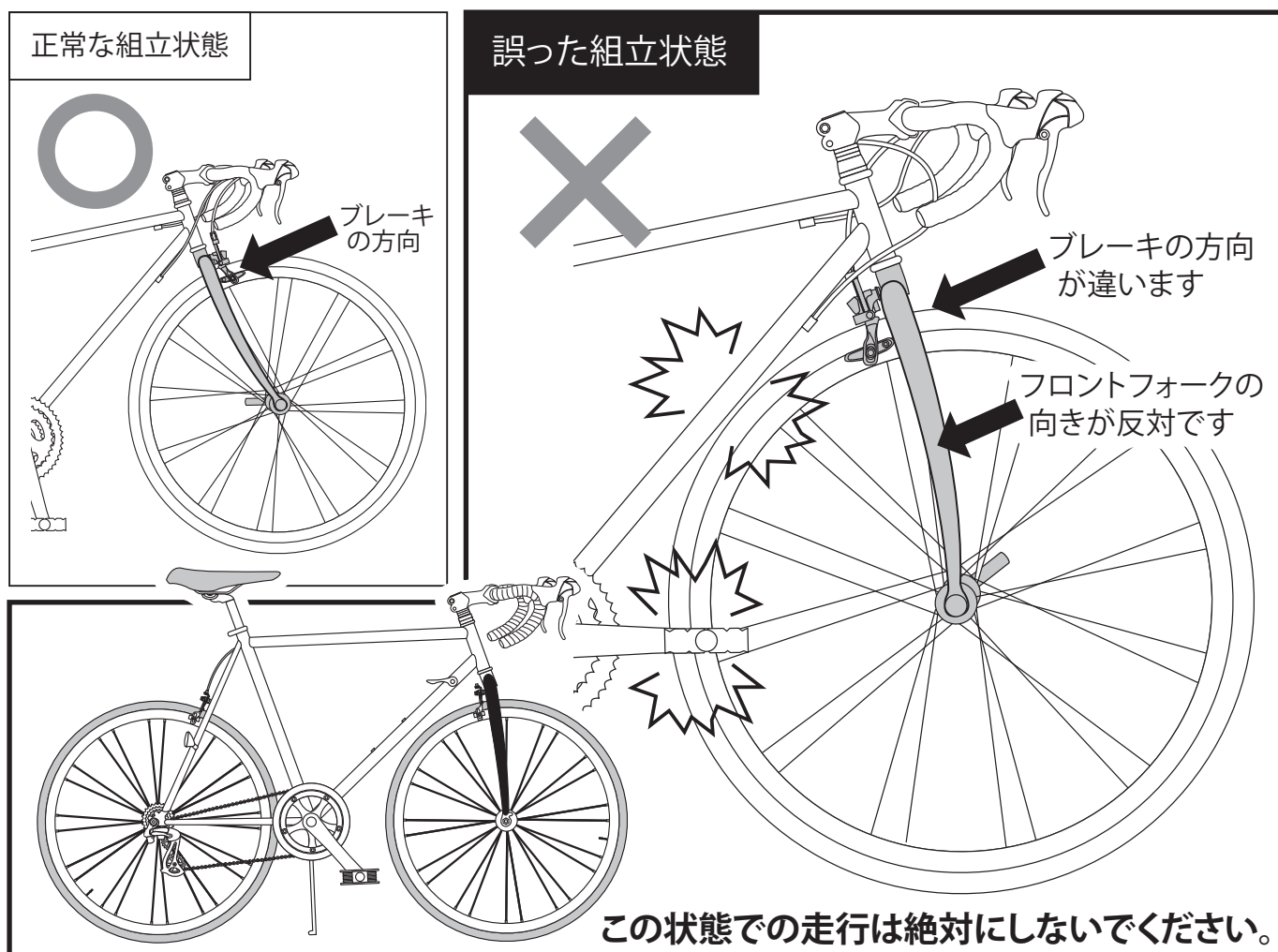
※到着時点では「梱包材」が破損している場合がございます。梱包材は必要ないものとなりますので、商品に異常がなければそのまま廃棄してください。

前輪の取付について (必ずご確認ください)

一部の車種において、フロントフォークの向きを逆向きにして梱包している車種があります。

フロントフォークが逆さまの向きですと、前輪を取り付けたときにフレームやペダルに接触する可能性があり大変危険です。

必ずフロントフォークを正常な向きに直してから、組立を始めてください。この時にブレーキを外す必要はございません。



組立前のご確認

仏式バルブの空気の入れ方(使用方法)

自転車の種類により、スポーツ車によく使用される仏式バルブを採用しております。仏式バルブに空気を入れる際には専用の空気入れが必要です。(仏式バルブタイプのチューブは通常のチューブよりも高い空気圧を必要とする場合が多いため、空気圧計付きのタイプをおすすめします。)

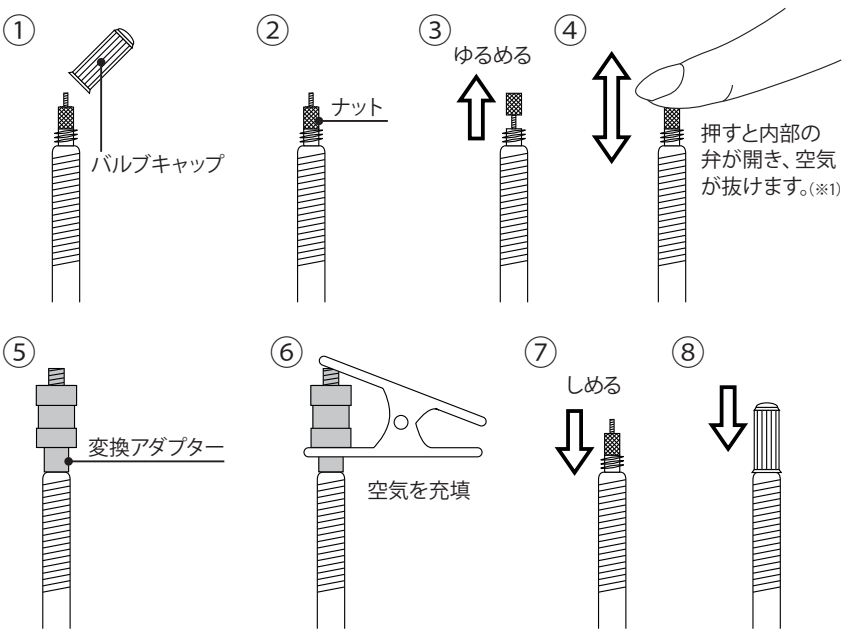
ただし、お手元に専用空気入れがない場合はバルブ変換アダプターを使用することにより英式バルブ用の空気入れを使用することができます。(変換アダプターを使用した場合、指定の空気圧に満たない場合もあるので注意が必要です。)

極端に空気圧が低いタイヤに空気を注入する際は、一度に膨らませずにタイヤを揉んで馴染ませながら少しずつ空気を入れてください。
※チューブがタイヤとリムの間に挟まり破裂(バースト)を起こしたりタイヤの一部からチューブがはみ出して異常な膨らみを起こすという症状を防ぎます。

変換アダプターの使い方

- ①バルブキャップを外します。
- ②先端にナットがついています。
- ③ナットをゆるめます。
- ④ナットの先端部を数回押します。(この作業により、内部の弁が開き空気を入れることが可能になります。ナットを押すたび空気が抜けることを確認してください。)
- ⑤変換アダプターを取付けます。
- ⑥しっかりと空気を入れてください。
- ⑦空気を入れたあと、ナットをしっかりと締めてください。
- ⑧バルブキャップをはめてください。

■変換アダプター 仏式バルブ仕様車には普通タイプ(英式バルブ)用の空気入れが使用できるよう、変換アダプターが付属しています。取扱説明書の入っている袋の中、もしくは車輪本体に「1つ」付属しており、前後付け替えて、使用するものとなります。

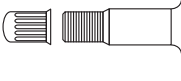
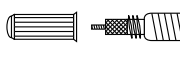
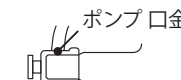


(※1)このとき、空気が抜けない場合は弁が引っかかっている可能性があります。先端が折れないよう気をつけながら少しだけ左右に揺らしてください。

タイヤの取扱・バルブの種類について

バルブの形式と空気の入れ方

ご購入いただいた自転車のバルブの種類をご確認ください。バルブの形式には「英式」「米式」「仏式」があります。また、ポンプの口金形式はメーカーによって異なりますのでご注意ください。

英式	米式	仏式(変換アダプターの項を参照)
 ブランジャ		
 ポンプ口金	 ポンプ口金	 ポンプ口金
●キャップを外しポンプの口金をブランジャに押し付けて空気を入れる。 ●空気圧を確認後、口金を外してキャップを付ける。	●キャップを外しボディにポンプの口金をはめて空気を入れる。 ●空気圧を確認後、口金を外してキャップを付ける。	●キャップを外し、先端のナットをゆるめます。ナットを数回押し空気の抜けを確認する。ポンプの口金をはめ込み、空気を入れる。 ●空気圧を確認後口金を外し、しっかりとナットをしめ込みキャップを付ける。

タイヤの空気圧について

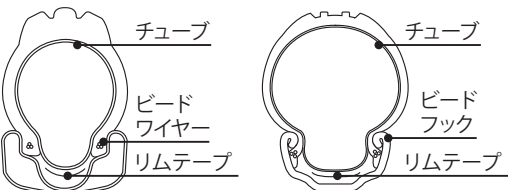
タイヤの空気圧が少ないと、接地面積が広がって抵抗が大きくなるほか、パンクやタイヤ・リムの損傷の原因になります。タイヤに表示されている空気圧の範囲でご使用ください。

表示例・・[○○○kPa、○○kgf/cm²、○○PSI]
(注)換算率・・・1kPa=0.01kgf/cm²=0.145PSI

※タイヤゲージがない場合は自転車に乗車した接地長で判断してください。接地面9～10cm程度が一般的な目安となります。

WOタイヤとHEタイヤ

- WOタイヤ ビードワイヤーがリムの全長より短く、その張力で固定するタイプ。
- HEタイヤ ビードフックという引っかかりで固定するタイプ。



自転車の組立

前輪の組付方法

前輪を取り付けして頂く車種をご購入の方はこちらをご覧ください。

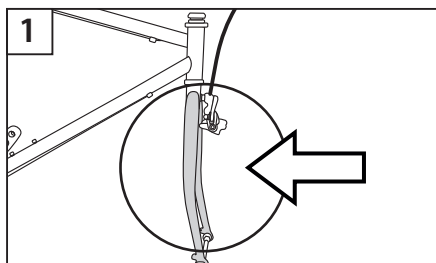
⚠ 警告

クイックリリースの取扱い方法を必ずご確認ください。

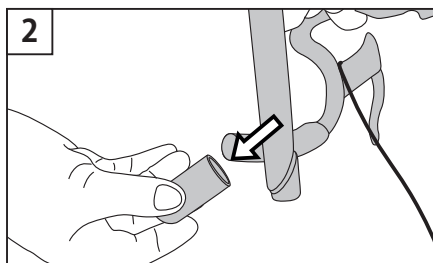
クイックリリースは工具を必要とせず、ワンタッチで車輪をはずせる便利な機構ですが、調整と締め付け力が適切でないと、走行中にホイールがゆるんだり外れたりし、重大な事故に繋がる恐れがあり非常に危険です。

乗車前にはクイックリリースの構造と取扱い方を理解した上で、必ずきちんと取り付けされているか確認のうえご乗車ください。

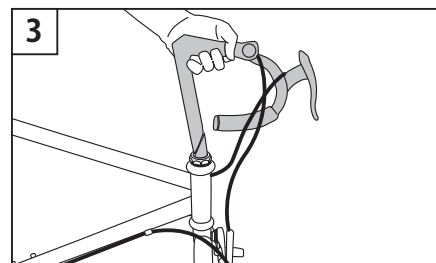
ディスクブレーキの車種は P11 もご参照ください



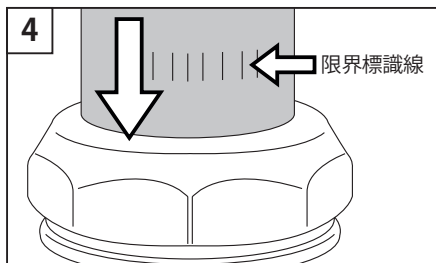
5ページを参照にフロントフォークの向きをご確認ください。



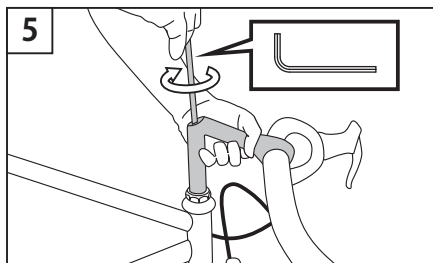
ハンドルの下部に付いているキャップ等は取り外してください。



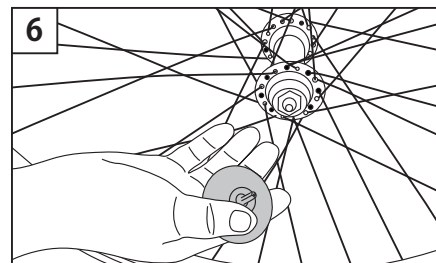
組立時にハンドルが当たって傷つかないようにハンドルを仮止めます。



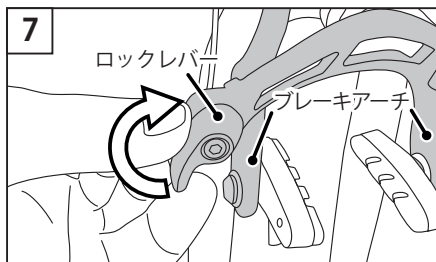
ハンドルは限界標識線が見えない位置まで差し込んでください。



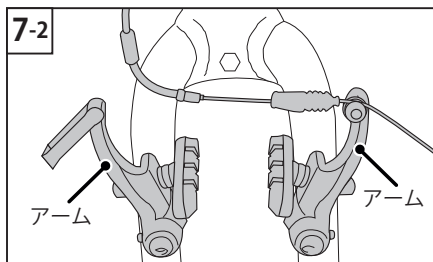
図の工具(付属の6mm六角レンチ)でハンドルを仮止めてください。※ハンドルの形状はイラストと違う場合があります。



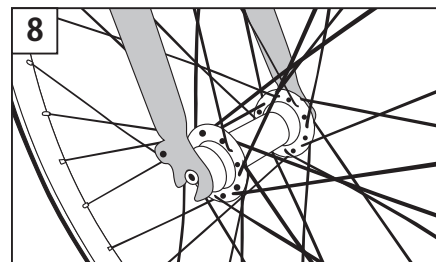
前車輪の樹脂キャップを取り外してください。キャップの芯の部分が中に残らないよう、引き抜くように外します。



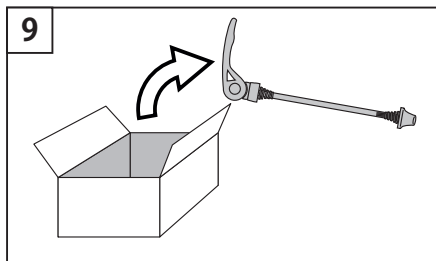
[キャリパーブレーキの場合]ブレーキのロックレバーを図の方向に回して解除してください。ブレーキアーチが外方向に少し開きます。



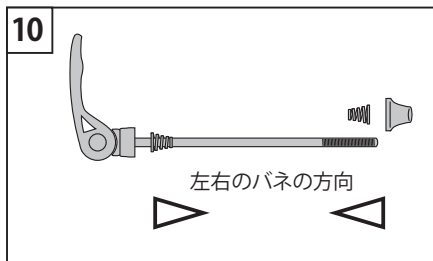
[Vブレーキの場合]ブレーキの両アームを中央に寄せながらブレーキケーブルを引き上げブレーキを開放してください。開放せずにはめられるもの場合は開放の必要はございません。



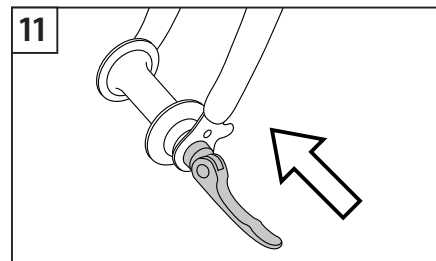
フロントフォークに車輪の軸部を引っ掛けるように載せてください。軸部の一番外側の部分のみが引っ掛かります。



付属している小箱からクイックリリースレバーを取り出してください。



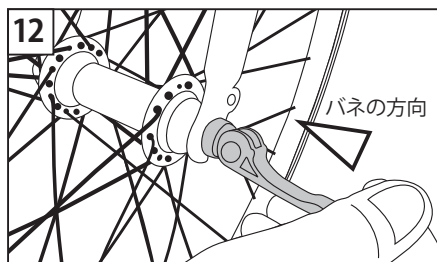
クイックリリースレバーの構成は図のようになっています。左右のバネの方向にご注意ください。



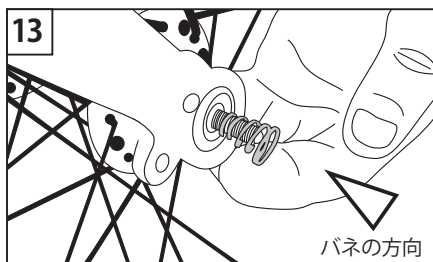
クイックリリースレバーを自転車の左側(自転車に向かって右側)から差し込んでください。(バネの方向に注意してください。)
※ディスクブレーキを採用している車種はレバー部分が進行方向の右側にくるようにセッティングして頂く事を推奨致します。

自転車の組立

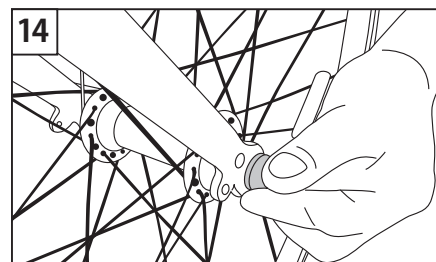
前輪の組付方法-つづき



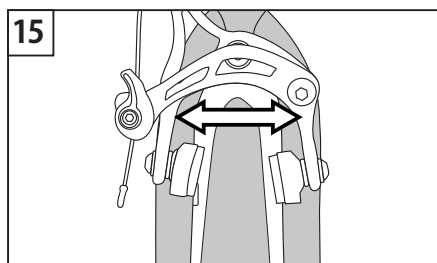
レバーを図のような角度に保ちながら、反対側にバネ・ナットを入れていきます。



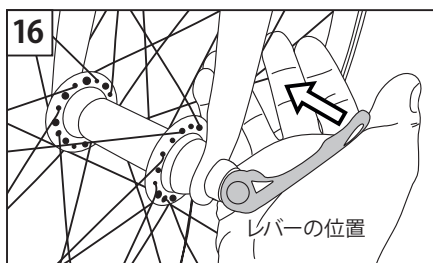
フロントフォークの右側から方向に注意してバネを入れてください。



さらに、ナットを指先で締められるところまで締めてください。

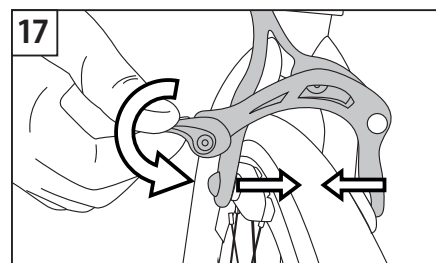


タイヤがフロントフォークの中心になるように車輪をセットしてください。

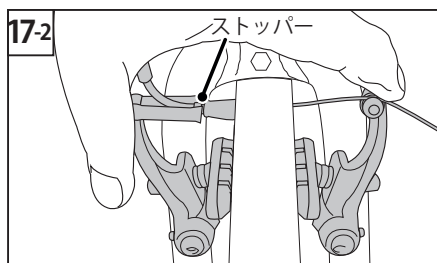


レバーを内側に倒し、車輪がしっかりと取付けられているか確認してください。もし緩かったりレバーを倒すのが固かった場合はナットの締め具合(緩める、締める)で調整してください。レバーはフロントフォークに沿わせるようにセットしてください。

※クイックリリースハブは絶対にレバーを回して締め付けしないでください。回して締め付けると十分な固定力が得られず走行中に車輪が外れて事故・けがのおそれがあり非常に危険です。



[キャリパーブレーキの場合]ブレーキのロックレバーを矢印方向に戻してください。レバーが戻らない場合はブレーキ本体を両側から押さえブレーキがかかる状態にするとロックが掛けやすくなります。



[Vブレーキの場合]ブレーキの両アームを中央に寄せながらブレーキケーブルをストッパーに引っ掛けてください。

ディスクブレーキの車種は次ページもご参照ください



注意

これまでの手順で前車輪が取り付けられましたが、ハンドル(変速レバーを取り付けてください)はまだ仮固定の状態です。**必ずハンドルをしっかりと締めて(20N・m)ください。**

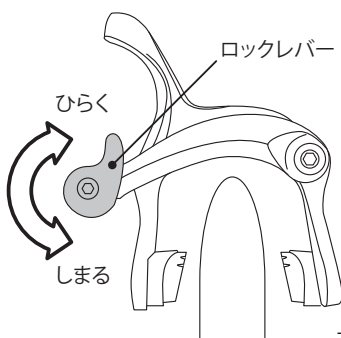


注意

乗車前には必ずクイックレバーが固定されている事をご確認ください。乗車時の振動等で緩みが発生し、固定力が弱くなると乗車中に車輪が外れる可能性があります大変危険です。

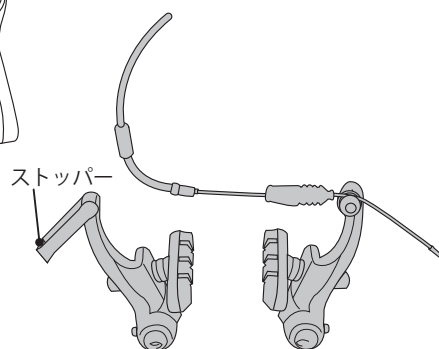
キャリパーブレーキのロック解除

車輪を取り外すときは、ブレーキのロックレバーを開いて取り外してください。
車輪を装着したときは、ロックレバーをしっかり閉めてください。



Vブレーキの開放

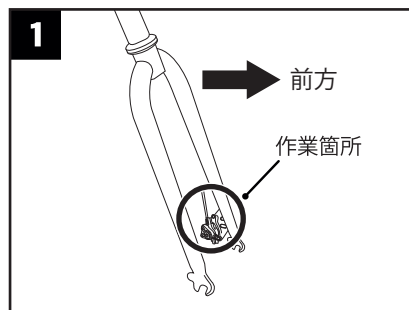
車輪を取り外すときは、ブレーキを開放して取り外してください。
車輪を装着したときは、ブレーキケーブルをストッパーに引っ掛けてください。



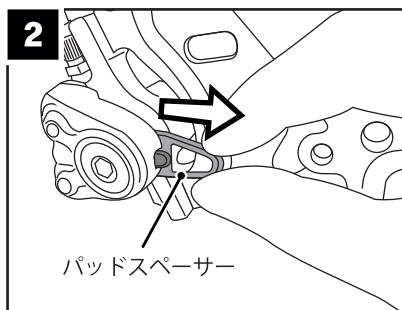
自転車の組立

ディスクブレーキ車種の前輪取付け

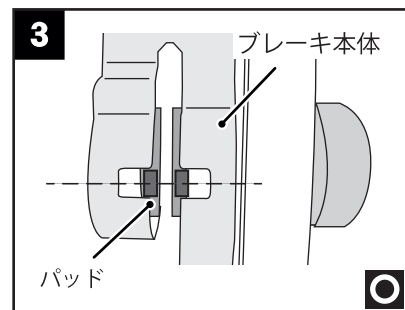
ディスクブレーキは、作業工程でP9-P10とは異なる作業が必要です。P9-P10と併用して正しく取付けを行ってください。



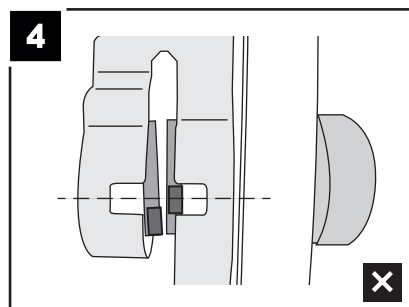
自転車本体の前後に付属するディスクブレーキについての確認作業です。



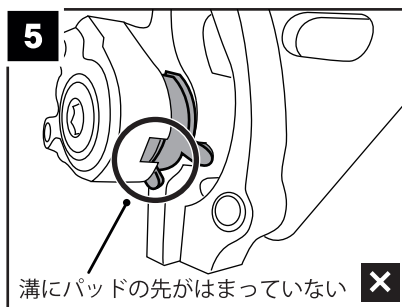
はじめにディスクブレーキ本体に挟まっているパッドスペーサーを引き抜きます。
※注意 スペーサーとピンを間違えないように!(下図参照)



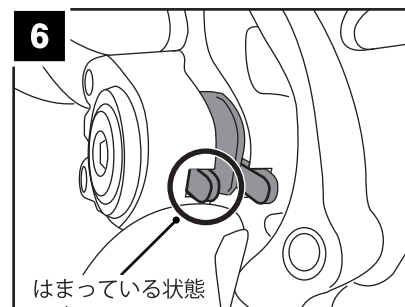
パッドが正常にはまっているか確認します。この状態は前輪の取付作業が可能です。



片方のパッドがずれている状態です。このままでは前輪を取付不可能です。



溝にパッドの先がはまっていない
ブレーキの溝にパッド先端の凸部がはまりきらず、パッド同士がずれている状態です。



4や5の場合、凸部を指で押し上げ、溝の奥にカッチリとはまるようにセットします。

3 の状態が確認できたら、次に車輪を取り付けます。

取付の際はキャリパー（ブレーキ本体）とローターが当たらない様に注意して取り付けてください。

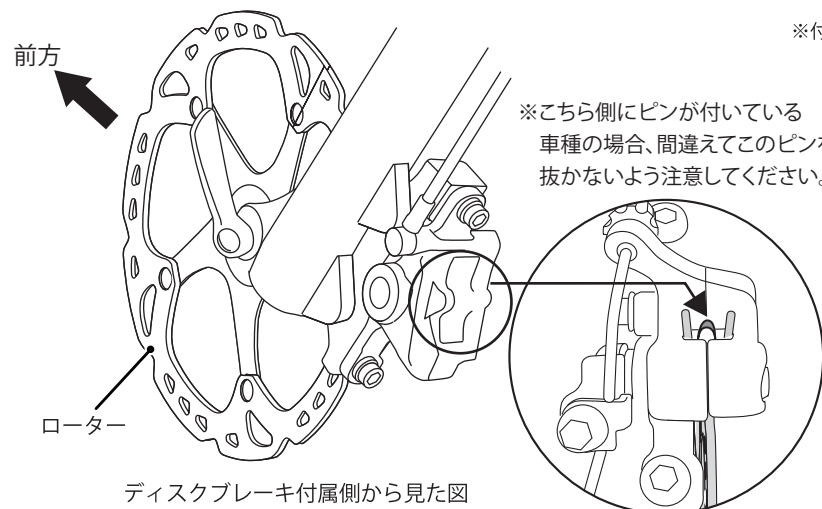
尚、キャリパーとローターが擦れて、車輪が回らなかつたり、回転が重たい場合はキャリパーとローターが接触しない位置になる様に固定し直してください。

前輪がクイックハブ式の場合は取扱説明書の「9-10P」を参照いただき、前車輪がフロントフォークの中心になる様に取り付けてください。

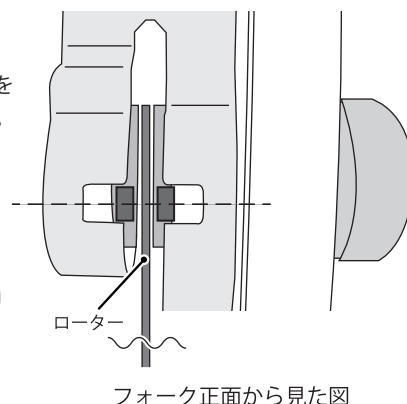
ディスクブレーキの車種は、車輪を取り付けるためのクイックリリースのレバーがブレーキのローター部と干渉してしまうと大変危険です。

ディスクブレーキを採用している車種に関しましては、クイックリリースのレバー部が進行方向の右側にくるようにセッティングして頂く事を推奨致します。

乗車中にレバーが緩み、ローターに干渉すると非常に危険なため、乗車時には必ず緩みが無いかを確認してください。



※付属するディスクブレーキの形状は車種により異なります。



フォーク正面から見た図

自転車の組立

フレーム組立の手順

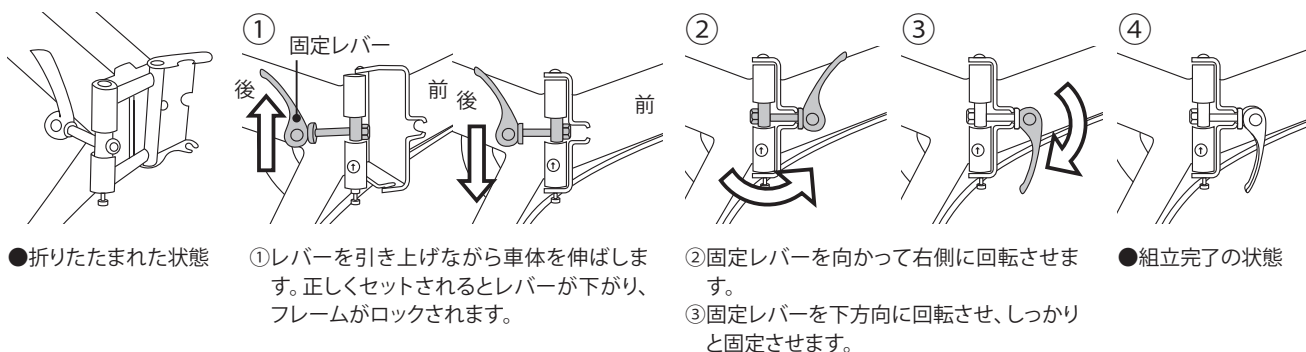
自転車本体を箱から出し、梱包材を全て取り外してください。

折りたたみ自転車は、まずフレームの組み立てから行ってください。フレーム組み立て後、スタンドを立てると自立します。

※図の自転車は代表車種です。実際のものとは仕様が異なる場合があります。折りたたむ場合は逆の手順で行ってください。

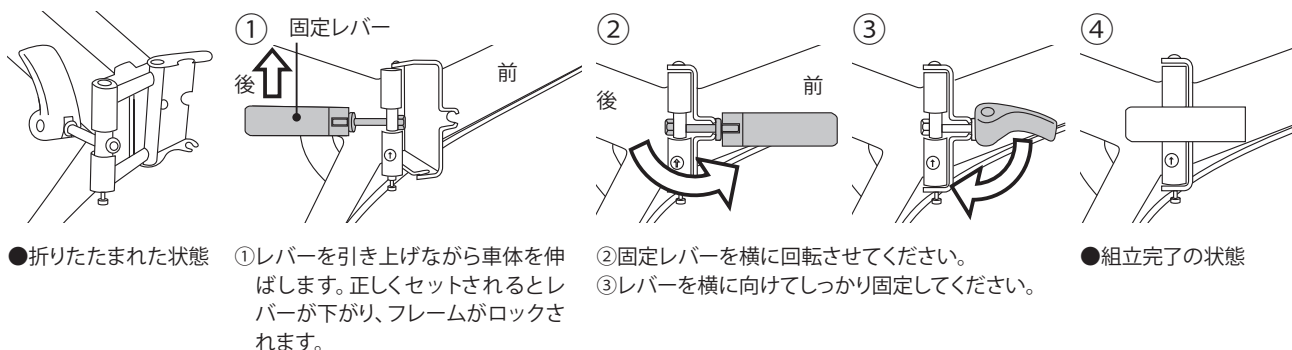
下方向でロックするタイプ

※ギヤ側真横からフレームを見た図



横方向でロックするタイプ

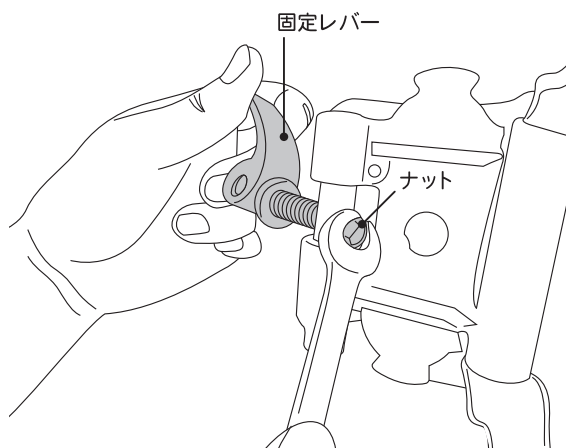
※ギヤ側真横からフレームを見た図



折りたたみレバーが固い、またはゆるすぎる時

レバーの固さが適正でないと、走行中にゆるんだり外れる可能性があります。大変危険です。レバーの固さは、ナットで調整することができます。調整とれない、緩くなりすぎるような場合はサポートセンターまでご連絡ください。

レバー稼働部に潤滑性の油を差すことで、動きがスムーズになり、強度も増します。(潤滑油は商品に付属していません。)



⚠ 注意

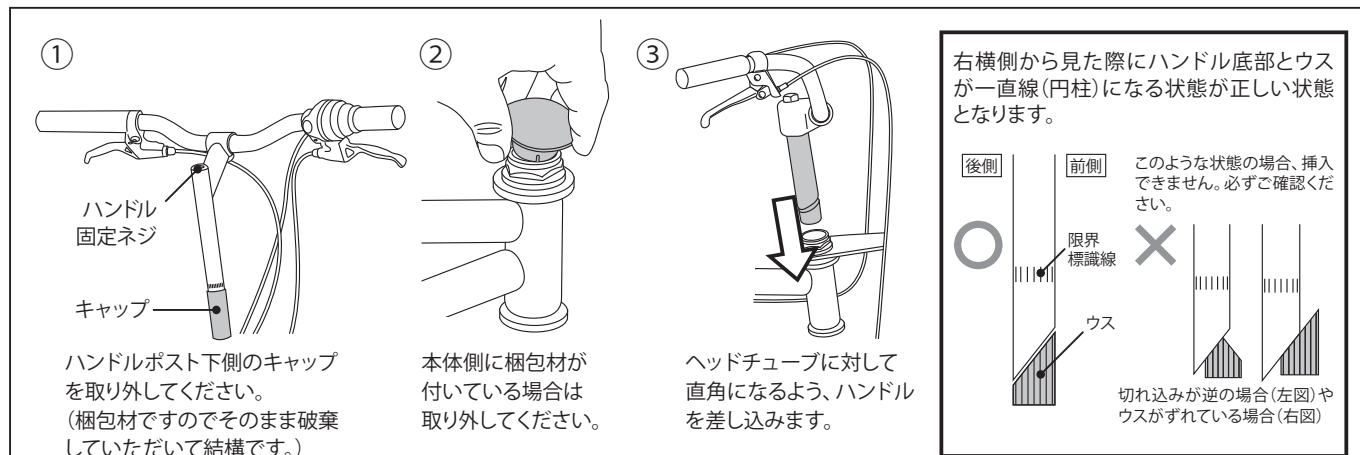
乗車する際には毎回、固定レバーが確実にロックされているか確認してください。

ハンドルの向きに気をつけて、ブレーキワイヤー(変速機能があれば変速ワイヤーも含む)がハンドルの前側になるようにハンドルを差し込んでください。ワイヤーが絡んだり、巻きついている場合は、ハンドルを回転させたり、ハンドルを抜いて正常な状態になるように差し直してください。

自転車の組立

ハンドルの固定方法（ボルト固定）

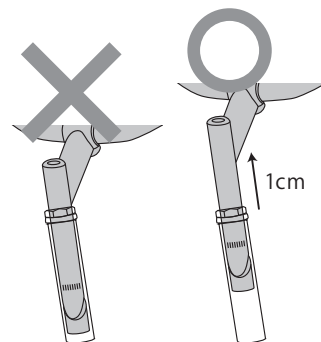
同じ箇所にあるボルトの役目が違うため、お客様の自転車が下図と同じような構造であることを確認してから作業をはじめてください。
※アヘッドタイプの車種はクランプボルトを使用して固定します。（アヘッドステム車のページをご参照ください。）



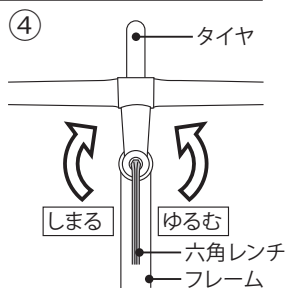
⚠ 注意

ハンドルポストは**境界標識線が隠れる位置まで必ず差し込んでください**。（境界標識線が見える状態で固定すると、破損の原因に繋がる可能性があります。境界標識線が見える位置で固定して破損した場合は組立方法に起因する不具合となり保証対象外となります。）
[保証規定B-2]

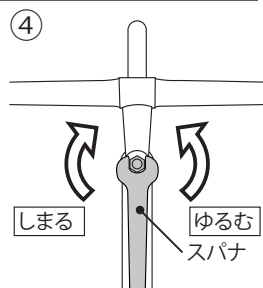
ハンドルポストは一番下げた状態にしないでください。（右図参照）
ハンドルポストを一番下まで下げた状態で固定すると、固定力が弱まる場合があります。一番下までは下げず、底から1cmほど上げた位置で固定してください。ただし、境界標識線を越えない（見えるところまで上げない）ようご注意ください。



ボルト固定タイプ



ナット固定タイプ



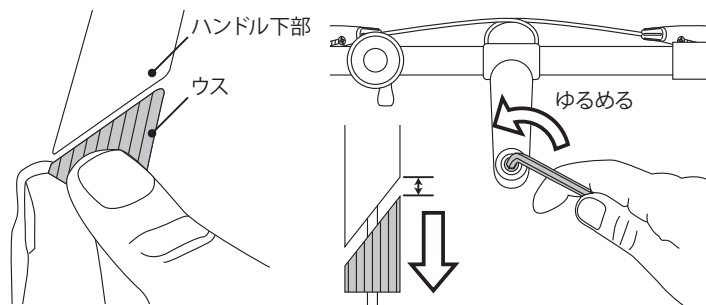
上から見た図

ハンドル固定ネジは
●六角レンチを使用するもの
●ボルト状でスパナを使用して固定するもの
など、車種により仕様が異なります。
車種にあわせた工具をご使用ください。

ハンドル固定ボルトを右回し（時計回り）に回してハンドルを固定します。
走行時にハンドルが動くと大変危険ですので、ハンドル固定ネジはしっかりと締めていただくようお願い致します。

ハンドルが差し込みにくいときは

ウスを手で押さえながら、ハンドル固定ネジを左回し（反時計回り）に回してウスの位置を下げてください。
ウスとハンドル下部の間に空き、ハンドルを差し込みやすくなります。

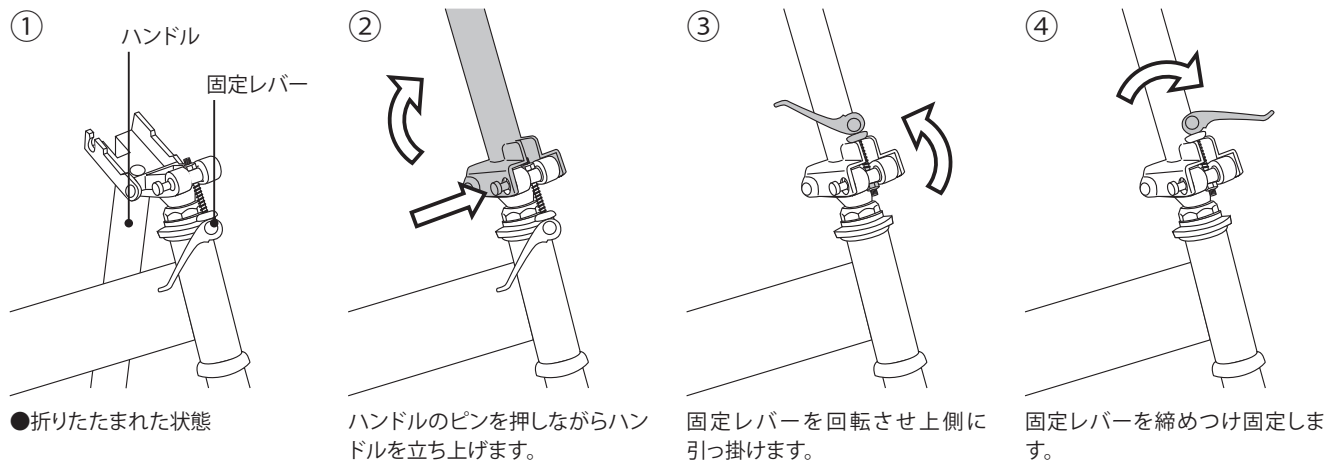


自転車の組立

ハンドルの取付・組立方法

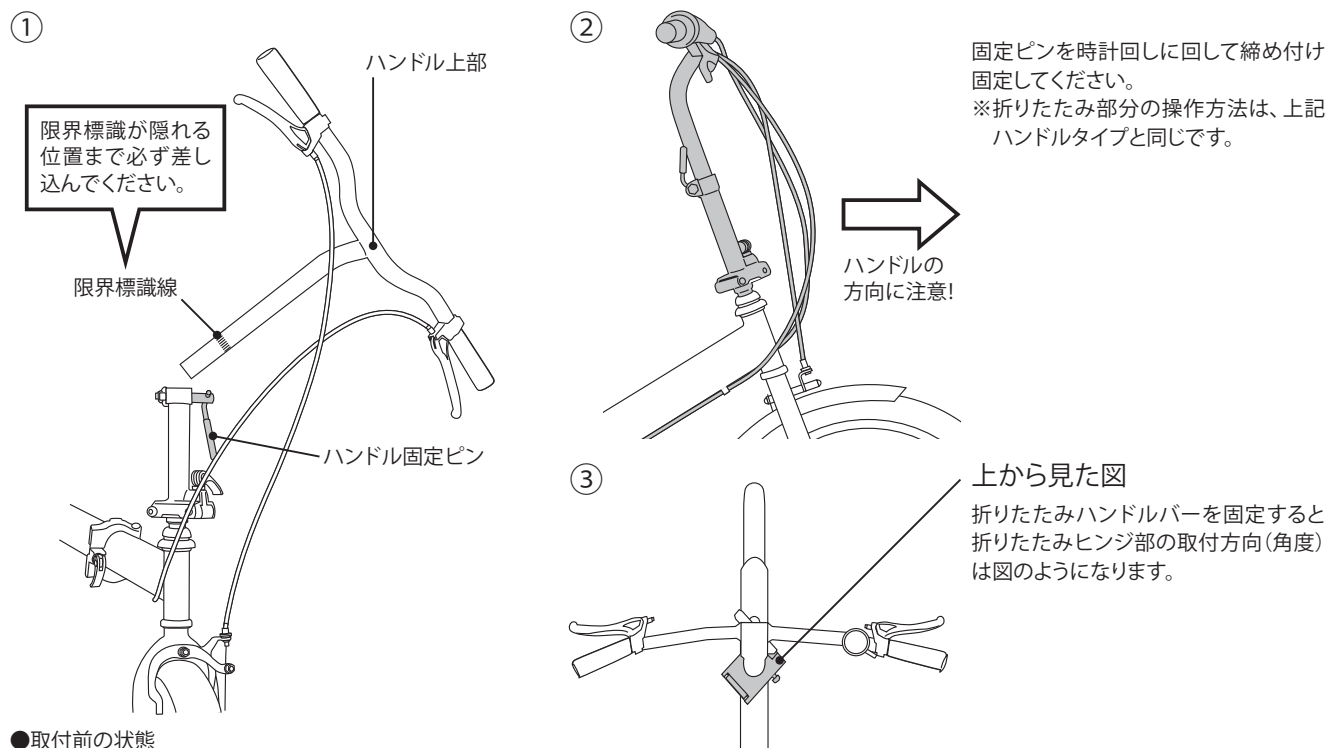
折りたたみハンドルタイプ

※折りたたみハンドルタイプは、ハンドルの高さ調整はできません。



接続折りたたみハンドルタイプ

※ハンドルから出ているワイヤーが、全てハンドルとフレームの前側になるようにハンドルを差し込んでください。(変速機付の自転車は変速ワイヤーも同様です。)



⚠ 注意

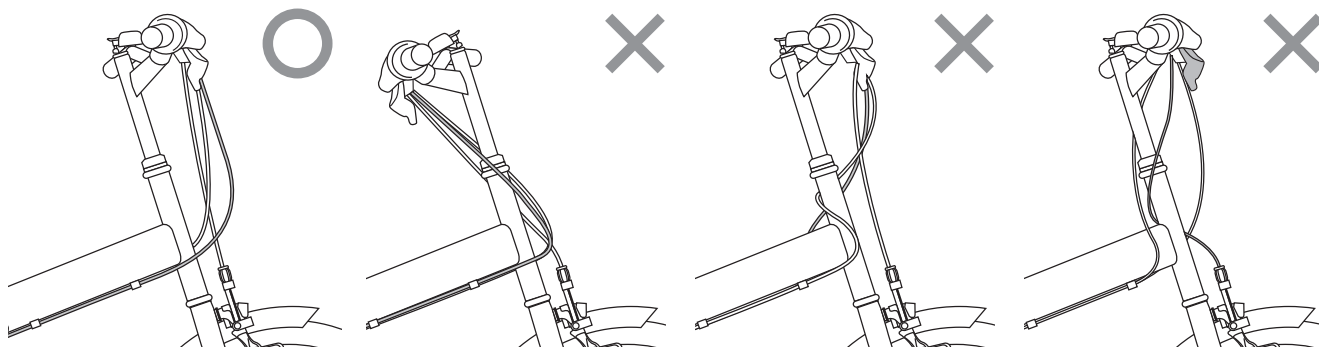
乗車する際には毎回、ハンドルの固定確認を行い、各部のガタ・ゆるみがないか、確実に固定されているか確認してください。
ガタ・ゆるみのある場合や、固定されていない場合は、再度締め付けを行ってください。

自転車の組立

ハンドルの固定方法 (ボルト固定・レバー固定・ナット固定)-つづき

ワイヤー類の取回しについて

ブレーキワイヤーやシフトワイヤーが車体やワイヤー同士等に絡み合わないようご注意ください。ワイヤーに不自然な絡まりがあると、内部インナーに干渉し作動時の動きを妨げる事になり正常な動作が行われなため大変危険です。



組立後に

「後輪が重たい」

「変速しない」

等の調整不具合時、ハンドルの差し込み時にワイヤーが絡んでいる事が原因となっている事があります。折れや曲がり等の負担がかかると内部のワイヤーが正常に動かない為、ブレーキがかかりっぱなしになったり、握ったレバーが戻らない、変速しない等の症状があらわれます。

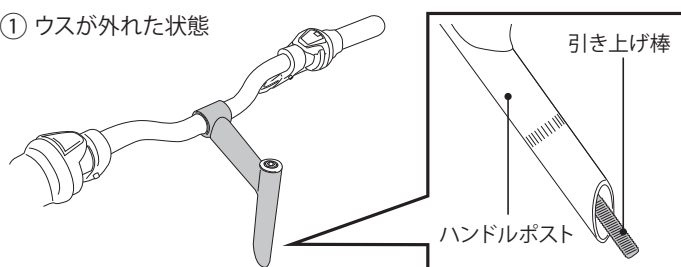
このような症状が見られる際は、ハンドルの取付時のワイヤー類の絡みを確認し、絡まりが見られる時は、一旦ハンドルを外す等の作業にて絡まりをほどいて再度組み付けて下さい。

ハンドルを固定できない場合の対処方法

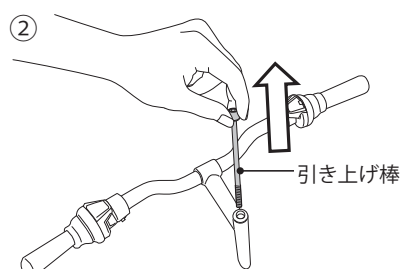
ハンドルが固定できない時の原因のひとつとして、ハンドルをゆるめて外した際に、ハンドル固定ネジをゆるめすぎるとウスが外れてヘッドチューブの中に残ってしまう(落ちてしまっている)ことがあります。

このような場合は、ハンドル引き上げ棒のみをステムから取り出し、狙いを定めてヘッドチューブに差し込み、ウスを取り出して下さい。

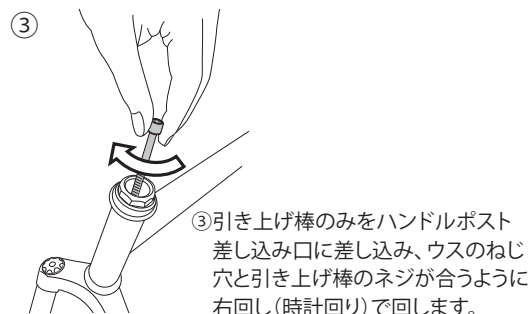
① ウスが外れた状態



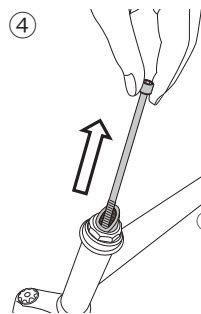
①ハンドルの引き上げ棒からウスが外れて固定ができない状態です。



②ハンドルポストから引き上げ棒を抜き取ります。引き上げ棒底部にはネジが切られています。



③引き上げ棒のみをハンドルポスト差し込み口に差し込み、ウスのねじ穴と引き上げ棒のネジが合うように右回り(時計回り)で回します。



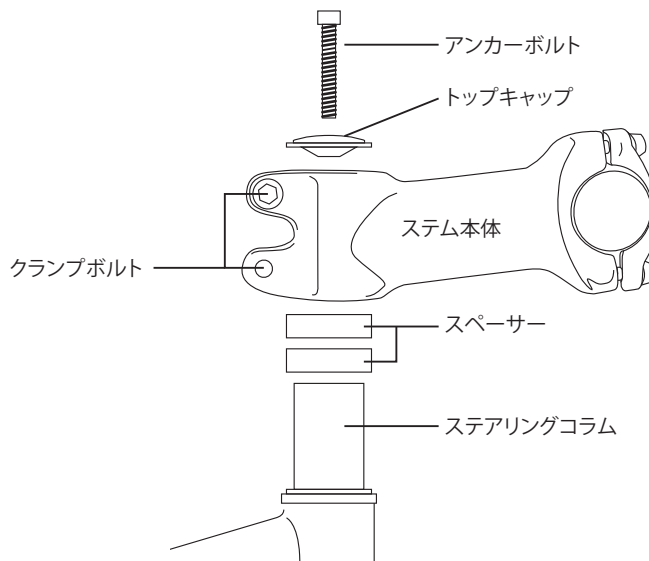
④ウスが捕まえられたら、引き上げ棒を引き上げてウスを取り出します。ウスを取り出した後引き上げ棒を取り外し、再度ハンドルポストを通した状態でウスを引き上げ棒の底面に取り付け、ハンドル固定の作業に入ってください。

自転車の組立

ハンドルの固定方法 (アヘッドステム)

アヘッドステム

弊社自転車ではアヘッドタイプのステムを使用している車種がございます。
アヘッドタイプは、通常の自転車のステムとは構造が異なりますので、下記注意事項をお読みになり、充分に理解したうえで組み付けして頂くようお願い致します。



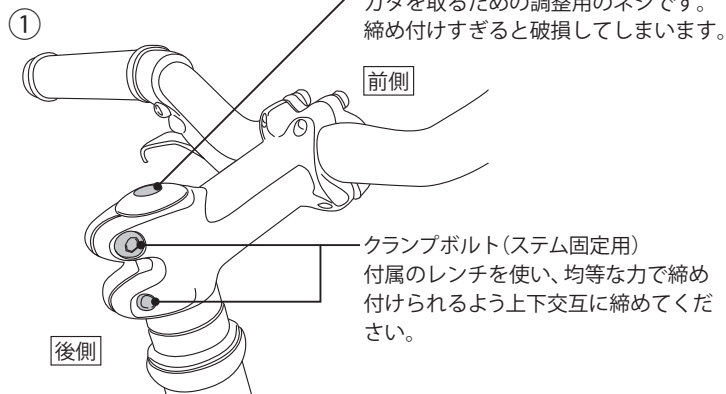
図は代表車種です

⚠ 重要

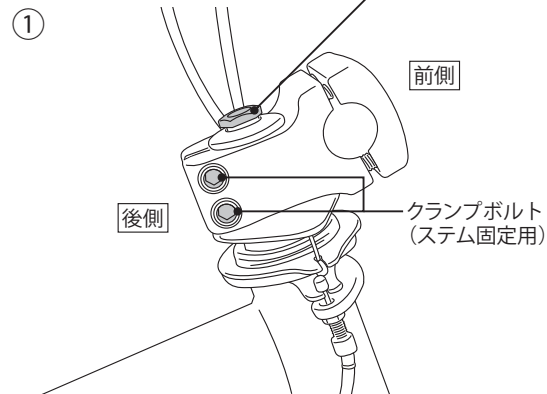
注意点

- ・上下のクランプボルトは均一に力がかかるように注意して下さい。
締め付け具合にバラツキがあると、ネジ穴の損傷や不完全な固定の原因となり大変危険です。
 - ・ハンドルを固定する為のネジは「クランプボルト」となります。
上部にあるアンカーボルトは、商品にガタがあったときのみ使用する調整用のネジです。
アンカーボルトは締め付け過ぎると破損してハンドルが固定できなくなります。
絶対に締め付け過ぎないように注意してください。
 - ・締め過ぎが原因による破損は保証対象外となります。
部品代金、修理代金が有償となりますのでご注意ください。[保証規定 B-2]
- アンカーボルトを締めすぎると、ヘッドが重くなり、更に締め過ぎるとトップキャップや、中にあるスターファングルナットが破損するおそれがありますので、絶対に締め過ぎないようにご注意ください。
締め付けトルク目安：2.5N・m (25Kgf/cm)
- ・アンカーボルト調整をするときは、必ずクランプボルトを緩めてから作業してください。
(作業後は必ず緩めたクランプボルトを再び締めてください)

スポーツタイプ



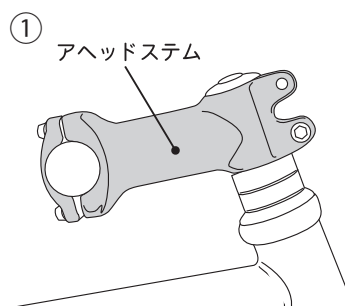
BMXタイプ



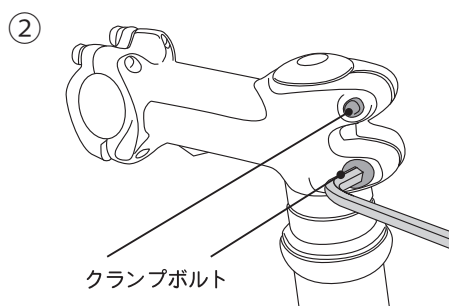
自転車の組立

ハンドルの固定方法 (アヘッドステム)- つづき

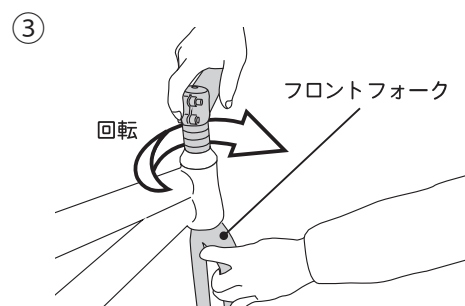
フロントフォークが逆向きについてあるものと、アヘッドステムのみが逆向きについているものと、商品の梱包形態により作業が違います。



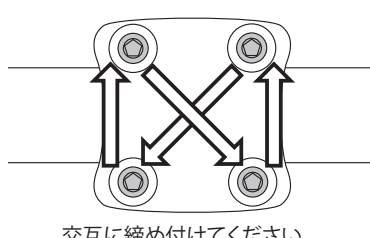
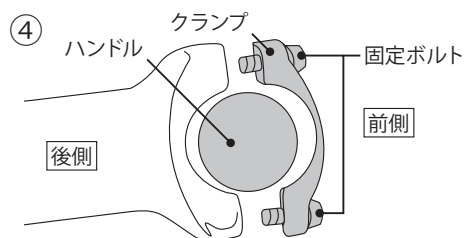
①箱から出した状態はアヘッドステムが反対向きとなっている車種もあります。



②図の位置のクランプボルトを付属の六角レンチを使用して、アヘッドステムが手で動かせる程度に緩めます。

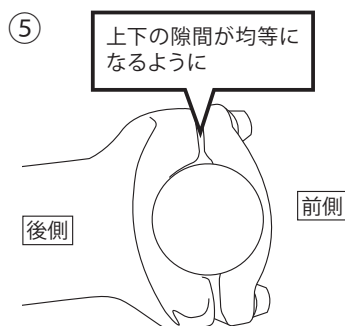


③フロントフォークを押さえたままアヘッドステムを前方に回転させます。

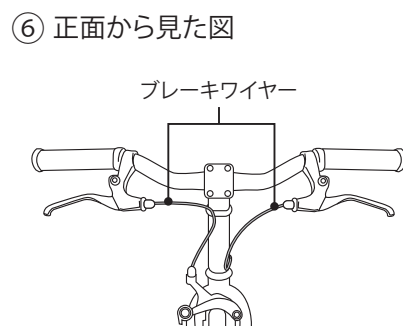


④ハンドルバー固定用ボルトを左回し(反時計回り)に回してクランプを取り外しハンドルバーを取り付けます。この際、ボルトは交互に均等に締め付けてください。

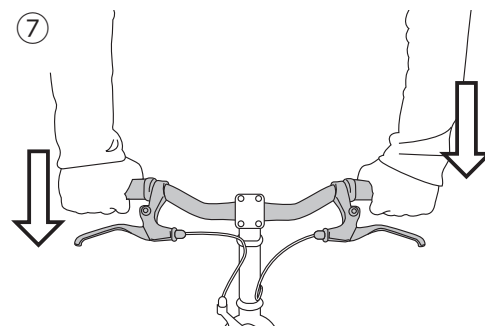
※必ず垂直にボルトを締め付けてください。斜めに取り付けるとネジ山を破損する場合があります。



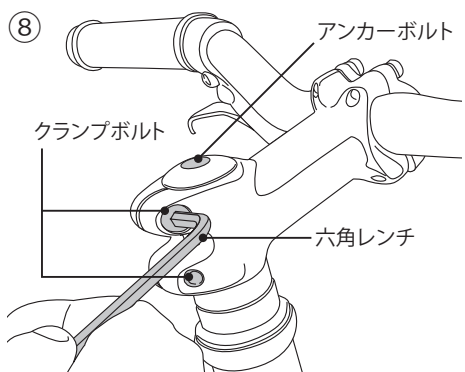
⑤上下の隙間が均等になるように注意して締め付けてください。



⑥ハンドルバーを固定する際はワイヤー類(ブレーキワイヤー・変速ワイヤー)に絡まりが無いことを確認してください。



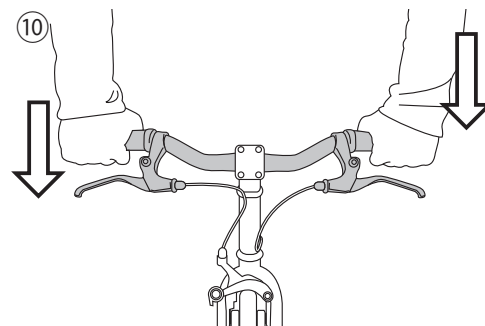
⑦両手で下向きに強い力を加えてもハンドルバーが回転しないことを確認してください。



⑧縦に2本並んでいるクランプボルトを交互に締め付け、ハンドルステムを固定します。



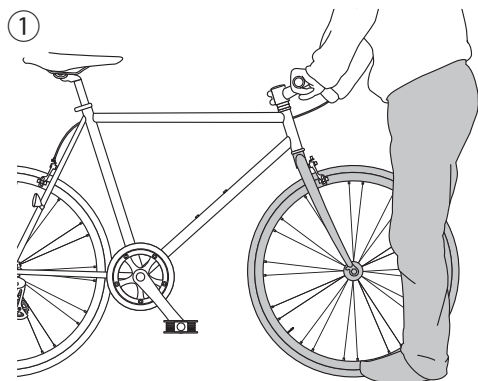
⑨ハンドル固定と同様に、隙間が均等になるように注意して締め付けてください。



⑩ハンドルにしっかりと固定されているか、ハンドル取り付けにガタがないかを確認してください。ハンドルにガタがある場合は、クランプボルトをゆるめた状態にしてから、上部アンカーボルトを締め込んで調整してください。調整後は緩めたクランプボルトを締め直してください。

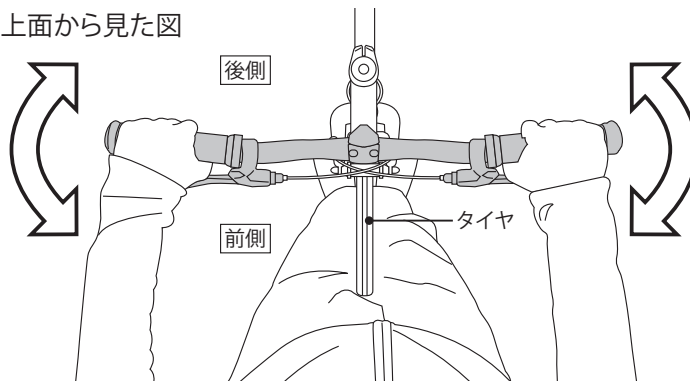
自転車の組立

ハンドルポスの固定確認

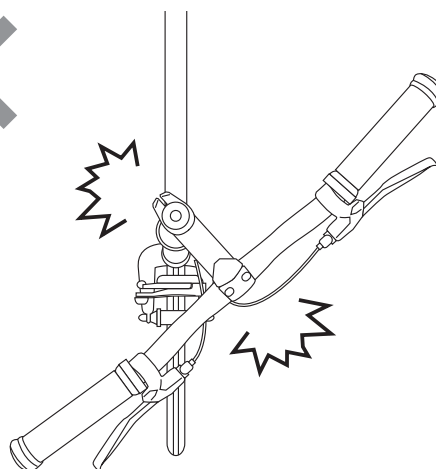
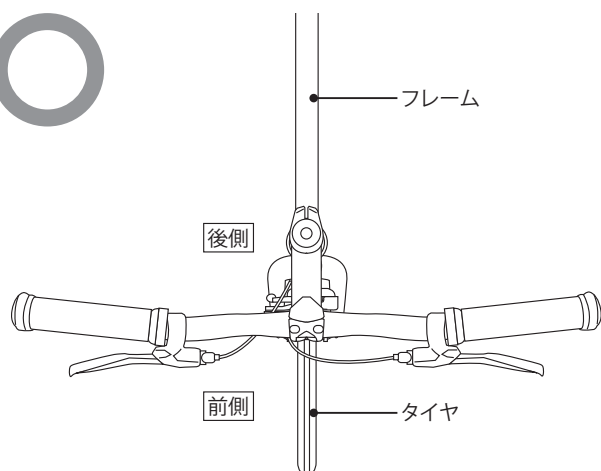


①車輪を両足でしっかりと挟んでください。

② 上面から見た図

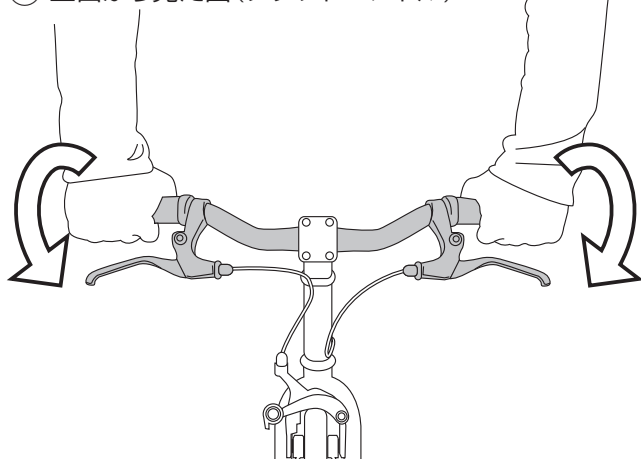


②車輪を両足で挟んだまま、前輪が動かないか矢印のようにハンドルを切ってください。

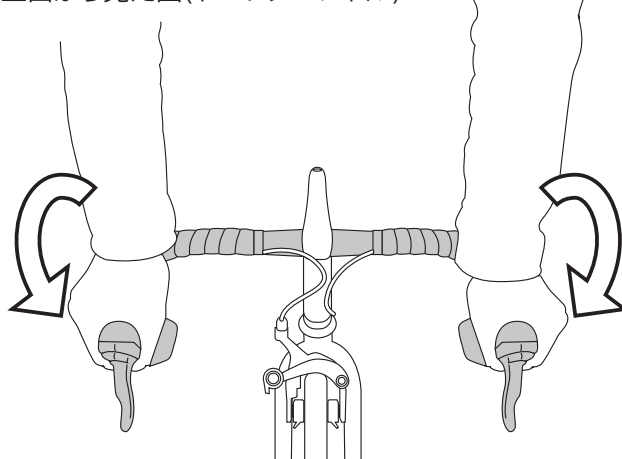


ハンドルバーが横を向いてしまったり、上下にガタつきがある場合は、しっかり固定がされていない**非常に危険な状態**です。動かないよう確実に固定し直してください。

③ 正面から見た図(フラットハンドル)



正面から見た図(ドロップハンドル)



③ハンドルバーを取り付けたタイプは、ワイヤー類(ブレーキワイヤー・変速ワイヤー)に絡まりがないことを確認し、ハンドルバーを中心にボルトをしっかり固定したあと、図のように両手で下向きに力を加えてもハンドルバーが回転しないことを確認してください。

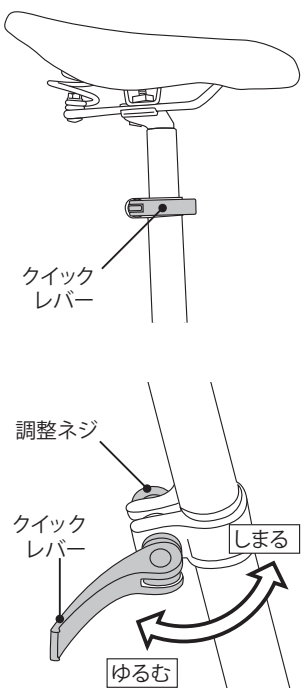
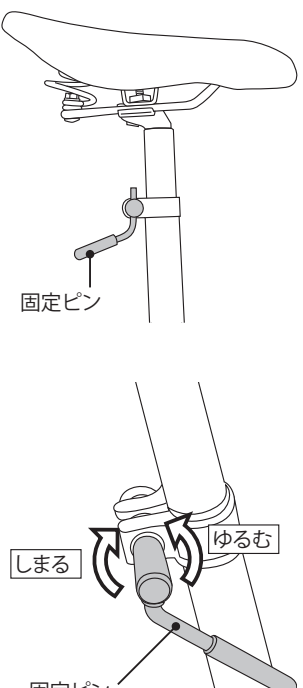
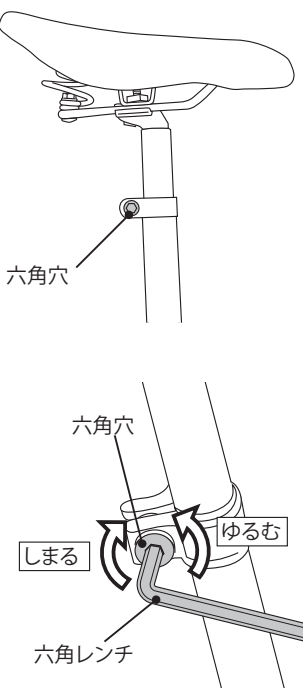
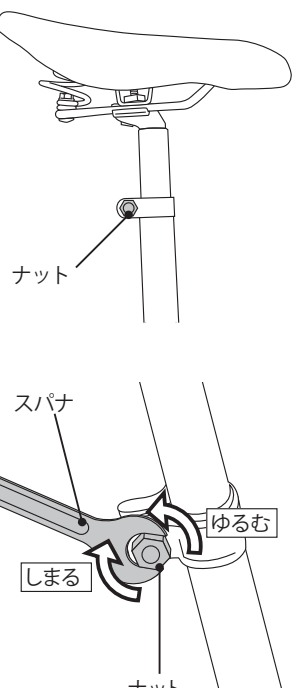
⚠ 注意

乗車する際には毎回、ハンドルの固定確認を行い、各部のガタ・ゆるみがないか、確実に固定されているか確認してください。
ガタ・ゆるみのある場合や、固定されていない場合は、再度締め付けを行ってください。

自転車の組立

サドルの高さ調整

サドル下のシートピンの形状によって締め付け方法・使用工具が異なります。お客様の自転車が下図といずれかと同じ構造であることを確認してから作業をはじめてください。

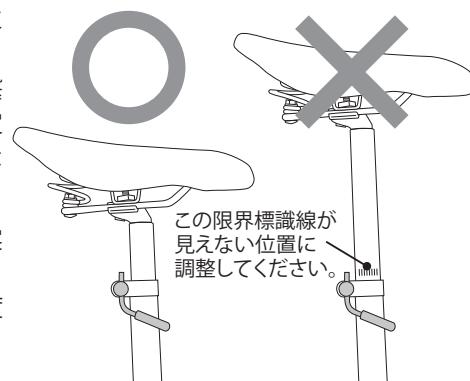
クイックレバータイプ	固定ピンタイプ	六角穴タイプ	ナットタイプ
 クイックレバーを「ゆるむ」の位置にしてください。サドルの高さを調整し、「しめる」の位置へ戻して固定してください。クイックレバーが硬すぎるもしくはゆるすぎる場合はレバー反対側の調整ネジを回して調整してください。	 シート固定ピンを左回り(反時計回り)に回してください。サドルの高さを調整し、シート固定ピンを右回り(時計回り)に回して固定してください。	 六角穴を六角レンチで左回り(反時計回り)に回してください。サドルの高さを調整し、六角レンチで右回り(時計回り)に回して固定してください。	 ナットをスパナで左回り(反時計回り)に回してください。サドルの高さを調整し、ナットをスパナで右回り(時計回り)に回して固定してください。

⚠ 注意

サドルを最も上げた状態でも限界標識線が隠れるようにしてください。限界標識線以上にシートポストを上げて乗車すると破損の恐れがあり、大変危険です。(限界標識線が見える状態で固定すると、破損の原因に繋がる可能性があります。限界標識線が見える位置で固定していて破損した場合は組立方法に起因する不具合となり保証対象外となります。[保証規定B-2])

乗車する際には毎回、各部のガタ・ゆるみがないか、確実に固定されているか確認してください。ガタ・ゆるみのある場合や、固定されていない場合は、再度締め付けてください。

サドルが固定しにくい際は、シートピンのネジ部に少量の油を塗布することで回しやすくなり、固定力が増します。



自転車の組立

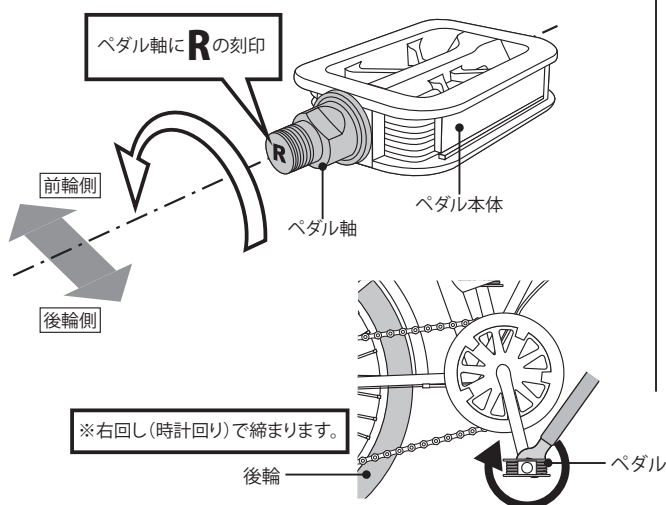
ペダルの取付方法 ※左右の取り付け間違いにご注意ください。

ペダルには右用(Rと刻印)と左用(Lと刻印)があります。

右側のペダルは右回し(通常のネジと同じく時計回り)になりますが、左側のペダルは走行中に脱落しないよう左回し(反時計回りにペダル軸を回転させて取り付ける)になっており、それぞれ取り付けの回転方向が異なります、ご注意ください。

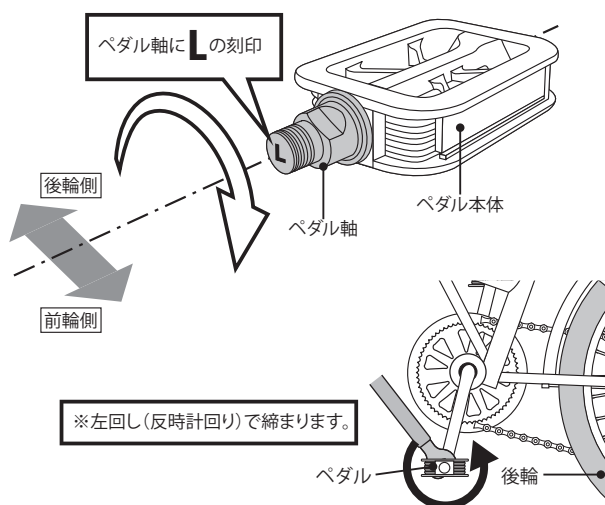
① 右側用ペダル (クランクに対して時計回りで取付)

右回し(時計回り)にペダルの軸のみを回してください。
ペダル本体(足を乗せる部分)を回しても取り付けできません。
必ず軸を回してください。



② 左側用ペダル (クランクに対して反時計回しで取付)

左回し(反時計回り)にペダルの軸のみを回してください。
ペダル本体(足を乗せる部分)を回しても取り付けできません。
必ず軸を回してください。



最初は手でペダルの軸をクランクのネジ穴にねじ込み、軽く2～3回転以上回してください。

この際、グリス、オイル等(商品には付属していません)をお持ちであれば、先にネジ山に被せていただくと作業がしやすくなります。ペダルがクランクに対してまっすぐ(直角)に入っていることを確認し、付属のレンチを使用して、確実にペダルを奥までクランクに固定してください。

⚠ 注意

ペダルを無理矢理クランクにねじ込まないでください。

無理矢理ペダルをねじ込んで自転車を走行させると大変不安定になるほか、クランクのネジ山が削れてペダルが脱落してしまう可能性があります。

ねじ込みの最後は付属工具にてしっかり締めてください。締め付けがゆるいと走行時にネジがゆるみ、ペダルが脱落する可能性があります。走行時にペダルが脱落すると大変危険なうえ、クランクの修理も不可能となります、ご注意ください。

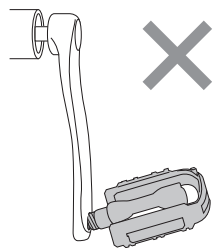
※誤った組立方法に起因する破損は、保証対象外となりますのでご注意ください。[保証規定B-13]

締めこんだ際にバリが発生した時は速やかにバリを取り除いてください。

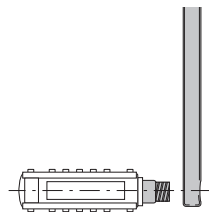
※「バリ」を取り除く際は、鋭利になっている場合もあるので怪我をしないようにお気をつけください。

ペダルの端に荷重をかけて走行しないでください。

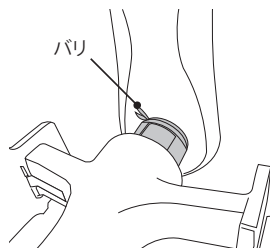
ペダルの端に過度な荷重をかけると破損に繋がる可能性があります。ご使用の際は、ペダル面へ均等に且つ取り付け軸付近に荷重をかけるようにして走行してください。



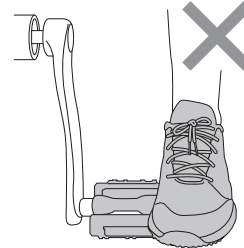
斜めに取り付けたり無理矢理ねじ込まないでください。



クランクに対してまっすぐにペダルを取り付けてください。



ペダル取り付け時に発生する「バリ」は速やかに取り除いてください。バリを取り除く際は尖りにご注意ください。

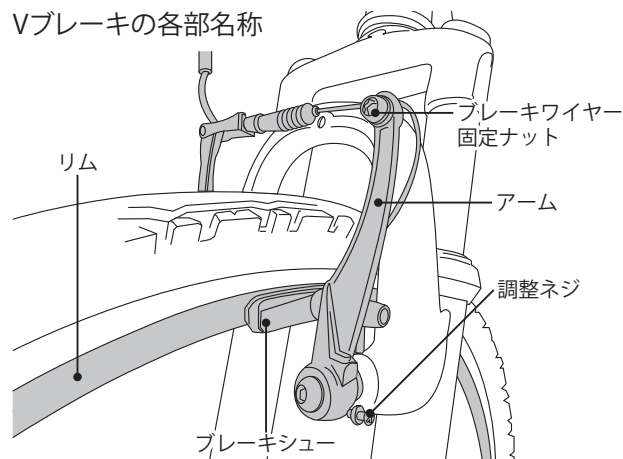


図のようにペダルの端に荷重をかけて走行しないでください。なるべく取り付け軸付近に足を乗せてください。

自転車の組立

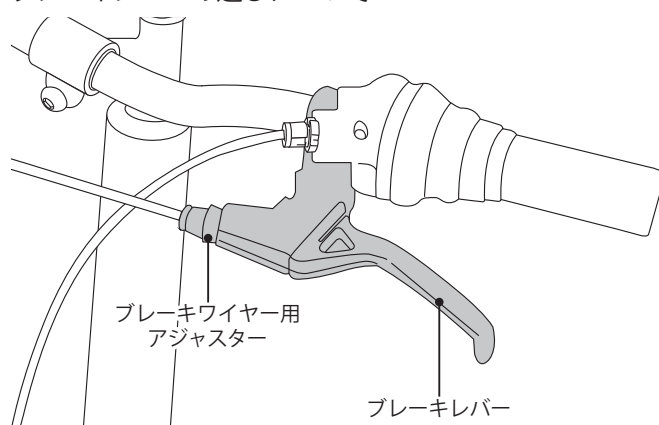
Vブレーキの調整方法

Vブレーキの各部名称



Vブレーキの調整ネジを右回り(時計回り)で締めこむと、締めこんだ側のブレーキのバネの反発力が強くなりリム(車輪)からブレーキシューが離れるようになります。

ブレーキレバーの遊びについて

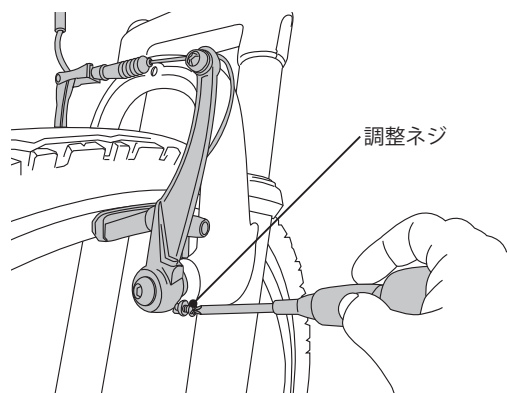


- ①ブレーキレバーをカー杯握り、ワイヤーの初期伸ばしを行います。
- ②初期伸ばし終了後、ブレーキレバーの遊びを確認します。目安はブレーキレバーの幅が握った状態で1/3程度がベストです。

① ブレーキシューが片当たりしているとき(調整ネジを使用します。)

- ①当たっている側のブレーキの調整ネジをプラスドライバーで右回し(時計回り)に締めます。
- ②バネの反発力の確認と動きを安定させるため、調整後ブレーキレバーを数回握りブレーキを稼働させてください。
- ③それでも動きが鈍いときは、当たっていない側(反対側)のブレーキの調整ネジを左回し(反時計回り)にゆるめます。

※動きが鈍い方(リムに当たっている側)のブレーキは右回し(時計回り)に締め込みます。動きが良い方(リムに当たっていない側)のブレーキは左回し(反時計回り)にゆるめます。左右のバランスをとることによって調整します。



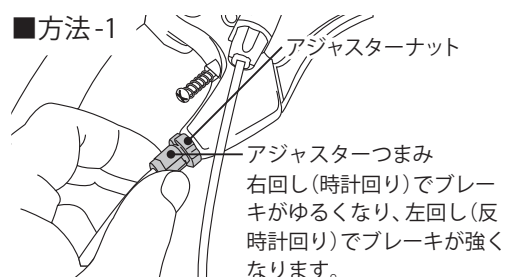
② ブレーキシューが両方ともリムに当たっているとき、もしくはブレーキレバー自体が固いとき(ブレーキワイヤーアジャスターまたはブレーキワイヤー固定ナットを使用します。)

- ブレーキがかかっている状態の可能性があります。
- ハンドルの取り付けや組み立て時(折りたたみ自転車等)に、ブレーキワイヤーに負担がかかっている可能性があります。
- ハンドルから繋がっているブレーキワイヤーに不自然なゆがみや絡まっている箇所が無いかをご確認ください。

■方法-1

- ①ブレーキワイヤー用アジャスターナットを左回し(反時計回り)でゆるめます。(アジャスターナットをゆるめることにより、つまみをまわすことができるようになります。)
- ②ブレーキワイヤー用アジャスターつまみを右回し(時計回り)に締めます。

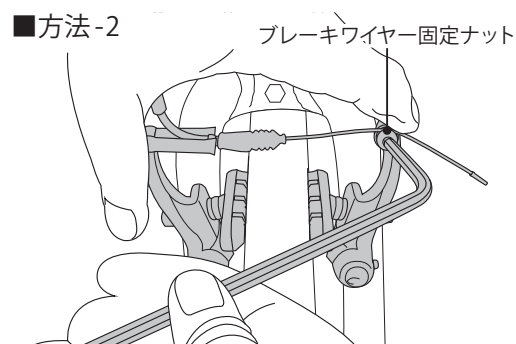
※新車の時点では既に締め込まれていることがあります。



■方法-2

■方法-2

- ①ブレーキ本体の両アームを左手人差し指と親指で軽く挟み込み、この状態でブレーキワイヤー固定ナットを左回し(反時計回り)で少しゆるめます。
- ②六角レンチ(5mm)でブレーキワイヤー固定ナットをゆるめると、ブレーキ本体が両側ともリムから離れるようになります。適度な位置にブレーキシューとリムの位置を調整し(シューとリムの間を広げます。)、位置を合わせた状態のままで、右回し(時計回り)で、ブレーキワイヤー固定ナットを締め付けてください。



自転車の組立

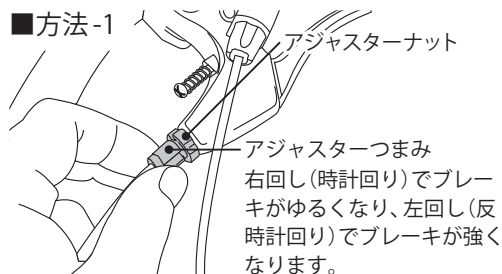
Vブレーキの調整方法-つづき

③ レバーがやわらかすぎる場合や、ブレーキの効きが悪いとき(ブレーキワイヤーアジャスターまたはブレーキワイヤー固定ナットを使用します。)

■方法-1

- ①ブレーキワイヤー用アジャスターナットを左回し(反時計回り)でゆるめます。
(アジャスターナットをゆるめることにより、つまみをまわすことができるようになります。)
- ②ブレーキワイヤー用アジャスターつまみを左回し(反時計回り)にゆるめます。
ゆるめればゆるめるほど、ワイヤーの張りが強くなりブレーキが強くなります。
- ③アジャスターつまみを使用して調整した後はアジャスターナットを必ず締めてください。

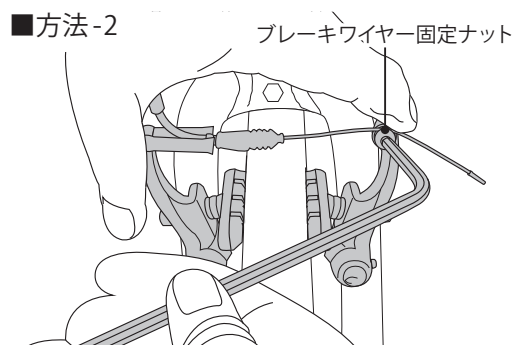
■方法-1



■方法-2

- ①ブレーキワイヤー固定ナットをゆるめると、ブレーキ本体が両側ともリムから離れるようになります。
- ②適度な位置にブレーキシューとリムの位置を調整し(シューとリムの間を近づけます)、位置を合わせた状態のままで、右回し(時計回り)で、ブレーキワイヤー固定ナットを締め付けてください。

■方法-2



⚠ 警告

ブレーキの調整作業は、ある程度の経験と知識が必要となります。
作業に自信のない方は弊社、または自転車販売店(有料)へご相談ください。

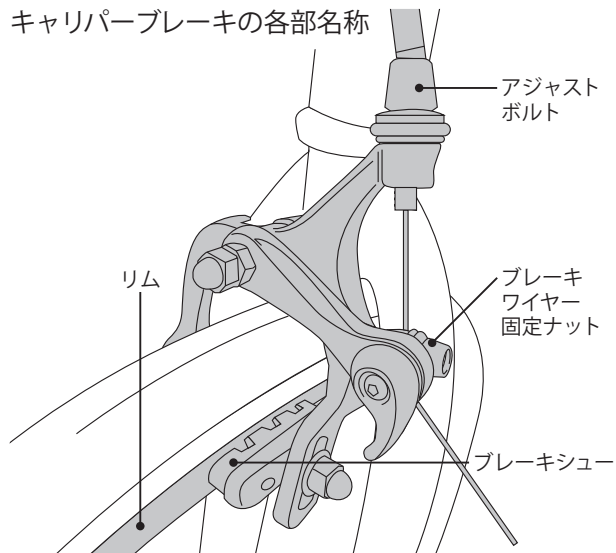
⚠ 注意

ブレーキワイヤー固定ナットは、ゆるめるとブレーキが効かなくなります。
また調整後、締め付けがあまりいと、ブレーキ作動時にワイヤーがゆるみ正常な作動をしなくなる恐れがあります。

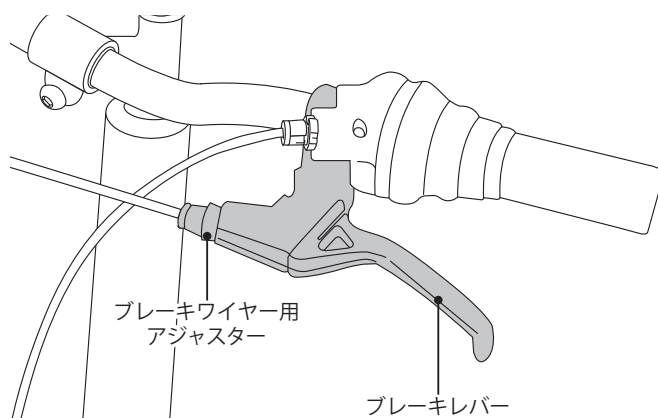
自転車の組立

キャリパーブレーキの調整方法

キャリパーブレーキの各部名称



ブレーキレバーの遊びについて



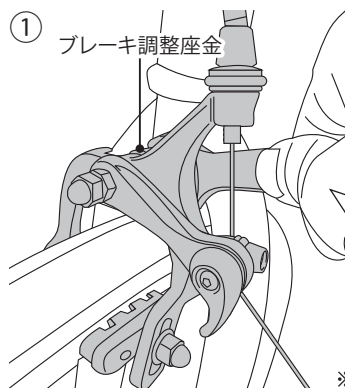
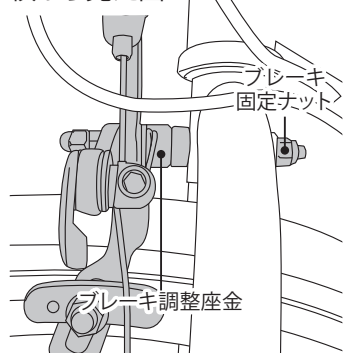
- ①ブレーキレバーをカー杯握り、ワイヤーの初期伸ばしを行います。
- ②初期伸ばし終了後、ブレーキレバーの遊びを確認します。目安はブレーキレバーの幅が握った状態で1/3程度がベストです。

① ブレーキシューが片当たりしているとき

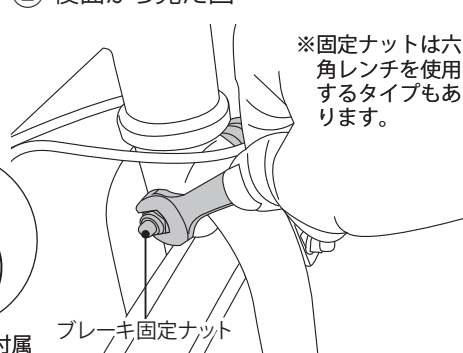
●ブレーキ本体を固定している支点がずれている可能性があります。

- ①ブレーキ調整座金にレンチをはめ、左右に動かしてブレーキシューとリムの隙間が左右均等になるように調整してください。
- ②ブレーキ調整座金がかゴ等により遮られるため、調整が不可能な場合は、ブレーキ本体固定ナットを左回し(反時計回り)にして、ブレーキ本体の固定を一旦ゆるめブレーキシューがリムに当たらない位置に調整してから、ナットを右回し(時計回り)に回してブレーキ本体を固定してください。
※ブレーキ調整座金が無い車種もございます。

横から見た図



② 後面から見た図



※固定ナットは六角レンチを使用するタイプもあります。

※専用スパナは付属していません。

② ブレーキシューが両方ともリムに当たっているとき、もしくはブレーキレバー自体が固いとき

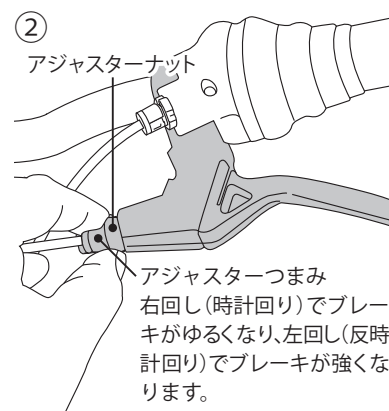
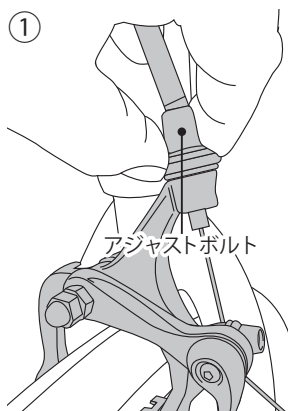
- ブレーキがかかっている状態の可能性があります。
- ハンドルの取り付けや組み立て時(折りたたみ自転車等)に、ブレーキワイヤーに負担がかかっている可能性があります。
- ハンドルから繋がっているブレーキワイヤーに不自然なゆがみや絡まっている箇所が無いかをご確認ください。

■方法-1

- ①アジャストボルトを右回し(時計回り)に締めます。
- ②ブレーキワイヤー用アジャスターナットを左回し(反時計回り)でゆるめます。(アジャスターナットをゆるめることにより、つまみをまわすことができるようになります。)ブレーキワイヤー用アジャスターつまみを右回し(時計回り)に締めます。

※新車の時点では既に締め込まれていることがあります。

※①または②の片方しか付いていない車種もあります。



自転車の組立

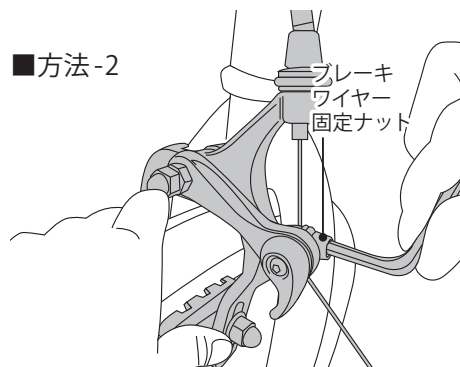
キャリパーブレーキの調整方法-つづき

② ブレーキシューが両方ともリムに当たっているとき、もしくはブレーキレバー自体が硬いとき

■方法-2

ブレーキ本体の両アームを左手人差し指と親指で軽く挟み込みこの状態でブレーキワイヤー固定ナットを左回し(反時計回り)で少しゆるめます。ブレーキワイヤー固定ナットをゆるめると、ブレーキ本体が両側ともリムから離れるようになります。適度な位置にブレーキシューとリムの位置を調整(シューとリムの間を広げます。)し、位置を合わせた状態のままで、右回し(時計回り)で、ブレーキワイヤー固定ナットを締め込んでください。

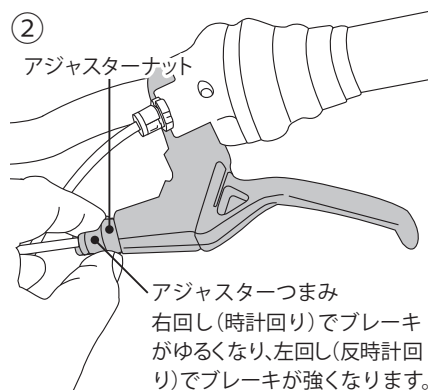
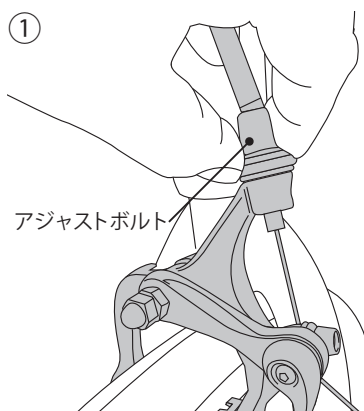
■方法-2



③ レバーがやわらかすぎる場合や、ブレーキの効きが悪いとき

■方法-1

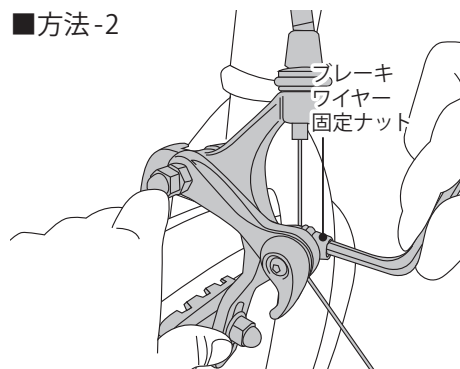
- ① アジャストボルトを左回し(反時計回り)にゆるめます。
 - ② ブレーキワイヤー用アジャスターナットを左回し(反時計回り)でゆるめます。(アジャスターナットをゆるめることによりつまみをまわすことができますようになります。)ブレーキワイヤー用アジャスターつまみを左回し(反時計回り)にゆるめます。
- ※①または②の片方しか付いていない車種もあります。
- ③ アジャスターつまみを使用して調整した後はアジャスターナットを必ず締めてください。



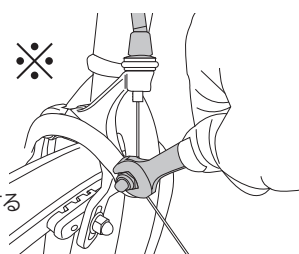
■方法-2

ブレーキワイヤー固定ナットをゆるめると、ブレーキ本体が両側ともリムから離れるようになります。適度な位置にブレーキシューとリムの位置を調整(シューとリムの間を狭めます。)し、位置を合わせた状態のままで、右回し(時計回り)で、ブレーキワイヤー固定ナットを締め込んでください。

■方法-2



※(注意)
スパナを使用して固定するタイプもあります。



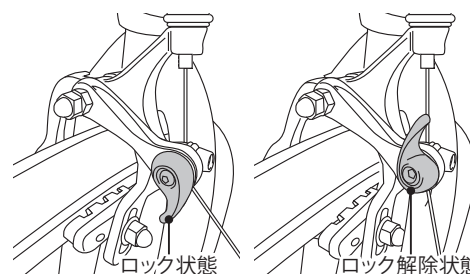
⚠ 警告

ブレーキの調整作業は、ある程度の経験と知識が必要となります。
作業に自信のない方は弊社、または自転車販売店(有料)へご相談ください。

⚠ 注意

ブレーキワイヤー固定ナットは、ゆるめるとブレーキが効かなくなります。また調整後、締め付けがあまりと、ブレーキ作動時にワイヤーがゆるみ正常な作動をしなくなる恐れがあります。

車種によっては、ブレーキロックがついているものがございます(右図)。乗車時にはレバーが解除状態になっていないことを確認してください。



自転車の組立

ディスクブレーキの調整方法

微調整が必要な場合は**下記**の方法で行ってください。

前輪が真っ直ぐに入っているかをご確認ください。

車輪を回すと擦れる音をする。

自転車が届いた時から擦れる音をする。

乗り初めにはよくある症状で、使用しているとパッドが磨耗して音が無くなります。

調整は不要ですが、いつまでも消えない場合は弊社までお問い合わせください。

乗っている内に擦れる音が出てきた。

キャリパーの取付がずれた可能性が有りますのでキャリパーの位置を調整してください。

調整法-1をご覧ください。

ブレーキレバーを握るとグリップに付きそうになる。

ブレーキパッド厚が残り少ない。0.5mm 未満になっている。

ブレーキパッドの交換をしてください。

自転車店にご相談ください。

ブレーキパッド厚は十分有る。0.5mm 以上残っている。

ブレーキワイヤーが伸びているのでワイヤーの調整をしてください。

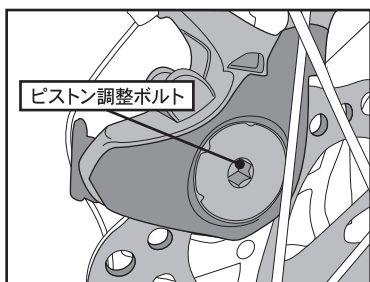
調整法-2をご覧ください。

ブレーキレバーを握るとブレーキレバーが戻らない。

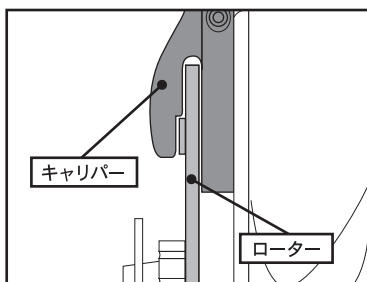
ブレーキレバーの破損、又はブレーキワイヤーの動作不良の可能性が有ります。

弊社又は自転車店にご相談ください。

調整法 -1

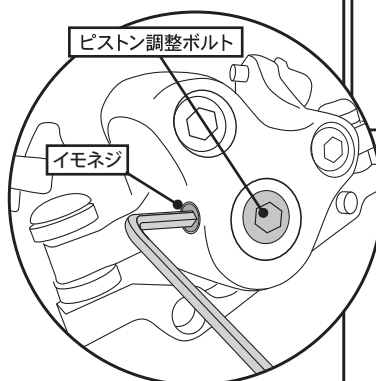


- ピストン調整ボルトを付属の六角レンチで回して調整してください。

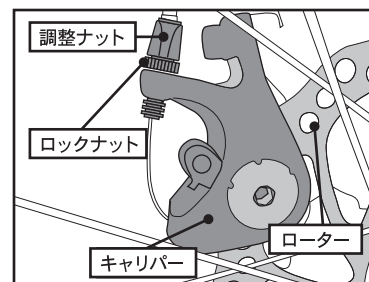


- キャリパー内側のピストン調整ボルトを回してパッドとローターの隙間 0.2~0.4mm になる様に調整ボルトを回してください。

ブレーキ部より「シャリシャリ」という干渉音がある場合がございますが、これは、ディスクブレーキの構造に由来するものであり大抵は使用していくうちに自然に解消されてまいります。機能上特に問題ございませんが、中には輸送上の揺れや使用中の衝撃等が原因で、ブレーキのローターとパッドが必要以上に強く干渉し、常にブレーキが掛かってしまっているような状態になってしまうケースもございます。そういった場合には、ディスクブレーキのローターとパッドの間の距離（クリアランス）を適切に調整することによって解消が可能です。



調整法 -2



- 調整ナットを左回し（反時計回り）するとパッドとローターの隙間が狭くなります。（約 0.2 ~ 0.4mm になる様に調整してください。）

調整後は緩まない様にロックナットを右回して固定してください。

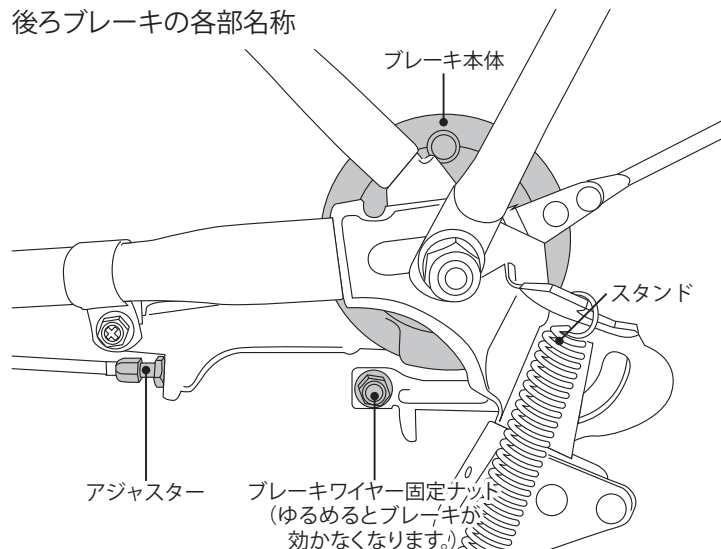
※車種によってロックナットの無いタイプもあります。

「ピストン調整ボルト」を固定するためのイモネジが付いているタイプのブレーキも存在致します。このタイプのブレーキでは 5mm の六角レンチでの調整を行う前に、こちらのイモネジを緩めてから調整作業を行って下さい。また作業後は必ず緩めたイモネジを再度締め直すようにしてください。

自転車の組立

バンドブレーキ(ドラムブレーキ)・ローラーブレーキの調整方法

後ろブレーキの各部名称

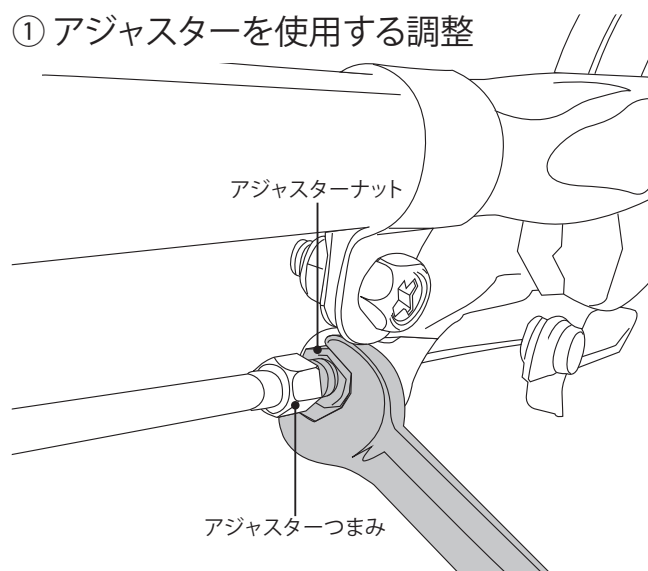


後ろブレーキの調整について

後ろブレーキであるバンドブレーキ(ドラムブレーキ)、ローラーブレーキはそれぞれ構造が似ているため、同様の調整方法でブレーキの調整が可能です。

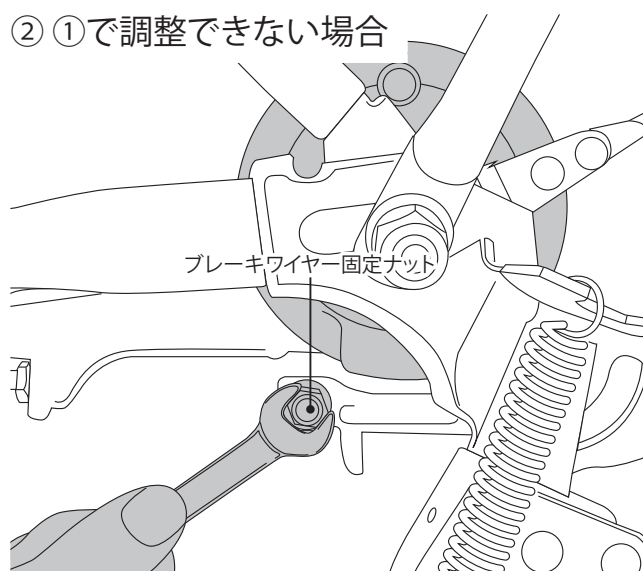
下記の説明をよくお読みのうえ、正しい方法で調整を行ってください。

① アジャスターを使用する調整



- ①アジャスターナットを左回し(反時計回り)でゆるめるとつまみを手で回すことが可能になります。
- ②アジャスターつまみを右回し(時計回り)に回すと、ブレーキがゆるみ、左回し(反時計回り)に回すとブレーキが締まります。
- ③調整後はアジャスターナットを右回り(時計回り)に回して締めてください。

② ①で調整できない場合



- ①ブレーキワイヤー固定ナットを左回し(反時計回り)でゆるめるとワイヤーの張りを調整できます。
- ②ワイヤーを引っ張るとブレーキが固くなり、ゆるめるとブレーキがやわらかくなります。
- ③調整後はブレーキワイヤー固定ナットを右回り(時計回り)に回して締めてください。

⚠ 警告

ブレーキの調整作業は、ある程度の経験と知識が必要となります。
作業に自信のない方は弊社、または自転車販売店(有料)へご相談ください。

⚠ 注意

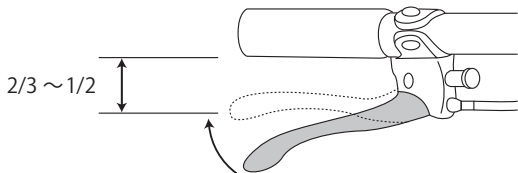
ブレーキワイヤー固定ナットは、ゆるめるとブレーキが効かなくなります。
また調整後、締め付けがあまいと、ブレーキ作動時にワイヤーがゆるみ正常な作動をしなくなる恐れがあります。

自転車の組立

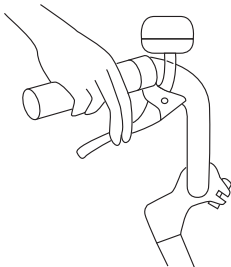
ブレーキ・ブレーキレバーの調整について

■ブレーキの開き

ブレーキは自転車を安全に乘るために一番大切な装備です。いつも最高の性能が発揮できるように乗車の前には必ず点検してください。ブレーキレバーを操作し、レバーの開きが2/3～1/2くらいでブレーキが効くように調整してください。

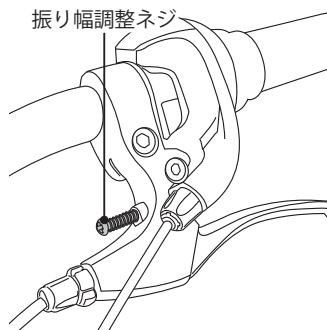


ブレーキレバーとグリップの間隔は、ブレーキをかけていない状態で、グリップを握ったまま2本または3本の指の第一関節でブレーキレバーを巻き込むことのできる幅に調整します。



■ブレーキレバーの振振幅調整

振振幅調整ネジは、レバーの握り幅を調整するためのネジとなります。ネジを締めることによって、握り幅(グリップとレバーの距離)を狭くすることが可能です。ネジを締めた際は、ワイヤーの調整が必要となります。(ネジを締めた分だけ、ワイヤーをゆるめる必要があります。)



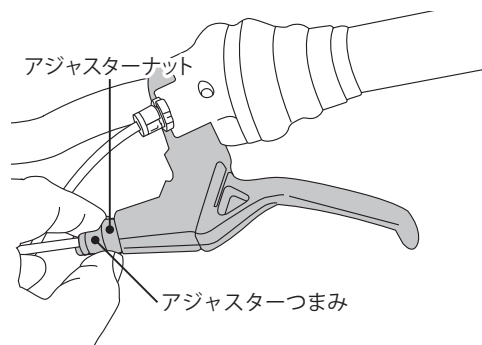
※ネジが付いていない車種もあります。

■ブレーキワイヤーの交換時期

ブレーキワイヤーは1年ごとに交換してください。また、1年以内であってもサビやほつれなど異常を確認したときはすみやかに交換してください。

■ブレーキレバーの遊びと調整

長時間使用しますと、ブレーキワイヤーの伸びなどによりブレーキの効が悪くなります。その場合、下図のアジャスターつまみを一時的にゆるめ、ブレーキレバーの遊びを調整したあとアジャスターナットを締めます。このとき、ブレーキシューとリムの隙間は左右2mm程度が適切です。

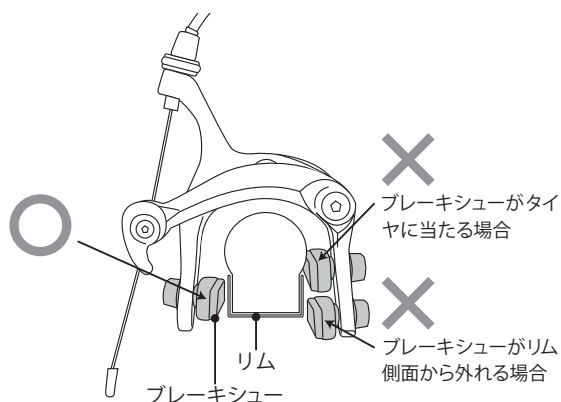


■ブレーキシューについて

乗車前に必ず前ブレーキシューがリム面に合っているか確認してください。ブレーキシューがリム面に合っていないと、ブレーキが効かないだけでなく、ブレーキシューの片減りを起こしたり、タイヤに接触している場合は急制動がかかり大変危険です。

※ブレーキシューとリムの隙間は左右2mm程度が適切です。

また、ブレーキシューが磨耗して溝の残りが1mmになったときはブレーキシューを交換してください。



⚠ 警告

ブレーキやブレーキワイヤーの調整作業は、ある程度の経験と知識が必要となります。

作業に自信のない方は弊社、または自転車販売店(有料)へご相談ください。

キャリパーブレーキが使用されている車種は、Vブレーキ、ディスクブレーキを使用している車種と比べると構造上効きが滑らかでロックしにくいという特性を持っていますので制動距離は長くなります。勾配の大きな下り坂など、スピードが出やすい道の走行時にはご注意ください。

⚠ 注意

お子様がご乗車される際は、お子様が十分にブレーキングできることを確認されたうえでご使用ください。ブレーキレバーの開きが広すぎてブレーキングが十分に行えない場合は絶対に乗車しないでください。

弊社取り扱いの自転車は16インチ以下の小径車においても大人の方が乗車できるよう企画・設計されています。そのためブレーキレバーの開きも大人用に設定されています。(子供車・幼児車を除く)。

自転車の組立

後変速機(リアディレイラー)について

変速がうまく切り替わらない。乗車時にガラガラと異音がある、入らないギヤがある等の現象がみられる時は変速機(ディレイラー)の調整をしてください。

※変速が使用されていない車種もございます。

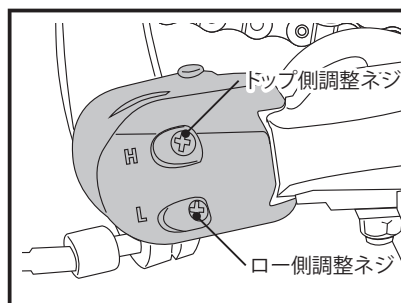
※変速機の型式によって、調整方法が異なる場合もございます。また、この項目では後変速が6段の場合の説明を記載しています。

後変速機の構造について

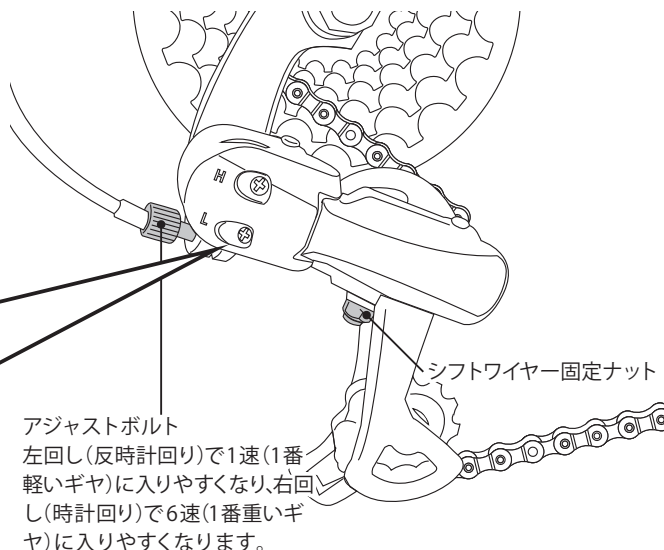
後変速機(リアディレイラー)は、ハンドル側にある後用シフターとワイヤーで繋がっています。ワイヤーを引っ張るほど、1速(1番軽いギヤ)に動く仕組みとなっており、ワイヤーに負担が無い状態のときは、6速(1番重いギヤ)に入っているようになっています。

※後変速が6段の場合

※トップノーマルタイプの場合(1番小さいギヤがトップになるタイプ。
弊社製品は全てトップノーマルタイプです。)



トップ側調整ネジには「H」、ロー側調整ネジには「L」という刻印が付近に印字されています。トップ側調整ネジをゆるめると6速ギヤに入りやすくなり、ロー側調整ネジをゆるめると1速ギヤに入りやすくなります。



アジャストボルト
左回し(反時計回り)で1速(1番軽いギヤ)に入りやすくなり、右回し(時計回り)で6速(1番重いギヤ)に入りやすくなります。

スプロケットの構造について

スプロケット(変速ギヤ)の構成は、内側(歯数の多いギヤ)が1速(1番軽いギヤ)となり、外側(歯数の少ないギヤ)が6速(1番重いギヤ)となります。

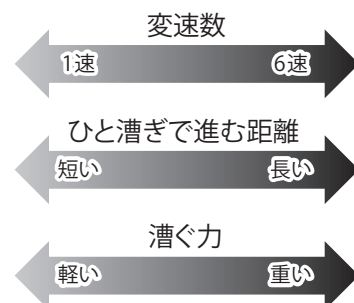
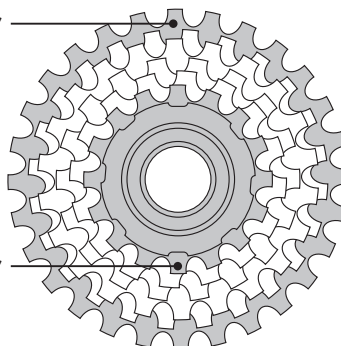
1速の場合ひと漕ぎで進む距離が1番「短い」ですが、漕ぐ力が1番「軽い」ものとなります。

6速の場合ひと漕ぎで進む距離が1番「長い」ですが、漕ぐ力が1番「重い」ものとなります。

※後変速が6段の場合

1速ギヤ
(ロー)

6速ギヤ
(トップ)



① ワイヤーの初期伸びについて

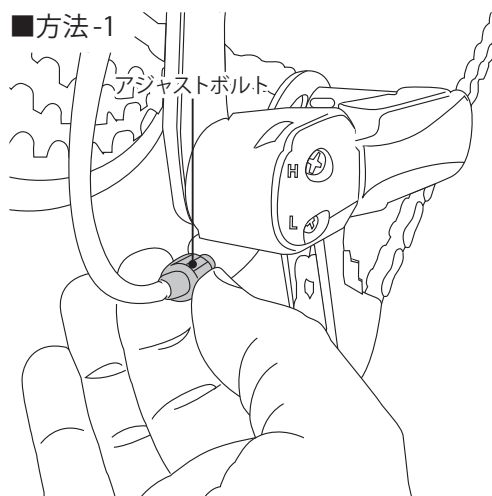
新品のワイヤーが自転車に組み付けられ、テンションをかけられることによりワイヤーに「伸び」が生じ、変速の入りが悪くなる症状を「初期伸び」といいます。(新品商品でもっとも可能性の高い現象となります。)ワイヤーが伸びているために、正しい力がディレイラーに伝わらず、変速が正常に作動しないという現象です。ワイヤーの張りを整えることで正常に調整することができます。

スタンド方向に自転車を傾け後輪を浮かせた状態にし、片手でクランクを回し、もう一方の手でシフター(ハンドル側)を操作するようにして作業します。

変速をするときは、必ずクランクを回転させながら行ってください。

■方法-1

- ①チェーンを「6速」(最小ギヤ)に入れます。(ワイヤーへ負担が1番少ない状態となります。)前側にも変速がある車種は、前側のチェーンを一番よく使うギヤに入れてください。
- ②実際の動きを確認しながら、変速を「6速→5速」に入れます。この際にチェーンがスムーズに「5速」に変わらない、変わりにくいようであれば、「初期伸び」の可能性があります。
- ③変速を「6速」に戻します。
- ④アジャストボルトを左回し(反時計回り)に様子を見ながら半回転ずつ回してください。
- ⑤「5速」にスムーズに変わるようになれば、今度は「5速→6速」への変速がスムーズに行われるかの確認をしてください。問題がなければ調整は終了です。
- ⑥「6速」に変わらない、変わりにくいようであればアジャストボルトを回しすぎている可能性があります。その際は、アジャストボルトを右回し(時計回り)に回し調整してください。



自転車の組立

後変速機(リアディレイラー)について-つづき

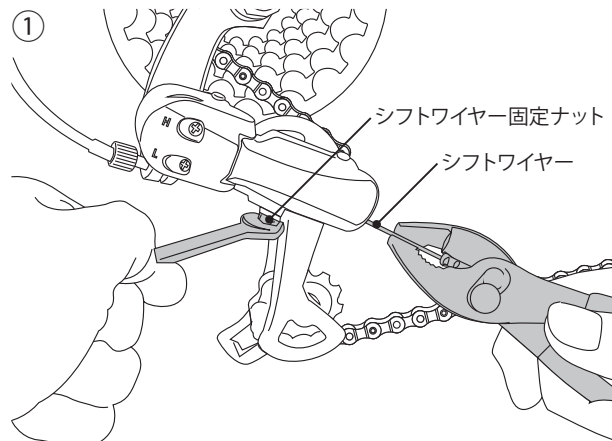
① ワイヤーの初期伸びについて

●方法-1で修正できない場合は、ワイヤーを引っ張って調整します。

■方法-2

①ナットをゆるめた際に、ワイヤーが外れないようペンチ等で、ワイヤーを押さえた状態にしてシフトワイヤー固定ナットをレンチで左回し(反時計回り)にしてゆるめます。

②ワイヤーを引っ張り、張りを強くした状態にしてから右回し(時計回り)でシフトワイヤー固定ナットを締め込んでください。



② アジャストボルトによる調整を行っても、1速(1番軽いギヤ)または6速(1番重いギヤ)にチェーンが入らないとき

●調整ネジをゆるめることによって稼動範囲を広げます。

■1速(1番軽いギヤ)にチェーンが入らないとき

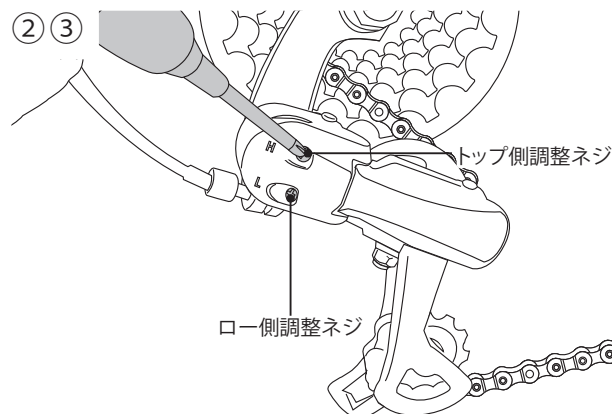
ロー側調整ネジ(「L」という表示がネジ付近に印字されています)を左回し(反時計回り)でゆるめます。

※1速に入らない症状の5割以上はワイヤーの張りが原因です。

アジャストボルトの調整でも改善されない場合のみ作業を行ってください。

■6速(1番重いギヤ)にチェーンが入らないとき

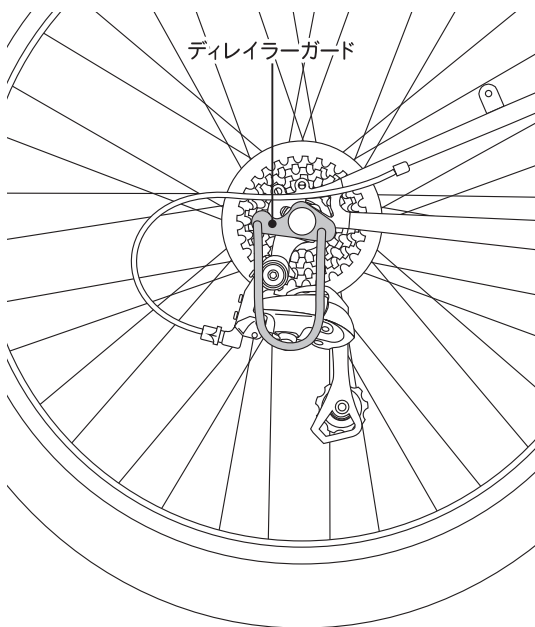
トップ側調整ネジ(「H」という表示がネジ付近に印字されています)を左回し(反時計回り)でゆるめます。



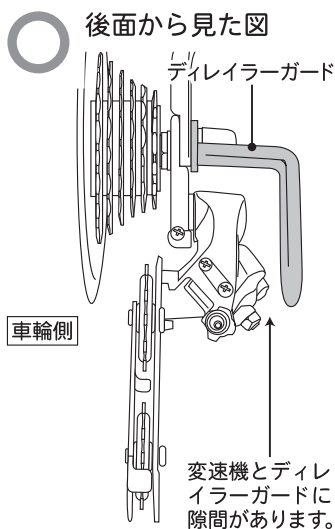
ディレイラーガードについて

車種によってはディレイラーの曲がり、変形などを防ぐためのディレイラーガードが付いているものがあります。運送中や転倒などによりディレイラーガードが曲がってしまうと、変速機が外側に動かなくなり、変速が正常に動作しなくなる場合があります。

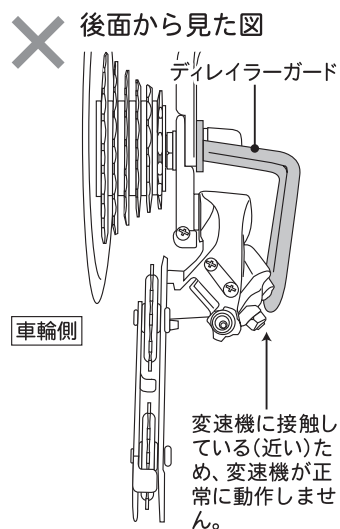
ディレイラーガードが曲がってしまっている場合は、正常な位置に調整してください。



正常な状態



曲がった状態



後変速機(リアディレイラー)について-つづき

③ チェーンが外れてしまうとき

●変速時にチェーンがフリースプロケットを飛び越えて、外れてしまうようなときは調整ネジを調整することによって、変速機の稼動範囲を設定できます。調整ネジは、変速機が稼動する範囲を設定するネジで、締め込むと稼動範囲が狭まり、ゆるめると稼動範囲が広がります。

■チェーンが内側(車輪側)に外れてしまうとき

ロー側調整ネジ(「L」という表示がネジ付近に印字されています)を右回し(時計回り)で締め込みます。

■チェーンが外側に外れてしまうとき

トップ側調整ネジ(「H」という表示がネジ付近に印字されています)を右回し(時計回り)で締め込みます

外装式変速機はワイヤー等がむきだしになっているため、細かな調整が必要なものとなります。
契約製造工場にて最終検査、各部調整後に梱包をしておりますが、「運送時の振動」や「初期伸び」等のためお客様にて調整をしていただくかなければならない場合があります。
これらは製品特性上発生し得る現象であり、製品不良には該当しないものとなり調整は保証対象外となります。



注意

トップ側調整ネジ、ロー側調整ネジはゆるめすぎるとチェーンが外れる原因となります。作業時は1/8回転ずつ回しながら、常に様子を確認しながら作業を行ってください。

「変速機の取り扱いについて」はP34にございます。
使用法に関してはそちらをご覧ください。

自転車の組立

前変速機(フロントディレラー)について

変速がうまく切り替わらない。乗車時にガラガラと異音がある、入らないギヤがある等の現象がみられる時は変速機(ディレラー)の調整をしてください。

※変速が使用されていない車種もございます。

※変速機の型式によって、調整方法が異なる場合もございます。また、この項目では前変速が2段の場合の説明を記載しています。

前変速機の構造について

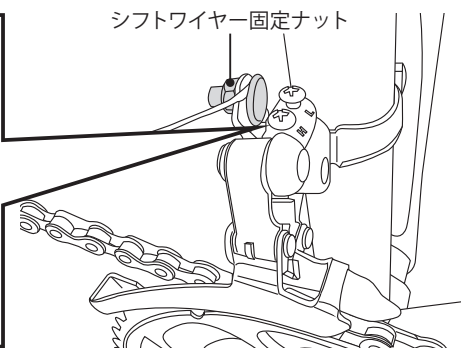
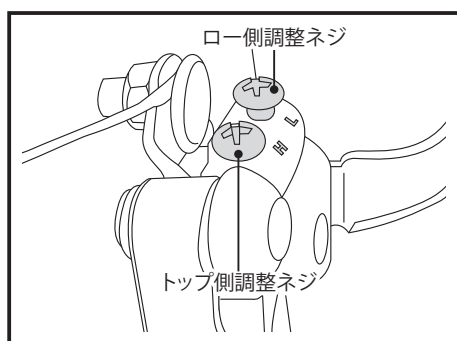
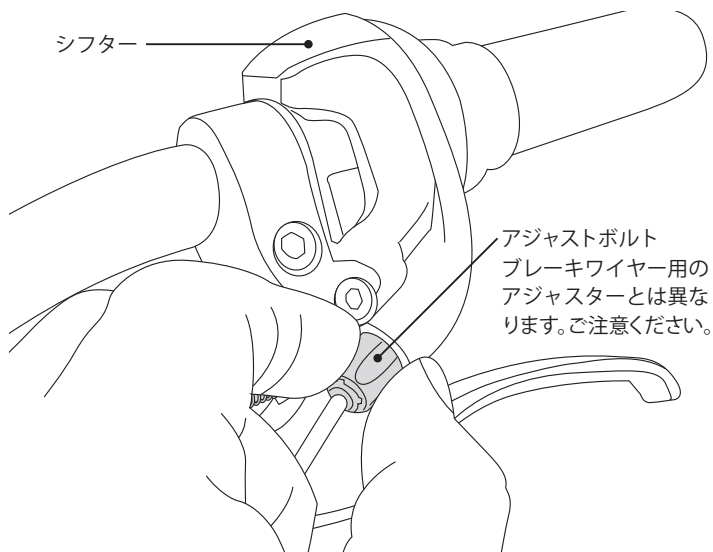
前変速機(フロントディレラー)は、ハンドル側にある前用シフターとワイヤーで繋がっています。ワイヤーを引っ張るほど、1速(1番重いギヤ)に動く仕組みとなっており、ワイヤーに負担が無い状態のときは、2速(1番軽いギヤ)に入っているようになっています。

※前変速が2段の場合(前3段の場合は3段目が1番軽いギヤとなります。)

※前トップノーマルタイプの場合(1番大きいギヤがトップになるタイプ。弊社製品は全てトップノーマルタイプです。)

※フロントディレラーのアジャストボルトはハンドル側に付いているものとうでないものがあり、車種によって異なります。

※前用シフターは、後用と違いカチカチと細かく動くタイプになっているものがあります。これはフリクションタイプというもので、調整がしやすいようにディレラーの固定位置が細かく設定できるようにになっているものとなります。



トップ側調整ネジには「H」、ロー側調整ネジには「L」という刻印がネジ付近に印字されています。

トップ側調整ネジをゆるめると1速(1番重いギヤ)に入りやすくなり、トップ側調整ネジをゆるめると2速(1番軽いギヤ)に入りやすくなります。

※後側に比べ前側は変速することによって、荷重が大きく変わります。

ギヤクランクの構造について

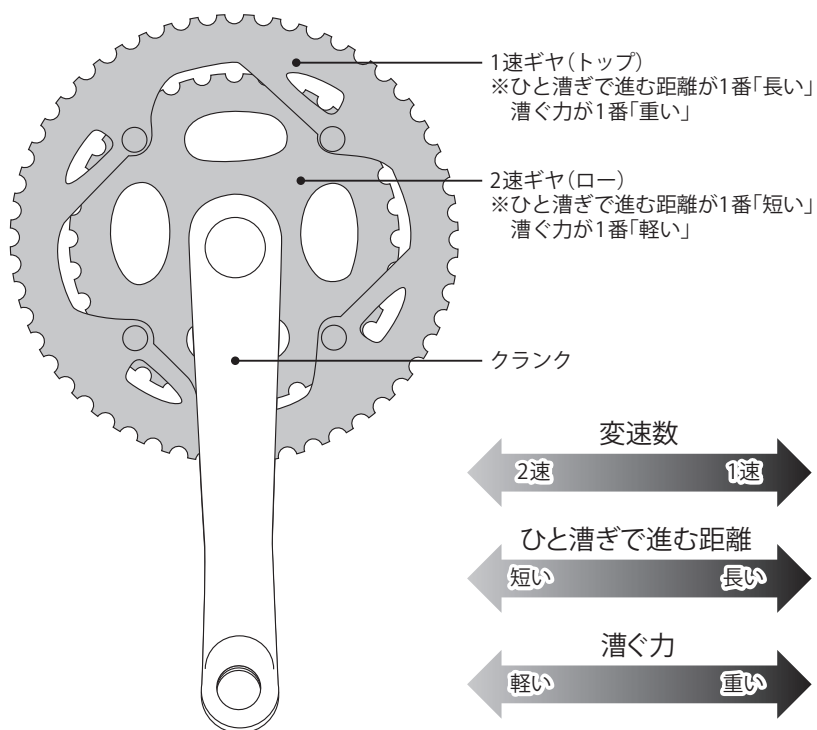
ギヤクランク(前スプロケット)の構成は、外側(歯数の多いギヤ)が1速(1番重いギヤ)となり内側(歯数の少ないギヤ)が2速(1番軽いギヤ)となります。

1速の場合ひと漕ぎで進む距離が1番「長い」ですが、漕ぐ力が1番「重い」ものとなります。

2速の場合ひと漕ぎで進む距離が1番「短い」ですが、漕ぐ力が1番「軽い」ものとなります。

※前変速が2段の場合(前3段の場合は3段目が1番軽いギヤとなります。)

※フロントのトップ(1番重いギヤ)とロー(1番軽いギヤ)は、リアと反対の構造になります。(1速の場合が1番重たく、ひと漕ぎの距離が長くなります。)



自転車の組立

前変速機(フロントディレイラー)について-つづき

① ワイヤーの初期伸びについて

新品のワイヤーが自転車に組み付けられ、テンションをかけられることによりワイヤーに「伸び」が生じ、変速の入りが悪くなる症状を「初期伸び」といいます。(新品商品でもっとも可能性の高い現象となります。)ワイヤーが伸びているために、正しい力がディレイラーに伝わらず、変速が正常に作動しないという現象です。ワイヤーの張りを整えることで正常に調整することができます。

スタンド方向に自転車を傾け後輪を浮かせた状態にし、片手でクランクを回し、もう一方の手でシフター(ハンドル側)を操作するようにして作業します。変速をするときは、必ずクランクを回転させながら行ってください。

- 車種によりアジャストボルトが付いていない車種もあります。
その場合は方法-2の作業を行ってください。

■方法-1

- ①チェーンを「2速」(1番軽いギヤ)に入れます。(ワイヤーへの負担が1番少ない状態となります。)
 - ②後側のチェーンは中間あたりに入れてください。(6段変速であれば3、4段目あたりとなります。)
 - ③実際の動きを確認しながら、変速を「2速→1速」に入れます。この際にチェーンがスムーズに「1速」に変わらない、変わりにくいようであれば、「初期伸び」の可能性があります。
 - ④チェーンを「2速」に戻します。
 - ⑤アジャストボルトを左回し(反時計回り)に様子を見ながら半回転ずつ回してください。
 - ⑥「1速」にスムーズに変わるようになれば、今度は「1速→2速」への変速がスムーズに行われるかの確認をしてください。問題がなければ調整は終了です。
- ※ギヤクランクが3段の場合上記と同じ要領で「1速」までスムーズに変速が行われることをご確認ください。
- ⑦「2速」に変わらない、変わりにくいようであればアジャストボルトを回しすぎている可能性があります。その際は、アジャストボルトを右回し(時計回り)に回して調整してください。

- 方法-1で修正できない場合は、ワイヤーを引っ張って調整します。

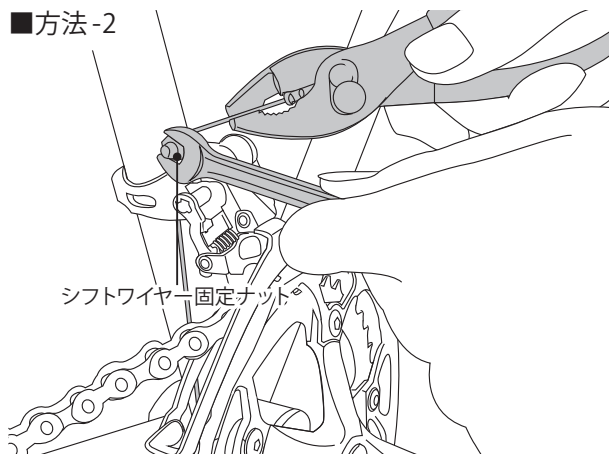
■方法-2

- ①ナットをゆるめた際に、ワイヤーが外れないようペンチ等で、ワイヤーを押さえた状態にしてシフトワイヤー固定ナットをレンチで左回し(反時計回り)にしてゆるめます。
- ②ワイヤーを引っ張り、張りを強くした状態にしてから右回し(時計回り)でシフトワイヤー固定ナットを締め込んでください。

■方法-1



■方法-2



② アジャストボルトによる調整を行っても、1速(1番重いギヤ)または2速(1番軽いギヤ)にチェーンが入らないとき

- 調整ネジをゆるめることによって稼動範囲を広げます。

■1速(1番重いギヤ)にチェーンが入らないとき

トップ側調整ネジ(「H」という表示がネジ付近に印字されています)を左回し(反時計回り)でゆるめます。

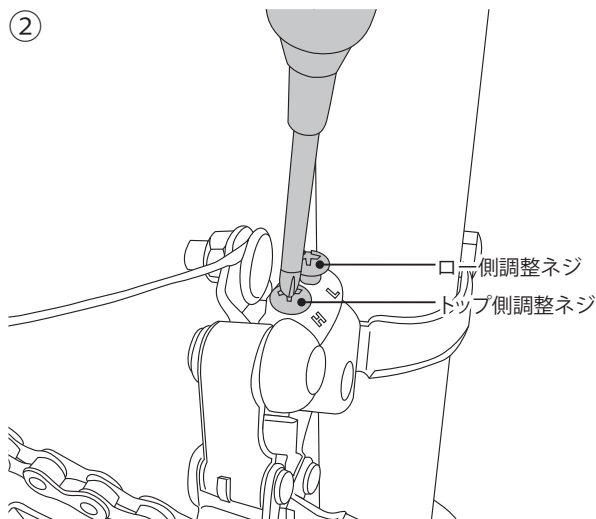
- ※1速に入らない症状の5割以上はワイヤーの張りが原因です。

アジャストボルトの調整でも改善されない場合のみ作業を行ってください。

■2速(1番軽いギヤ)にチェーンが入らないとき

ロー側調整ネジ(「L」という表示がネジ付近に印字されています)を左回し(反時計回り)でゆるめます。

- ※フロントのトップ(1番重いギヤ)とロー(1番軽いギヤ)は、リアと反対の構造になります。(1速の場合が1番重たく、ひと漕ぎの距離が長くなります。)



自転車の組立

前変速機(フロントディレイラー)について-つづき

③ チェーンが外れてしまうとき

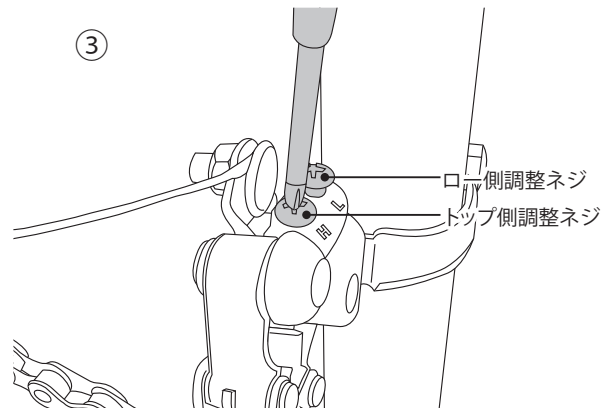
●変速時にチェーンがギヤクランクを飛び越えて、外れてしまうようなときは調整ネジを調整することによって、変速機の稼動範囲を設定できます。調整ネジは、変速機が稼動する範囲を設定するネジで、締め込むと稼動範囲が狭まり、ゆるめると稼動範囲が広がります。

■チェーンが内側(車輪側)に外れてしまうとき

ロー側調整ネジ(「L」という表示がネジ付近に印字されています)を右回し(時計回り)で締め込みます。

■チェーンが外側に外れてしまうとき

トップ側調整ネジ(「H」という表示がネジ付近に印字されています)を右回し(時計回り)で締め込みます



外装式変速機はワイヤー等がむきだしになっているため、細かな調整が必要なものとなります。契約製造工場にて最終検査、各部調整後に梱包をしておりますが、「運送時の振動」や「初期伸び」等のためお客様にて調整をしていただく場合があります。これらは製品特性上発生し得る現象であり、製品不良には該当しないものとなり調整は保証対象外となります。



注意

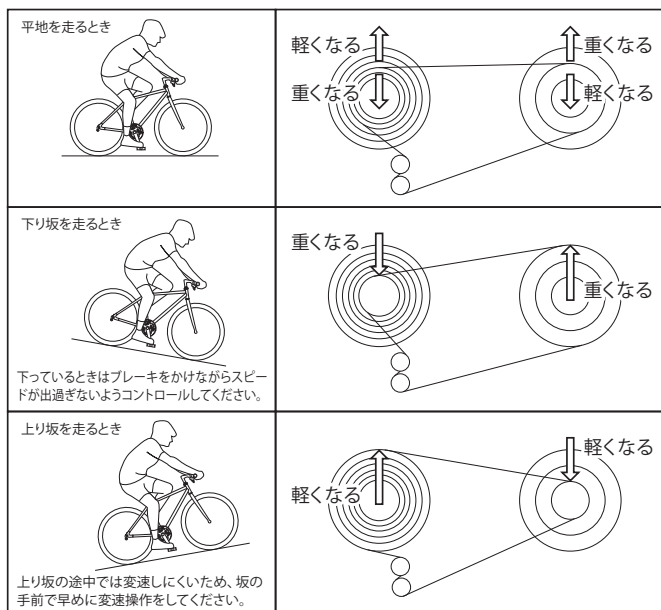
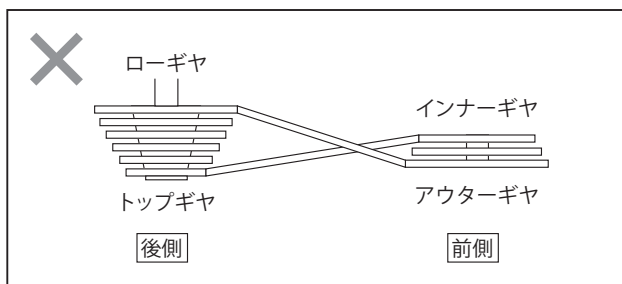
トップ側調整ネジ、ロー側調整ネジはゆるめすぎるとチェーンが外れる原因となります。作業時は1/8回転ずつ回しながら、常に様子を確認しながら作業を行ってください。

変速機の取扱について

ディレイラーは、坂道や風向きなどの走行条件の変化に応じてギヤ比を変え、ペダリングの速さ、踏力を一定にして疲れを少なくする装置です。シフトレバーを操作することにより、チェーンを掛け変えてギヤ比を変えます。この項目では一般的なディレイラーについて説明していますが、特殊なディレイラー使用車種については、各ディレイラーの専用説明書をよくお読みのうえ、正しい方法でお取り扱いください。

■操作上の注意

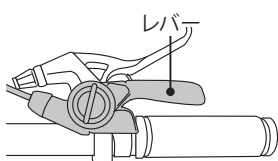
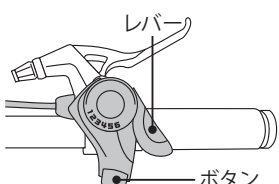
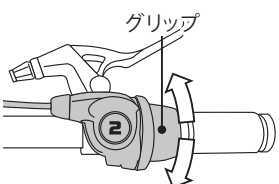
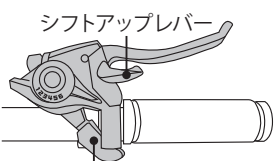
- クランクの逆回転はしないでください。誤作動やチェーンはずれの原因となり、ディレイラーやチェーンを痛めます。
- ペダルを強く踏みながらシフトしたり、一気に2段以上シフトすると、チェーン・ギヤの寿命が短くなりますので避けてください。
- 下図のようにチェーンが斜めになる使用(アウターギヤとローギヤ及びインナーギヤとトップギヤの組み合わせ)は、チェーン及びディレイラーに無理がかかりますので、避けてください。



自転車の組立

変速機(ディレイラー)の調整と取扱について-つづき

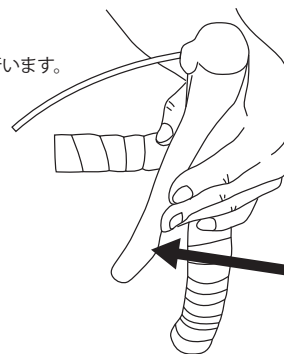
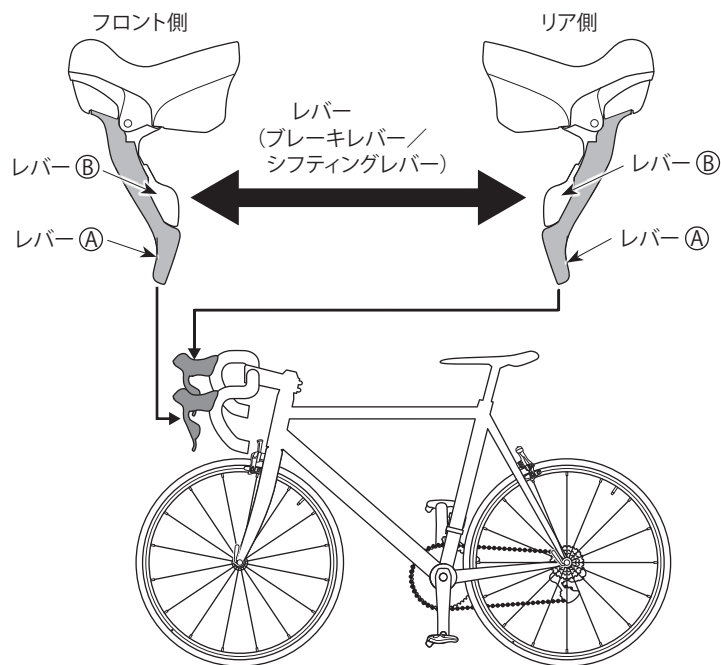
■変速シフターの種類

サムシフター型	サムシフタープラス型	グリップシフター型	ダブルレバー(EZレバー)
 レバー レバーの押し引きでシフトアップ、シフトダウンの操作	 レバー ボタン ボタンを押してシフトアップ、レバーを押してシフトダウン	 グリップ グリップでシフトアップ、シフトダウン。 ※車種によりシフトアップ、シフトダウン操作が逆になる場合があります。	 シフトアップレバー シフトダウンレバー 2つのレバーでシフトアップ、シフトダウン。 ※車種によりシフトアップ、シフトダウン操作が逆になる場合があります。

デュアルコントロール型

変速切替操作方法

デュアルコントロール型はレバー部を内側に動かす事により変速を行う機構となっております。シフトダウン操作時は下図レバー B(車種により形状が異なるものもあります。)のみを操作する事により行います。

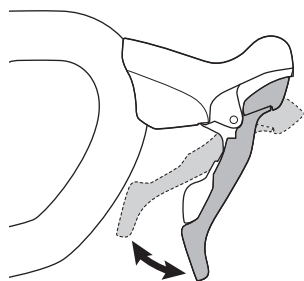


トリム操作(音鳴り防止機構)

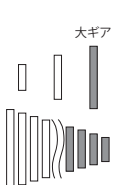
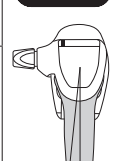
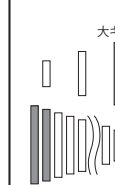
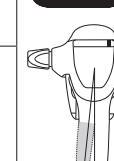
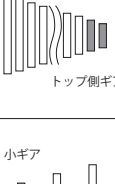
フロントディレイラーとチェーンが接触し、音鳴りが発生した場合は下記の操作をすると解消します。

*イラストはトリプル仕様で描いていますが、ダブルの場合も方法は同じです。

ブレーキ操作方法



レバー A を手前に握ることでブレーキ操作を行います。

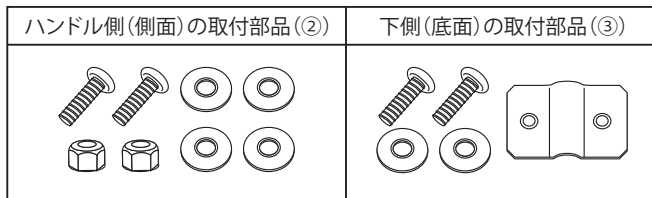
チェーンの位置	トリム操作 レバー操作	チェーンの位置	トリム操作 レバー操作
大ギア  トップ側ギア	レバー A 	大ギア  ロー側ギア	レバー B 
中間ギア  トップ側ギア	カチッ (あたりがある) 	中間ギア  ロー側ギア	カチッ (あたりがある) 
小ギア  トップ側ギア		小ギア  ロー側ギア	

自転車の組立

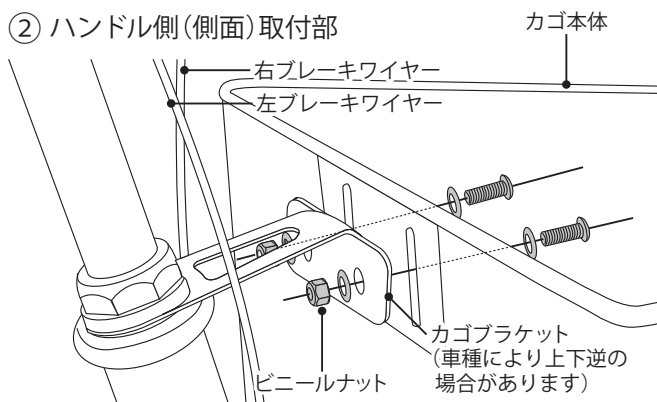
カゴの取付方法

① 付属部品の確認

はじめに付属品を確認してください。
カゴはハンドル側(側面)を下側(底面)の2箇所に取り付ける構造になっています。
※右記の取付部品は代表図です。
車種により仕様が異なる場合があります。



② ハンドル側(側面)取付部



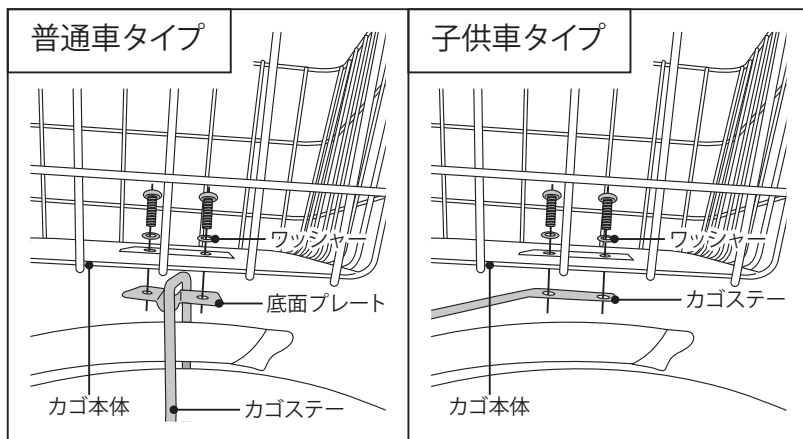
ネジをワッシャーに通し、カゴ側面部の穴にネジを内側から差込みます。
カゴブラケットの穴にネジを通し、ワッシャーをネジに通します。
その後、ビニールナットを指で仮止めしてください。
取り付け前に各ワイヤー類の取り回しをご確認ください。

カゴブラケットの曲がりについて



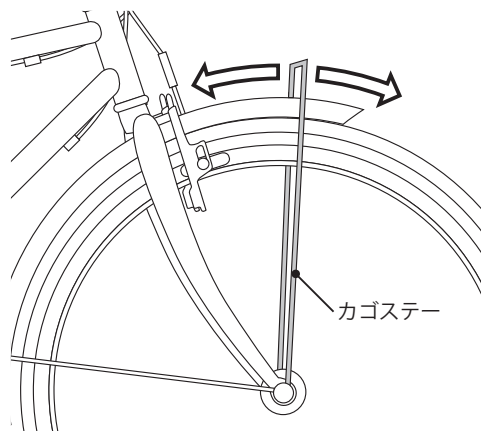
運送中の振動等で、カゴブラケットが曲がっている場合があります。カゴを取り付けることにより強度を保つ構造となりますので曲がっているときは傷がつかないように当て布をあててハンマー等で叩いて位置を調整してください。

③ 下側(底面)取付部



ネジをワッシャーに通し、カゴ底面部の穴にネジを内側から差し込み仮止めします。
(カゴステーがある車種は、カゴステーを底面プレートで挟み込みます。)
ハンドル側(側面部)、下側(底部)ともに仮止めをしてから、本締めします。
ハンドル側(側面部)、下側(底部)のネジを交互に締めていくことがコツとなります。
片方だけを完全に締めてしまうともう片方のネジが十分に締め付けられないことがありますので両方のネジを均等に締め付けてください。

カゴステーの曲がりについて



運送中の振動等で、カゴステーの位置がずれている場合があります。カゴを取り付けることにより強度を保つ構造となりますのでずれているときは手で力を加えて前後位置を調整してください。
※子供車のカゴステーも同様に作業してください。
※カゴを取り付けない時はカゴステーは必ず取り外してください。

⚠ 注意

カゴを取り付ける際、ブレーキワイヤー等が無理なくクロスしているか必ず確認してください。ワイヤーに不自然な絡まり等があると、誤作動の原因となります。

ビニールナットは、「ゆるみ止め防止」のため、穴の部分にナイロンの樹脂が混入しています。

これはカゴが簡単に外れないようにするための仕様となります。取り付けの際はナットを同梱のペダルレンチの小さい方の穴側で固定するか、ペンチのような工具でナットを固定したうえで、ネジが供回りしないようにして、ナットの中にある樹脂を潰すようにして、取り付けてください。

乗車する際には毎回、各部のガタ・ゆるみがないか、確実に固定されているか確認してください。
ガタ・ゆるみのある場合や、固定されていない場合は、再度締め付けを行ってください。

※カゴを取り付けない時はカゴステーは必ず取りはずしてください。

自転車の組立

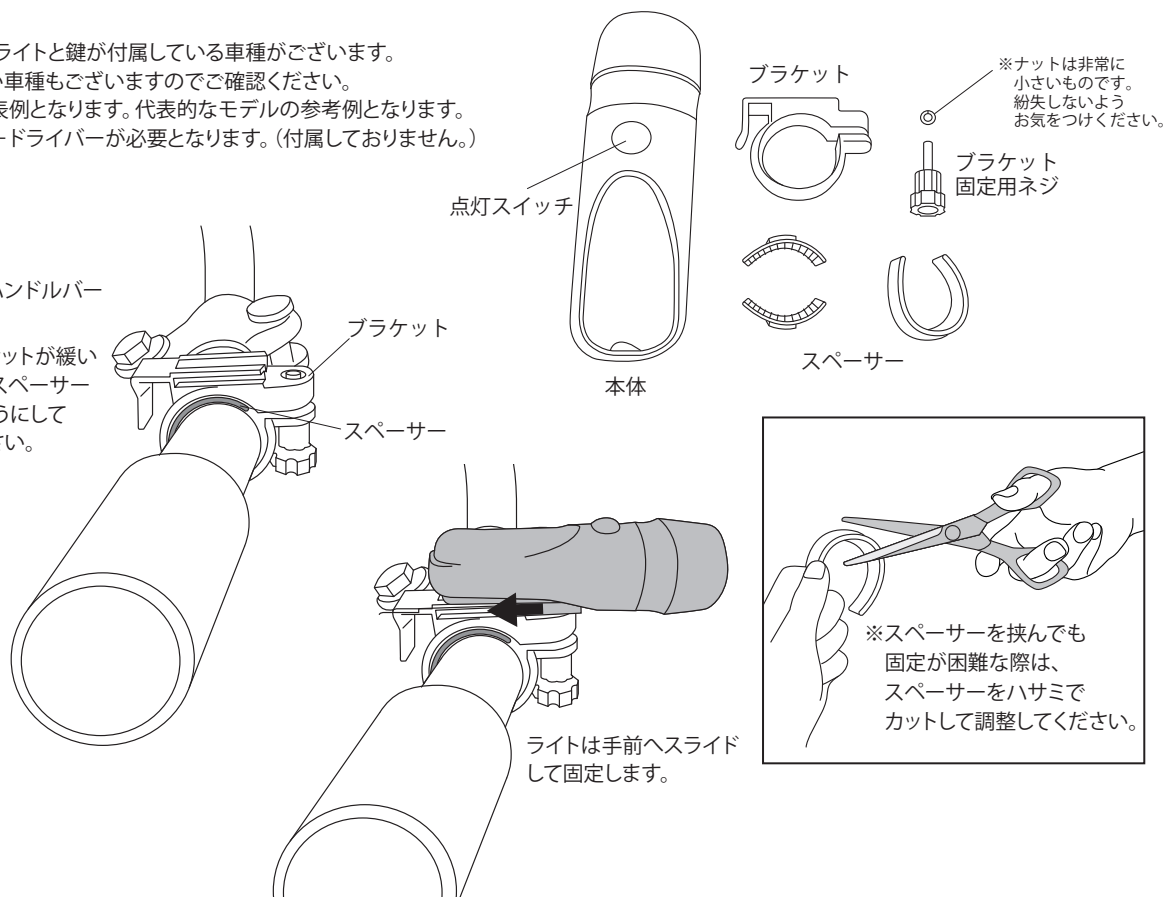
ライトと鍵について

ライト

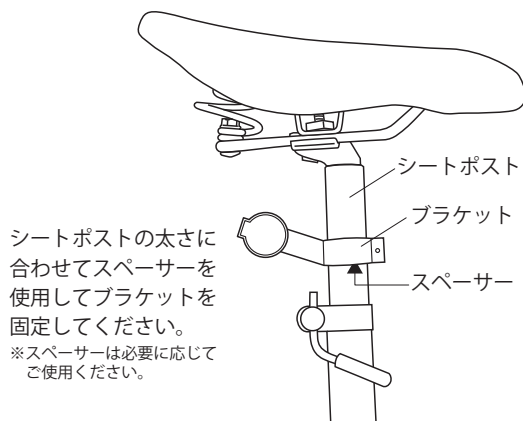
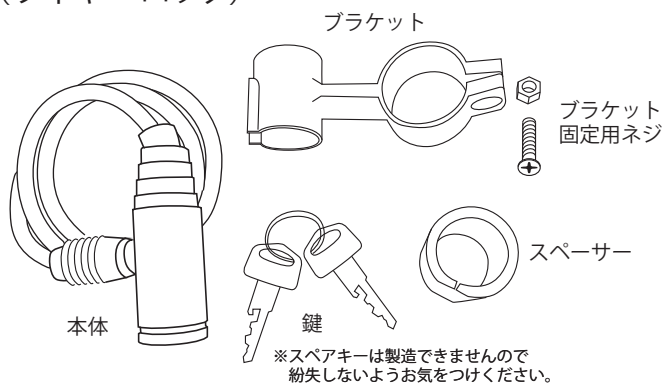
商品によっては、ライトと鍵が付属している車種がございます。
※付属していない車種もございますのでご確認ください。
※下記説明は代表例となります。代表的なモデルの参考例となります。
※組付け時には+ドライバーが必要となります。(付属していません。)

ブラケットをハンドルバーに固定します。

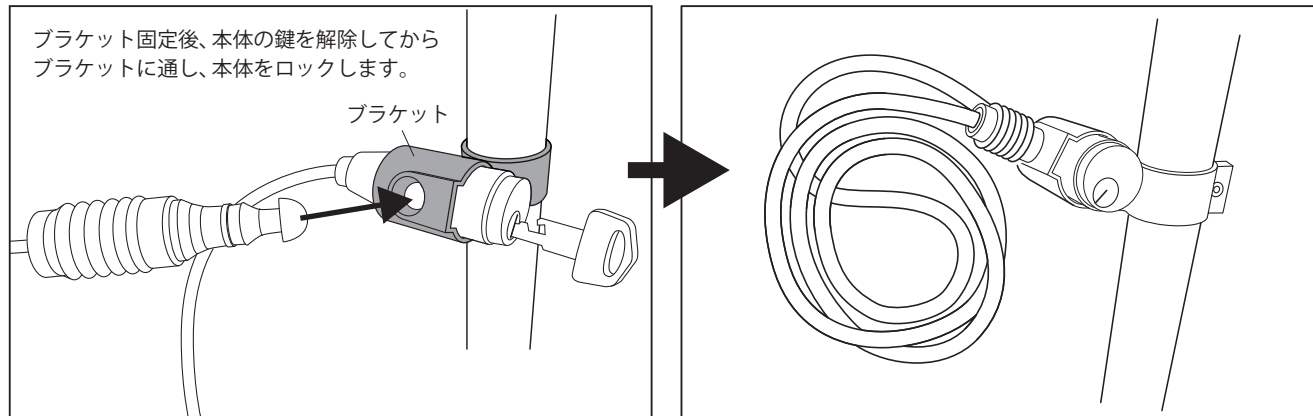
この際、ブラケットが緩いようであればスペーサーを間に挟むようにして調整してください。



鍵(ワイヤーロック)



ブラケット固定後、本体の鍵を解除してからブラケットに通し、本体をロックします。

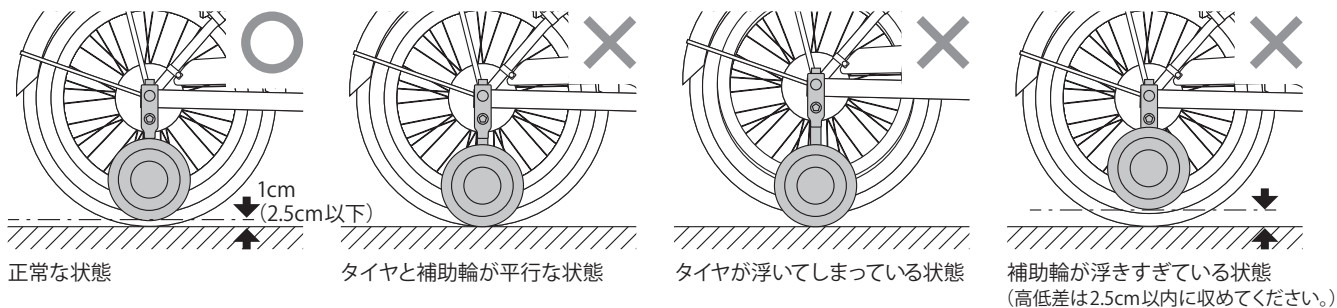


自転車の組立

補助輪の取付位置・取付方法

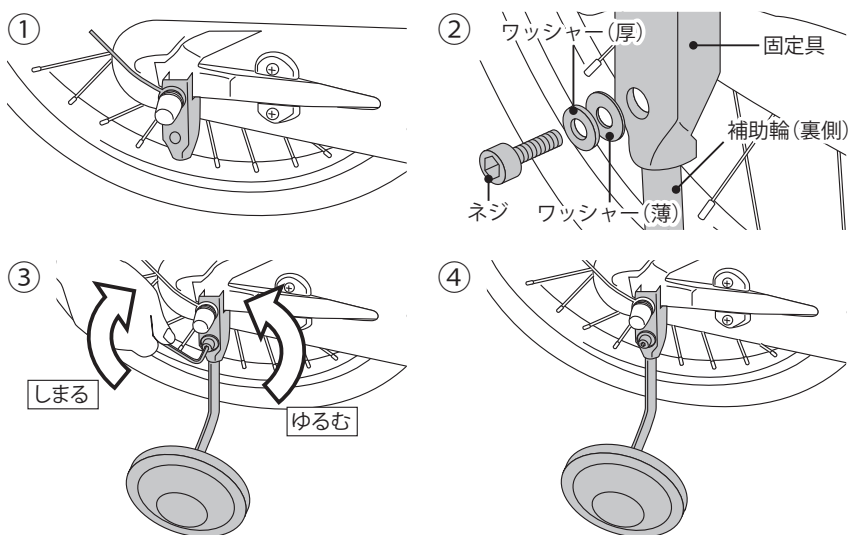
補助輪は取り付け位置、取り付け方法を適正に行わないと、走行に支障が出たり、車体が倒れやすくなる場合があります。

下図を参考に、補助輪が地面から1cm (2.5cm以下) 程度浮く位置に調節してください。



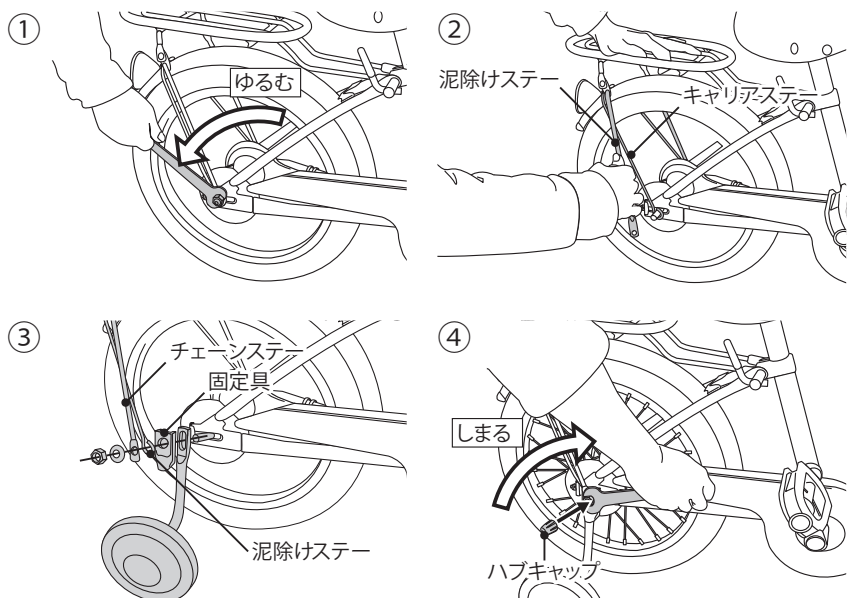
六角レンチ固定タイプ

- ①箱から取り出した、補助輪が付いていない状態です。
- ②ネジにワッシャー (厚)、ワッシャー (薄) の順にはめ、固定具の裏側に補助輪を当て込み、先用意したネジ、ワッシャー 2つを固定具の手前から差し込み、手で締め込みます。
- ③ある程度まで手で締め、最後は確実に固定するため六角レンチを用いて締めていきます。
- ④確実に固定されたことを確認してください。反対側も同手順に沿って取り付けてください。



スパナ固定タイプ

- ①補助輪の取り付けには後輪のナットとワッシャーを外す必要があります。付属のスパナ 15mm (大口) で反時計回りにナットをゆるめナット、ワッシャーを取り外します。
- ②①の後キャリアステーと泥除けステーを取り外します。
※図のようにキャリア本体を上から押さえつけるとスムーズに取り外せます。
- ③内側から補助輪→固定具→泥除けステー→キャリアステー→ワッシャー→ナットの順に取付を行います。
- ④補助輪の位置を調整し、スパナを時計回りに締め込み固定します。
※確実に固定されたことを確認し、反対側も同手順に沿って取り付けます。



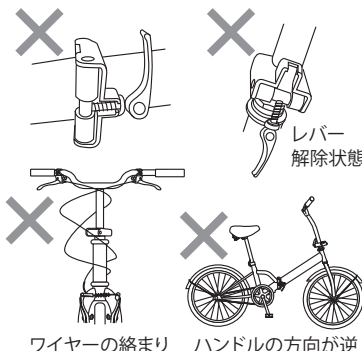
⚠ 注意

タイヤに空気を入れてから作業を行ってください。
タイヤに空気が入っていない状態で取り付けると、空気を入れたあとで高さが変わってしまいます。
乗車する際には毎回、各部のガタ・ゆるみがないか、確実に固定されているか確認してください。
ガタ・ゆるみのある場合や、固定されていない場合は、再度締め付けを行ってください。

折りたたみ自転車の警告事項

⚠ 警告

- 乗車前に必ずフレーム、ハンドルなどの固定箇所に、ガタつき等なく確実に固定されていることを確認してください。ガタつきのある場合は、ガタつきがないように調整してからご使用ください
- 車体の折りたたみ部のクイックレバーは、下に向けて車体を確実に固定してください。
- ハンドルの固定がクイックレバーの場合は、クイックレバーを前方向に倒して固定してください。
- 前フォークの方向を確認してから乗車してください。
- ブレーキワイヤーが絡んだまま乗車しないでください。
- 折りたたみ自転車は、大人用に設計されていますが、車輪径の小さい車種においては、乗車される方の体重によって、使用タイヤの最大不可を超えてしまう場合があり、タイヤの寿命が短くなることがあります。
- 20インチ以下の車輪径の小さい自転車は、大きい自転車と比べてふらつきが大きい等、安定性が劣りかつ運転感覚が異なります。広場など安全な場所で十分練習してからご使用ください。



スポーツ車の警告事項

⚠ 警告

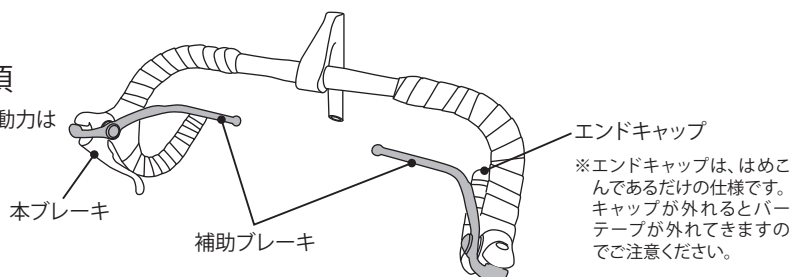
■キャリパーブレーキ装着車の注意事項

- キャリパーブレーキが使用されている車種は、Vブレーキ、ディスクブレーキを使用している車種と比べると構造上効きが滑らかでロックしにくいという特性を持っており制動距離は長くなります。勾配の大きな下り坂など、スピードが出やすい道での走行時には十分な距離を持ってブレーキングができるようスピードを出しすぎないようにご注意ください。
- 補助ブレーキ(レバー)は急激な操作には適していません。スポーツ車は、変速機、ブレーキ操作等、空き地や公園など安全な場所でよく練習してから、一般道路でお乗りください。
- 補助ブレーキ(レバー)は構造上、本ブレーキと同様の制動力は兼ね備えておりません。
- ロードタイプの自転車(キャリパーブレーキ、及び補助ブレーキレバー)の性能や特性、操作方法を十分に理解していただき、安全走行にご留意ください。

■補助ブレーキ装着車の場合の注意事項

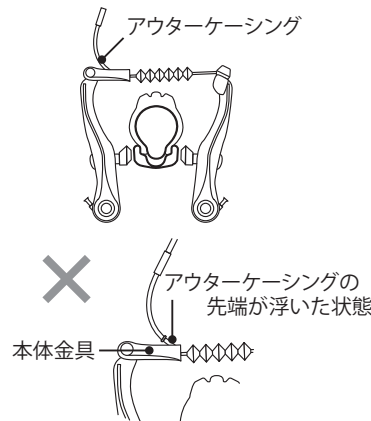
- 補助ブレーキ(レバー)は構造上、本ブレーキと同様の制動力は兼ね備えておりません。

あくまで補助用のブレーキとなりますので使用時はご注意ください。



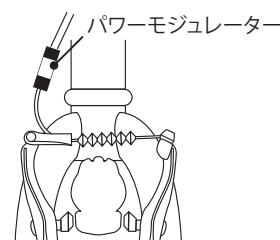
■V型ブレーキ装着車の注意事項

- V型ブレーキは他のブレーキに比べ、とても敏感でパワフルなブレーキです。急なブレーキ操作や急激な片輪ブレーキ操作は、車輪がロック状態となり、横滑りや転倒事故につながる恐れがあり、大変危険です。
- ご乗車に際しては、V型ブレーキの優れた性能や特性について十分に理解していただき、安全走行に留意してください。
- ブレーキの操作方法
 - ブレーキ操作はまず後輪ブレーキ(左側ブレーキレバー)をかけて、スピードを落としながら前輪ブレーキ(右側ブレーキレバー)をかけて停止が望ましいです。
- ブレーキのワイヤーチェック
 - 乗車前に前後ブレーキのアウトアーケーシングが完全にブレーキ本体の金具にはめ込まれているか確認してください。
 - 前後ブレーキのアウトアーケーシングが浮いた状態(アウトアーケーシングの先端が本体金具を通っていない状態)で使用されるとアウトアーケーシングが本体金具から外れ、ブレーキ制動がなくなり大変危険です。



■パワーモジュレーター(シマノ製)装着車の場合の注意事項

- パワーモジュレーターは車輪のロック防止装置ではありません。パワーモジュレーターはブレーキレバーの引き量を増やすことにより、ブレーキのコントロールをしやすい状態にする装置です。
- ブレーキ操作時、パワーモジュレーターの可動範囲を超えた場合には、通常のV型ブレーキになりブレーキが効きすぎて車輪がロック状態になる場合がありますので、このブレーキの機能特性を十分に体験されたうえでご使用ください。



※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

スポーツ車の警告事項

クイックリリースレバーを採用している車種は、乗車前には必ずクイックレバーが固定されている事をご確認ください。

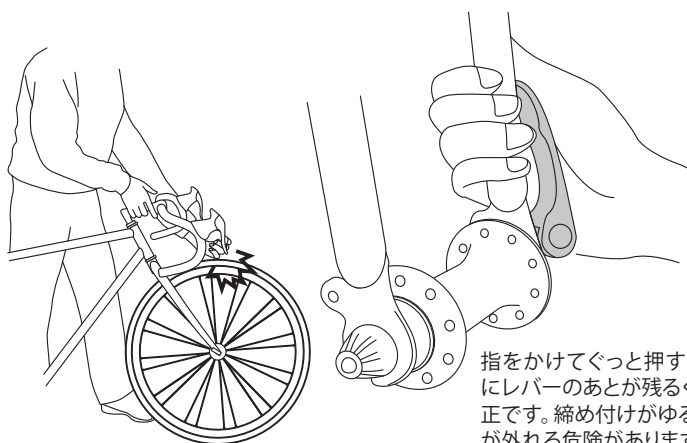
⚠ 警告

クイックリリース式車輪の固定確認

乗車前には必ずタイヤが正しく固定されているか確認してください。乗車時の振動等で緩みが発生し、固定力が弱くなると乗車中に車輪が外れる可能性があり大変危険です。前輪を持ち上げ、車輪を上からたたいて車輪がずれたり、グラグラしないか確認してください。

チェック項目

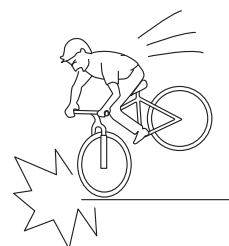
- ☐ クイックリリースレバーがフロントフォークに沿って閉じている。
- ☐ クイックリリースレバーの「CLOSE」の刻印が外側に见えている。
- ☐ クイックリリースレバーが簡単に開かない。
- ☐ 車輪にガタつきがない。



指をかけてぐっと押す!手のひらにレバーのあとが残るくらいが適正です。締め付けがゆるいと車輪が外れる危険があります。

■フロントサスペンション装着車の場合の注意事項

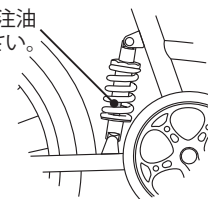
- 急ブレーキをかけたとき、フロントサスペンションが作動し、車体が沈み込む場合があります。不慣れな方はバランスを崩して点灯する恐れがあります。
- ブレーキ操作は、まず後輪ブレーキをかけて、スピードを落としながら前輪ブレーキをかけて、安全に停止するようにしてください。



■リアサスペンション装着車の場合の注意事項

- 出荷時のリアサスペンションのスプリングは適切なかたさに調整されています。リアサスペンションのスプリングは、適切なかたさが必要です。
- 車体を手で持ち上げたとき、ガタつきが感じられる場合はスプリングをゆるめ過ぎています。ガタつきのある状態で使用されますと、車体の変形、破損の恐れがありますので必要以上にはゆるめないでください。
- サスペンションからの音鳴りは異常ではありません。サスペンションの軸棒及び前後の固定軸に塗布されたグリスが消耗したために発生するさしきみ音です。適量のスプレー系のグリスまたは機械油を適当箇所に塗りつけてください。

この軸棒に注油してください。



前輪ロックに注意

⚠ 警告

※前輪ロックとは、走行中に前車輪の回転が瞬間的に急停止する事です。衝突と同じくらいの衝撃があり、前のめりに頭から転倒し大事故につながります。
前車輪がロックされる原因には以下のような場合が考えられます。

1. ハンドルにぶら下げたバックなどが前車輪や、前車輪と車体の間に入ったとき。
2. 前カゴに入れたバンドや細長いヒモ状の物などが前車輪の間に入ったとき。
3. スピードを出して急ブレーキをかけたとき。
4. 前子供乗せの子供の足が誤って車輪の間に入ったとき。
5. ダイナモランプを足先で蹴って倒そうと試み、誤って足を車輪の間に突っ込んだとき。
また、そのときダイナモを倒してダイナモが車輪の間に入ったとき。
6. スポーク切れやその他の原因で、リムが横振れしタイヤが車体に接触したとき。
7. ブレーキシューのネジがゆるんでいてブレーキシューがタイヤに接触したとき。
8. 外部から異物が車輪の間に入り込んだとき。
9. 前車輪のハブ芯を止めるナットがゆるんでいて車輪が傾きタイヤが車体に接触したとき。
10. 前車輪にフロントガードなど挟み込みを防止する装置がある物では、乗車前にその装置に破損が無いことを確認してください。もし破損がある場合はすみやかに販売店で交換してください。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

自転車の乗車前チェック



警告

自転車に乗車される際は、必ず自転車をチェックしてください。
異常がある場合は即座に乗車を中止し、きちんと整備した後で乗車ください。
※点検ができないお子様のために必ず保護者がおこなってください。

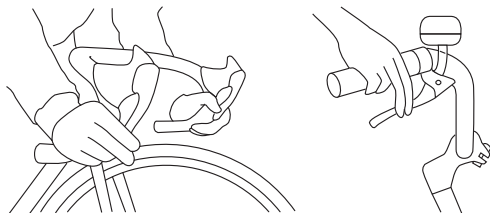
■正しい乗車姿勢がとれますか？

サドルに座ったとき、サドル、ブレーキレバーの位置は適正ですか？



■ブレーキはよく効きますか？

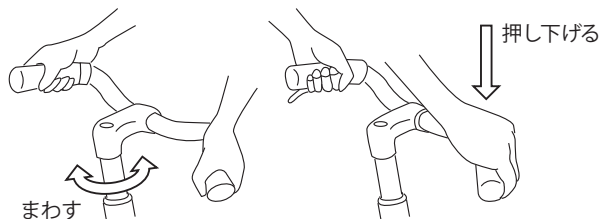
左右のブレーキレバーを握って自転車を押し進めた時、ブレーキレバーとグリップの間が2/3～1/2になるまでにブレーキが効きますか。また、ブレーキレバーの取付台のゆるみやガタがないかどうか確認してください。ブレーキレバーの作動には特に注意し、ワイヤーのサビ、折れ曲がりがないか。サビや折れ曲がりがあると、ブレーキレバーの作動が重かったり、ブレーキが効かないことがあります。またブレーキの効きにも注意してください。



お子様が乗られる場合はブレーキレバーに指がとどいているかどうか確認してください。また、ブレーキのかけ方を繰り返し教えてください。

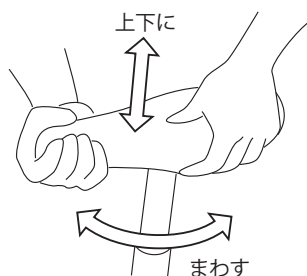
■ハンドルはしっかり固定されていますか？

がたつきがないか前輪に対して直角に取り付いているか。固定の確認は、大人の方が左右のハンドルグリップ部を持って前輪を両足にはさみ上下左右に回そうとしても動かないこと。グリップが緩んでいないか。また、図のように両手で押し下げても動かないこと。必ず限界標識線が見えていないことを確認してください。



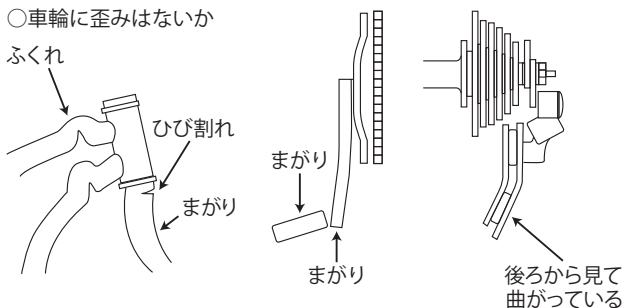
■サドルはしっかり固定されていますか？

上下、左右及び前後にガタや動きがないか。フレームと真っ直ぐに取り付いているか。固定の確認は、大人の方がサドルの前後を持って上下左右に力を加えて動きのないこと。必ず限界標識線が見えていないことを確認してください。



■フレームやパーツ各部に変形やひび割れ等はないか？

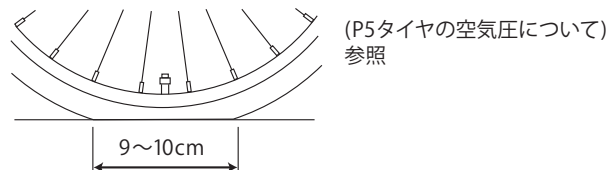
- フレームやフロントフォークに変形やひび割れ等はないか
- ペダル軸やギヤクランクに曲がりやひび割れ等はないか
- ディレーラー（変速機）に変形はないか
- 車輪に歪みはないか



フロントフォークには、交通事故などで衝突した時に、前フォーク自体が変形することで、乗員や車体に加わる衝撃を吸収する機能があります。このため、フロントフォークはむやみに高い強度には設計されていません。衝突や転倒などで、自転車に強い衝撃が加わった後は、特にフロントフォークにきれつや変形などの異常がないか確認してください。

■タイヤの空気圧は十分ですか？

乗ったとき地面との接地面の長さが9～10cmくらいになるのが標準です。空気圧が低すぎるとタイヤの損傷が早く、パンクの原因となり、また車輪の回転が重くなります。空気圧はタイヤの側面にご推奨空気圧が記載されています。また、ロードバイクのタイヤのように細いタイヤほど空気の減りが早いので、こまめに点検してください。

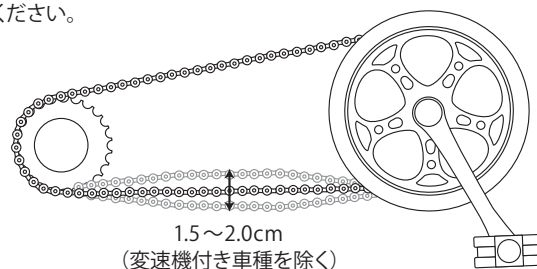


■タイヤはパンクしていませんか？

乗車前にパンクしていないか確認してください。空気をいれても、正常な空気圧が得られないときはバルブが緩んでいないか。バルブを取り外し、虫ゴムがいたんでいないか。タイヤを1回転して、釘や鋭がささっていないか。破損や切り傷がないか。パンクしているときは乗車せずに自転車販売店にて修理してください。

■チェーンの張りは正常ですか？

チェーンを張り過ぎると登り坂などでトルクがかかった場合に切れる事があり大変危険です。チェーンの張りが緩すぎるとペダルを強く踏み込んだ時にチェーンが外れることがあり大変危険です。適切なテンションに調節が必要です。異常がある場合は速やかに販売店にご相談ください。



※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

自転車の乗車前チェック

■安全な服装で

車輪に巻き込まれやすい服装はしない。

- ズボンのすその汚れやチェーンの巻き込みを防止するためズボンはズボンバンドでとめてください。
- 靴はかかととの低い滑らかなものを履いてください。



■乗る練習は

練習をするときは、空き地や公園などの安全な場所でしましょう。(よく練習してから一般道路でお乗りください。)



■各部のネジはゆるんでいませんか？

自転車の前輪と後輪を別々に持ち上げて(10～20cm)軽く落として異音や取付のずれはないかを確認します。異音がある場合はネジやナットがゆるんでいる可能性があります。

■ライトは点灯しますか？

乗車前にはライトが点灯するかを確認してください。(付属していない車種もございます。)

■必ず点検をしてください

乗る前には必ず点検をしてください。点検については本書をよく読んで点検してください。分からない点は販売店に相談してください。



■初期点検及び定期点検は

購入後二ヶ月以内に初期点検を、その後一年ごとに定期点検を実施してください。なお、点検時以外でも異常を感じた場合は、すみやかに点検し、調整・修理をしてください。(有料)



定期点検、整備を受けていないと保証の対象外となる場合があります。

乗車前の点検

安全に乗っていただくために、乗車前に次の点検を実施してください。点検・調整後は試乗を行ってください。

異常があったときや不明な点があるときは、乗車せず販売店にご相談ください。

※点検ができないお子様のために必ず保護者が行ってください。

■日常点検と調整のポイント

- リフレクター
汚れ損傷はないか
取り付け角度は適正か
(反射面の傾きは進行方向垂直に対し上下左右5度未満)

- スポーク
折れているものはないか、曲がっているものはないか

- 車輪(前後)
ゆがんで回転していないか、ゆるんでガタついてないか

- チェーン
ゆるみすぎているか
サビしていないか

- サドルの固定
しっかり固定されているか、シートポストは限界標識線以上あがっていないか

- フレーム
変形やひび割れはないか

- クランク
ガタはないか、よく回るか
曲がりやひび割れはないか

- ペダル
ガタはないか
よく回るか、曲がりはないか

- グリップ
ゆるみがないか

- ハンドル
しっかり固定されているか

- ブレーキレバー
しっかり固定されているか
しっかり効くか

- ブレーキワイヤー
ほつれやサビがないか

- ヘッド
円滑に動くか
ガタついていないか

- ブレーキ本体
よく回るか
ゆるみはないか

- ブレーキシューリムの側面に沿って
しっかり固定されているか
磨耗していないか
傷はないか

- タイヤバルブ
ゆるみはないか

- タイヤ
空気圧は大丈夫か
パンクはしてないか

- ライト
ライトが点灯するか
※付属していない車種もあります。



- ブレーキワイヤーは異常がなくても1年に1回は交換してください。
- タイヤは接地面のトレッド溝が一部でもなくなる前に交換してください。
- ブレーキシューリムは制動面の溝が残り1mmになる前に交換してください。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

正しい使用条件

■標準適応身長

身長にあった自転車の調整は、サドルにまたがり両足先が地面につく高さが適当です。サドルの高さを調整しても両足先が地面につかないものや、足があまるようなものは正しい調整とはいえません。右の表を参考にサドルの高さの調整目安にしてください。
わからないときは販売店に相談してください。



サドル地上高さ (cm)	適応身長 (cm)	サドル地上高さ (cm)	適応身長 (cm)
46	98	74	144
50	105	78	150
54	111	82	157
58	118	86	163
62	124	90	170
66	131	94	176
70	137	98	183

■正常な乗車姿勢

正常な乗車姿勢をとれるよう、ハンドルとサドルの高さを乗車する人の体格に合わせてください。疲れず、安全に走るには、乗車姿勢が基本です。サドルに座り、両足をペダル、両手をハンドルグリップにおいて次の操作ができるようにしてください。

- 1.ペダルの駆動操作が円滑にできる
- 2.ブレーキの制動操作が容易にできる
- 3.ハンドルの操縦が容易にできる

以上の3点ができるようサドル・ハンドルの位置を適正に調整してください。



■標準乗用速度

※スピードの出し過ぎは危険ですので安全速度を守ってください。

	スポーツ車	シティサイクル	コンパクト車	実用車	折りたたみ車 子供車	幼児車
常用速度km/h	15～25	10～20	10～15	10～15	8～18	5～8

■ヘルメットの着用

自転車に乗るときは安全のためにヘルメットを着用しましょう。幼児を同乗させたり、児童が乗車するときは必ずヘルメットを着用しましょう。自転車用ヘルメットはSGマーク付きのように、一定基準を満たしている製品を使用しましょう。

■最大積載重量

積載装置を装備した場合の最大積載重量及び積載物の大きさ(積載装置を装備していない場合は適応されません)

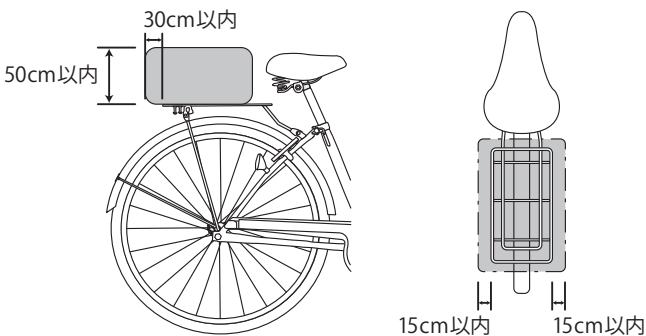
前カゴ、後キャリア以外の箇所に荷物を積まないでください。荷物を積む場合は規定の大きさ、重量を守って、ズレたり、ヒモがゆるんだりしないようにご注意ください。荷物がブレーキワイヤーに引っかかったり、ランプ・リフレクターがかくれないようにしてください。

- ※前カゴに荷物を乗せる場合は5kg以下(子供車2kg以下)
- ※幼児車には、荷物を積まないでください。



●積載条件を超える荷物は絶対に積まないでください。

※上記の最大積載重量は、前カゴと後キャリアに荷物を同時に載せた場合の合計した重量です。
(ただし、各都道府県の道路交通規則により多少異なります。)



リアキャリアの質量別クラスと積載重量

車種	実用車	シティ車			スポーツ車	コンパクト車	子供車
質量別クラス	クラスS	クラス27	クラス25	クラス18	クラス10kg		
最大積載重量	製造者が指定する質量	27kg以下の荷物 幼児座席の質量と幼児適用体重の合計が27kg以下	25kg以下の荷物 幼児座席の質量と幼児適用体重の合計が25kg以下	18kg以下の積載のみ 幼児座席は取り付け出来ません	10kg以下の積載のみ (商品により5kg以下もあります)		5kg以下の荷物

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

注油・お手入れについて

フレームヘッド回転部、ギヤクランクの回転部ハンガー、ハブ、ペダルなどの回転部にはグリスがつまっていますので注油は不要です。販売店での定期整備時にグリスアップを行ってください。

■ご注意

- リムやブレーキシューなどの制動面には油を注さないでください。ブレーキが効かなくなり大変危険です。
- タイヤのゴム部分に油を付けないでください。ひび割れ等劣化の原因となります。
- チェーンにはアブラを付け過ぎないでください。ほこりが付き寿命が短くなりますので付け過ぎた場合は拭き取ってください。
- ブレーキレバーのワイヤー固定部への注油は怠らないでください。



注油禁止



タイヤ



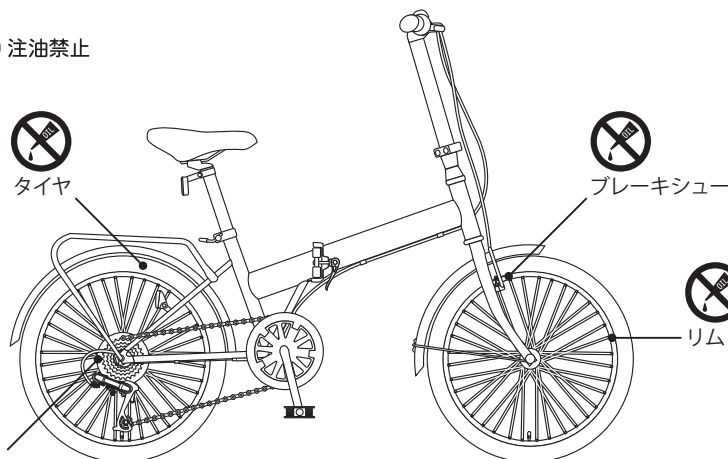
ブレーキシュー



リム



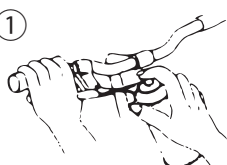
後ブレーキ



注油箇所

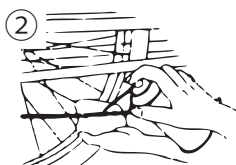
※外装変速機の付いた自転車については③～⑤も注油してください。

①



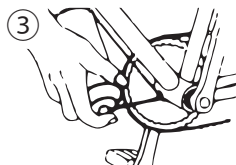
ブレーキレバー(前後)ワイヤーの可動部

②



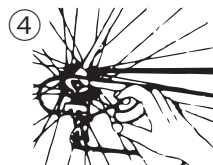
クランクを回しながらチェーンに注油

③



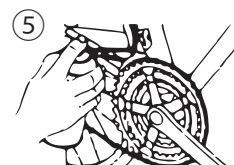
ワイヤーリードの循環部

④



リアディレイラー(後変速機)可動部とプーリー

⑤



フロントディレイラー(前変速機)可動部

■日常のお手入れ

- 乾いた布やブラシで泥、土、ほこりを落としてください。
- 雨など水にぬれたときは、よく乾燥させた後上図の箇所に注油してください。
- 塗装部(フレーム等)は乾いた布でよく拭き、自転車用のワックスをかけ、乾いた布でよく拭き取ってください。
- メッキ部(ハブ、変速機等)は乾いた布でよく拭いた後、サビ止め油もしくは機械油で拭き、余分な油を拭き取ってください。
- サビやすい場所(湿気の多い場所)に置くときはお手入れの回数を増やしてください。

■ご注意

- シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 走行中は回転部分(ギヤ、車輪、チェーン)に手を触れないでください。
- サドル、リム、グリップ、ブレーキレバーには、ワックスをかけないでください。

■お知らせ

- 軽合金リムはブレーキシューとの接触により汚れる場合がありますが、性能に影響はありません。

■日常の保管

- 雨のかからない乾燥した場所に保管してください。雨のかかる場所では市販のサイクルカバーを使用してください。

※長期間保管後再使用される場合は、販売店で点検整備のうえご使用ください。(有料)

■故障・事故・廃棄について

1. 転倒したら

- 前フォーク、ハンドルが変形することがあります。自転車を横から見て確認してください。
- ハンドル、ブレーキレバー、ペダル、ディレイラー(変速機)をぶつけ傷つけます。ハンドル、ブレーキレバーの変形や損傷には特に注意してください。

2.パンクしたら

- パンクしたまま乗り続けるとリム、タイヤチューブを破損させます。必ず降りて押して歩き、自転車店で修理してください。
- パンクの原因は
 - ・クギ、ガラス破片などを踏んだとき
 - ・道路の穴に落ちたり、段差などに乗り上げたとき
 - ・空気圧が不足しているとき

3. 交通事故のとき

- 万一交通事故を起こした場合は、相手が歩行者、自転車、自動車を問わず応急処置の後すみやかに警察に通報してください。事故処理等の一切は警察官の指示に従ってください。

4. ブレーキの故障やブレーキワイヤーが切れたとき

- ブレーキが効かない状態での走行は大変危険です。必ず降りて押して歩き、自転車店で修理してください。

5. 異常を感じたとき

- 異常を感じたときはすみやかに自転車販売店で点検整備を受けるようにしてください。

6. 廃棄について

- 自転車を廃棄する際は、お住まいの自治体で定められた方法に従ってください。決して不法投棄はしないでください。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

幼児用座席取付の注意事項

警告

■幼児用子供乗せが可能な車種

必ず両立スタンドが装着されている自転車に装着してください。
一本スタンドの自転車に幼児用座席を取り付けることはできません。
後用の幼児用座席を利用出来るのは後キャリアのクラス区分がクラス25、クラスSのいずれかのキャリアが装着されていること。

幼児用座席を取り付ける際は、幼児用座席に添付されている取扱説明書等に従って確実に取り付けてください。また、新たにリアキャリアを取り付ける場合はお客様の用途に応じて右記の表を参考にお選びください。なお、リアキャリア、幼児用座席の取り付けは販売店に依頼されることをおすすめします。

※幼児用座席の最大積載質量を超える幼児の使用は出来ません。
※幼児用座席を装着するときは上記を確認したうえで販売店にご連絡ください。

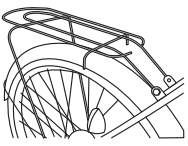
■幼児用座席取り付け上の注意

取り付ける自転車と、幼児用座席の寸法、形状が合致する物を選んで確実に装着してください。幼児用座席は、前用、後ろ用のうちどちらか一個のみの取り付けにしてください。
後幼児用座席は幼児の足が車輪に巻き込まれない位置にカバーのついた幼児用座席を必ずご使用ください。
幼児用座席及びキャリアの取り付けは販売店におまかせください。

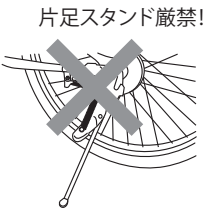
■お子様を乗せる際の注意

幼児用座席にお子様を乗せるときは必ず幼児用座席が固定されているかご確認ください。
お子様を乗せるときは必ずシートベルトをご使用ください。
適正なヘルメットを着用してください。
前子供乗せの場合は、セーフティロックを必ずかけてください。
シートベルトの端が車輪などに巻き込まれないようにご注意ください。
お子様を乗せるのは一人までとしてください。
お子様を乗せたまま駐輪しないでください。
転倒してケガの恐れがありますので、必ずお子様をおろしてください。
幼児用座席に幼児を乗せると、自転車のハンドルからぐらついたり、ブレーキをかけても止まりにくい場合があります。また、重い荷物を積載した場合も同様です。

幼児用座席に乗れるお子様の年齢・体重等につきましては、各都道府県の条例によって異なりますので販売店にお尋ねください。

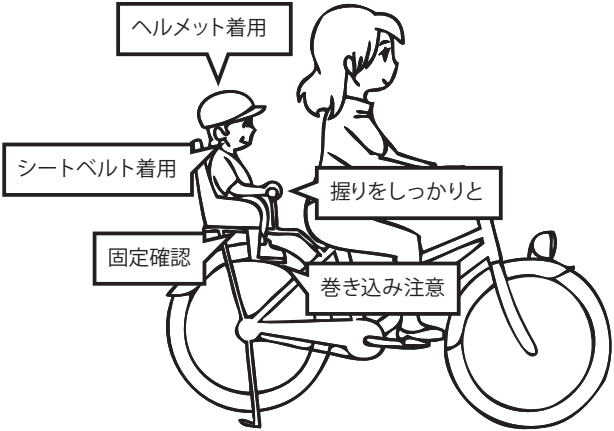


クラス25、クラス27



片足スタンド厳禁!

車種	シティ車・軽快車	実用車
リアキャリア クラス10	最大積載量10kgまで 幼児用座席は取り付け不可	不適合 取付方法が異なる
リアキャリア クラス18	最大積載量18kgまで 幼児用座席は取り付け不可	
リアキャリア クラス25	最大積載量25kgまで 幼児用座席質量と幼児体重の合計が25kg以下であること	
リアキャリア クラス27	最大積載量27kgまで 幼児用座席質量と幼児体重の合計が27kg以下であること	



ハンドルストッパー(くるピタ等)の取扱

警告

ハンドルストッパーは駐輪時、ハンドルがふらつくのを防止し、ハンドルを固定するものです。

■固定する場合

ハンドルストッパーのレバーを右(「止まる」の表示方向)へ動かなくなるまで回してください。

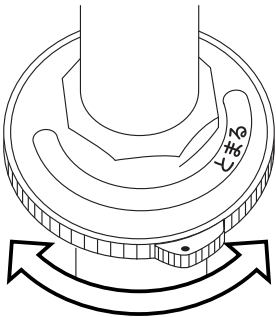
※レバーを左に回しても解除できない場合にはハンドルを軽く左右に回しながらレバーを操作してください。

■解除する場合

ハンドルストッパーのレバーを左(「まわる」の表示方向)へ動かなくなるまで回してください。



●走行するときは必ず解除してください。



※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

幼児2人同乗用自転車にお乗りになる際のご注意

⚠ 警告

「幼児2人同乗用自転車」にお乗りになる前に、下記の注意事項をお読みになり十分理解のうえでご使用ください。

1. 幼児2人乗せると、ふらつきが大きくなり転倒する可能性がありますので、安全な場所で十分練習してからご利用ください。特に発進時や低速で走行しているときなどハンドルが大きく振れますのでご注意ください。
2. 1人で自転車に乗っている時と比べ、幼児2人乗せた場合は全体の重量が大きくなるため、衝突した際の衝撃が大きくなり、同乗している幼児や乗員の被害も大きくなり、歩行者と衝突した場合には、歩行者の被害も大きくなりますので、走行には十分ご注意ください。
3. 自転車にお乗りになる際には、ハイヒールやサンダル及び底の滑りやすい靴は絶対にお止めください。スニーカーなどの踵が低く、滑りにくい靴をお履きください。
4. 路肩や歩道等の傾斜によりハンドルが取られ、転倒の危険性があるのでご注意ください。
5. 無理に曲がろうとすると、転倒する危険性がありますのでご注意ください。
6. 停車時及び幼児の乗降時には、必ず両立スタンド及びハンドルをロックさせてください。
7. 前の幼児座席により、前方下方の視野が制限されていますので走行には十分ご注意ください。
8. 以下のような状況になると、幼児を同乗させた状態では、自転車の立て直しが出来ずに転倒することがあります。
 - a) 狭いところを押し歩いたり、歩行者や自転車と接触したり、同乗させている幼児の動き、路面の凹凸、傾斜等によりバランスを崩して反対側に転倒することがあります。
 - b) ハンドルを大きく切った際に、前輪が前または後に意図しない回転をして転倒することがあります。傾斜面や路面の凹凸があるところでは、特に起こりやすくなります。
9. 押し歩き時には同乗幼児の動きや路面の凹凸、傾斜などによる僅かなバランスの崩れによって、自転車の立て直しが出来ずに転倒することがあるので、幼児を自転車から降ろして押し歩きをしてください。やむを得ず幼児を乗せて押し歩きする際は、以下の事項を考慮して慎重に押し歩きしてください。
 - a) 自転車は垂直より少し手前に傾けて、ハンドルをしっかり握り、ブレーキがすぐにかかけられるようにしてください。
 - b) 同乗幼児が動かないように注意するとともに、路面の凹凸、傾斜等に注意して、バランスを崩さないようにしてください。
 - c) 押し歩きのための十分なスペースがある場所であることを確認し、混雑した場所ではバランスを崩しやすいので幼児を同乗しての押し歩きは止めてください。

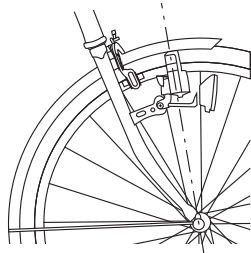
ライトの取扱について

ランプ類は走行の安全上正しい取り扱いが必要です。この事項では、一般的な発電ランプについて説明しています。電池式ライトの場合は、電池がなくなり次第新しいものと交換してください。特殊なランプを使用している車種については販売店にお問い合わせください。

■取付位置

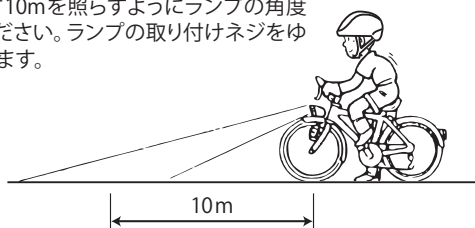
●ダイナモの位置

ダイナモの中心線延長がハブの中心にあっているか確認してください。取り付けがゆるんでダイナモが前に傾いた状態での走行は車輪に挟まる恐れがあり危険です。販売店に相談してください。



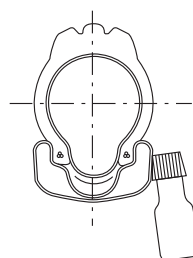
●照射角度

自転車の前方10mを照らすようにランプの角度を調節してください。ランプの取り付けネジをゆるめて調整します。



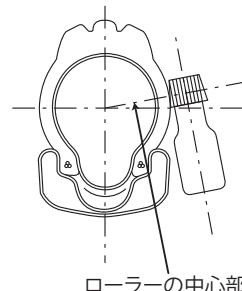
●リムドライブの駆動状態

ローラーの先端がリムに接触し、タイヤには接触していないことを確認してください。



●タイヤドライブの駆動状態

ローラーの中心がタイヤに接触しているか確認してください。



●電球の取り替え

電球を取り替えるときには同じ仕様の電球をご使用ください。なお、特殊なライトシステムの場合は使用箇所により電熱の仕様が異なりますので、販売店で確認のうえ、交換補充するようにしてください。



夜間および暗い所を走行するときは、必ずランプを装備し、点灯することが法律で定められています。

※ライト未装着車の場合は、必ず別にライトをお買い求めください。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

警告



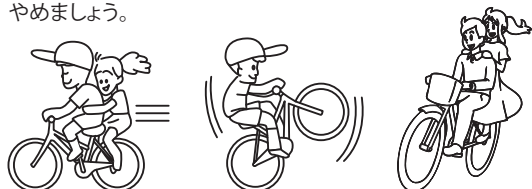
山岳・河川などでは絶対に使用しない

ハンドル・フレームなどが折損したり、ブレーキが効かなくなったりして、転倒の恐れがあります。



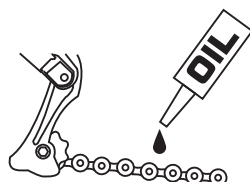
二人以上で乗ったりアクロバットのな乗り方はしない

二人乗りは法律で禁止されています。またアクロバットのな乗り方やハブステップに乗るのは大変危険ですので絶対にやめましょう。



チェーンなどの注油の必要な箇所には必ず注油すること

※注油箇所については
P 参照



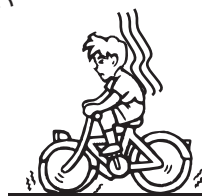
乗車中は携帯電話使用禁止!

また、ヘッドホン・イヤホンを使用しながらの走行はやめましょう。周りの音が聞こえにくく大変危険です。



パンクした状態で乗らない

パンクした状態で自転車に乗ると、リムやスポークが変形したり、タイヤが外れて大変危険です。



飲酒しているときは絶対に乗らない

衝突や転倒など事故やケガの恐れがあります。



無灯火で乗らない

夜間、乗車の際は必ずヘッドランプを点灯してください。ヘッドランプの明かりは路面状態を見るのみでなく、他の車両や歩行者からの視認をやすくする効果があります。(ランプ類の取り扱いについてはP9参照)

○ヘッドランプが標準装備されていない機種には別売のヘッドランプを必ず装着してください。

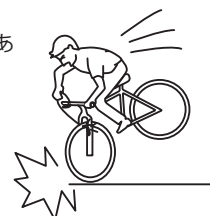
○ランプがつかないときは、押して歩いてください。

○ランプが破損した場合は、すぐ交換してください。



走行中ブレーキワイヤーを引っばったり、曲げたりしない。

走行中にブレーキがかかることがあり、大変危険です。

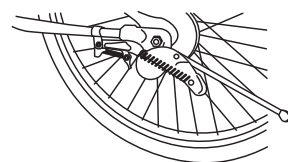


歩行者に危害を及ぼす恐れのある突起物などを自転車取り付けしてはいけません。



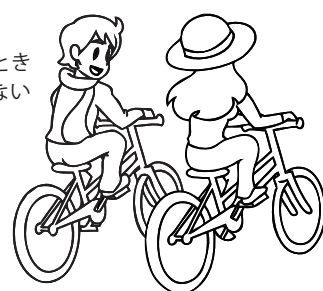
スタンドを上げるときは、必ずロックを完全に解除すること

ロックを完全に解除しないと、スタンドを上げている途中でロックがかかることがあります。



並走の禁止

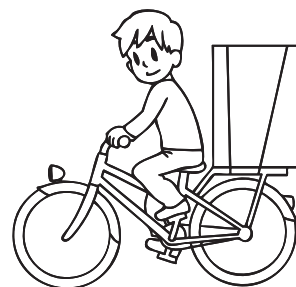
二台以上で走行するときは、横に並走して走らないでください。



積載条件を超える荷物は積まない

荷物を積む場合は規定の大きさ、重量を守って、ずれたり、ヒモがゆるんだりしないようにご注意ください。バランスを崩し、転倒の恐れがあります。

※幼児車には荷物を積まないでください。



※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

警告



シートポスト及びハンドルポストの限界標識を越えての乗車をしない
シートポスト及び、ハンドルポストの限界標識線がフレームの中に隠れる状態でお乗りください。サドルやハンドルの折れや抜けにより転倒し、ケガをする恐れがあります。



異常があるときは乗らない
点検せず異常のあるままで走行すると事故や転倒によるケガの恐れがあります。

異常を発見したら販売店にご相談ください。変形、ひび割れなど、異常のある部品は必ず交換してください。

曲がりを直しての再使用は破損の原因になりますので、絶対にしないでください。

※衝突したとき前ホークが曲がることによりショックを吸収し、乗員のケガを防止する役目をもっています。



リフレクターは汚れていたり破損したまま乗らない。また取り外して乗らない。

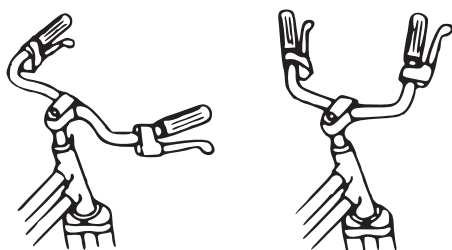
テールランプ及びリフレクターは後方の車両からの確認をする上で大変重要です。汚れや損傷のない状態でご使用ください。

破損した場合は、すぐに交換してください。交換するときは、橙色又は、赤色のものを使用し、反射面の傾きは進行方向垂直に対して上下左右5度未満になるようにしっかり固定してください。



ハンドルの形を変えない

ハンドルを上向きや前向きにて乗ると乗車姿勢が不自然なため走行が不安定になり、転倒しケガをする恐れがあります。



車輪の脱着やサドル・ハンドルの調整後、締め付けを確認せずに乗らない
車輪やサドル・ハンドルが外れ転倒によるケガの恐れがあります。



視界の悪いときは乗らない

見通しが悪いと、衝突や転倒の恐れがあります。(このような場合は押して歩いてください。)



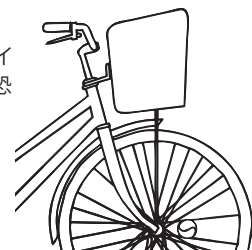
凹凸の激しい所を走らない

ハンドルがとられたりふらついたりする上、タイヤ・リムを損傷します。自転車を降りて押して歩いてください。



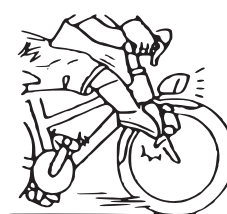
スポークの間に固形物(ボールなど)を入れて走らない

ボールが移動し、ブレーキ・ダイナモに接触し、転倒したりする恐れがあります。



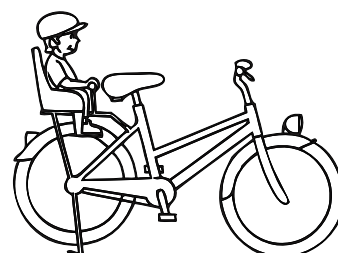
走りながら足で発電ランプの操作をしない

ダイナモの手元起倒装置のない自転車のダイナモ及びバッテリーランプの起倒は必ず停止し、手で操作してください。足での操作は足や靴が車輪に巻き込み転倒する恐れがあり危険です。



幼児を乗せたまま自転車から離れない

自転車が倒れ、ケガをする恐れがあります。



※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

警告

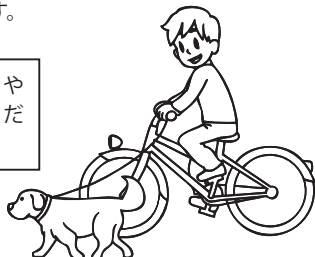


手やハンドルに荷物を引っかけたりペットをつなげない

荷物やヒモが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し転倒し、ケガの恐れがあります。

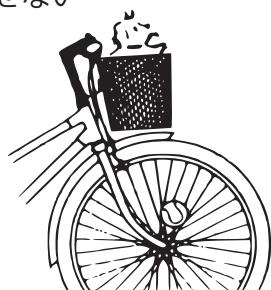


荷物はキャリア(荷台)やバスケットに積んでください。



前カゴにペットを乗せない

ペットが急に飛び出し大変危険です。



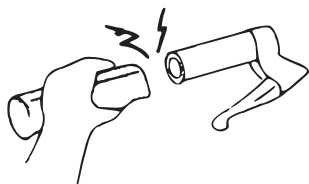
走行以外のことで使用しない

自転車を走行以外のこと(踏み台の代わりなど)に使用しないでください。転倒によるケガお恐れがあります。



ニギリのゆるんでいるものには乗らない

ニギリの弾性が低下し、回る物はハンドルから抜ける恐れがあり大変危険です。自転車販売店ですぐに取り替えてください。



自転車の改造をしない

修理や分解、部品の組み付けは、販売店にご相談ください。ハブステップの装着は危険な改造です。取扱説明書に記載されている調整箇所以外の箇所を調整することはやめてください。万一、不当な改造が起因と判断される故障は保障の対象外となります。
[保証規定B-30]



ブレーキの制動面に注油しない

ブレーキに関係する箇所のうち、リム、ブレーキ、ブレーキシュー、バンドブレーキのドラム内などには**絶対に注油したり油布で拭いたりしない**でください。ブレーキが効かなくなり大変危険です。



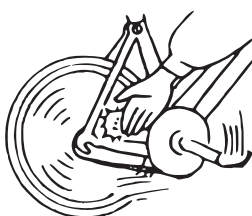
各部ベアリングを使用している箇所にグリス以外のものを塗らない

ベアリング使用箇所にスプレー式の潤滑油を吹き付けると、中のグリスが溶け出てベアリングのガタつきや破損が生じますので、絶対にしないでください。



回転部には触れない

(前・後車輪、ギヤクランク、チェーン部)が動いているときは手、足で触れないでください。特に調整やお子さまが遊んでいるときなどに回転部に手や足を触れないよう注意してください。



合図をするとき以外ハンドルから手を離さない

危険回避などの急な操作が出来ずに衝突や転倒の恐れがあります。雨のときに傘をさして片手運転などはしないでください。



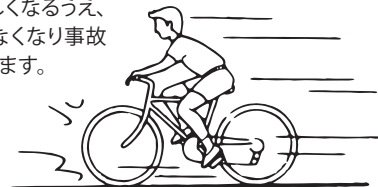
傘やステッキ、釣竿などを車体に差し込んだり、吊り下げたりしない

車輪をロック(固定)させたり、歩行者にケガをさせる恐れがあります。



スピードを出し過ぎない

スピードを出し過ぎると、ハンドル操作が難しくなるうえ、ブレーキも効かなくなり事故を招く恐れがあります。



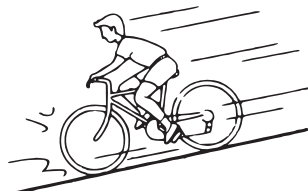
※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

警告



ぬれた道や下り坂ではスピードを出さない

ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため思わぬ事故や転倒によるケガの恐れがあります。特に急な上り、下りは自転車を降りて押してください。



カーブではスピードを出さない

曲がりきれずに思わぬ事故を招く恐れがあります。



カーブではブレーキをかけない

横すべりをおこし転倒する危険があります。スピードを落として走りましょう。



カーブで曲がる側のペダルを下げない

ペダルが地面に接触し、転倒する恐れがあります。



滑りやすいところでは乗らない

積雪や、凍結した道、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷きなどの運転はスリップなどをして大変危険です。自転車を降りて押して歩いてください。



スタンドを完全にはね上げていない状態で乗らない

カーブのときスタンドが地面と接触し、転倒によりケガの恐れがあります。



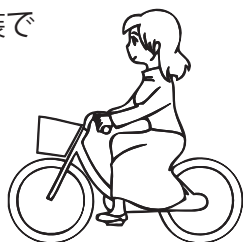
ギヤチェンジ(シフト操作)は一度に二段以上しない

一気にギヤチェンジをするとチェーンが外れることがあり大変危険です。一段ずつチェンジしましょう。



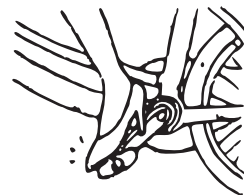
乗るときは安全な服装で

マフラーや裾の長いスカートなどの運転しにくい服装はやめてください。長いズボンをはいて乗車する場合は、車輪やギヤにからまることがあり危険です。



滑りやすい靴やかかとの高い靴などをはいて乗らない

足がペダルから外れ、転倒によるケガの恐れがあります。



片側ブレーキはかけない

片側だけ(特に前ブレーキ)のブレーキをかけるとバランスを崩して転倒し、ケガの恐れがあります。走行中は、常にブレーキレバーをすぐ握れるようにしてブレーキは前後ともかけてください。



急ブレーキはかけない

急ブレーキをかけるとスリップして転倒する危険があります。前方に注意して安全走行してください。



お子さまが乗られる場合は

ブレーキレバーに指が届いているかどうか確認してください。また、正しいブレーキのかけ方ができるまで繰り返し教えてください。



雨、強風、雪のとき

●雨のとき

服装(雨具)をととのえる。傘を持つての片手運転は絶対にやめてください。雨合羽やレインコートを着るときはスズが引っかかりたりしないようにスズは必ずセーフティバンド、輪ゴムまたは、クリップなどで必ずとめてください。また、雨の日はブレーキも効きにくくスリップしやすいので、ゆっくり走りましょう。

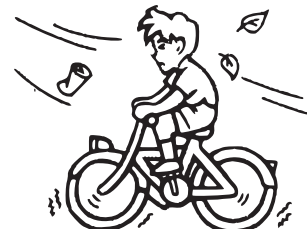
●強風のとき

ハンドルがふらつきやすく安全に運転出来ません。無理に乗らずに降りて押して歩きましょう。

●雪のとき

雪の日には乗らないのが一番です。降りて押して歩くように心掛けましょう。また、冬の晴れた日でも日陰の路面が凍っていたり、雪が残っていたりしますので注意が必要です。

※状況により自転車は周囲から認識されにくいことがあります。常に「周囲から認識されやすい」服装や装備でご乗車ください。



⚠ 警告

❗ 一年ごと及び異常を感じた場合に販売店で、自転車安全整備士、自転車組立整備士、自転車技士もしくはそれと同等の技能を有する者により点検を受けてください。

❗ 乗車前の確認
 ○前ブレーキ及び後ブレーキの動作の確認
 ○ハンドル、サドル及び前輪、後輪の固定の確認
 ○タイヤの空気圧の確認
 ○その他乗車前の点検の実施

❗ 自転車は車道を走行してください。
 ・自転車は自動車と同じく車道を通るのが原則です。その場合、道路工事などを除き車道の左端に沿って通行しなければなりません。

●但し、以下の場合に限り歩道を通ることができます。
 ※自転車歩道通行可の標識がある場所。
 ※運転者が幼児、児童、70歳以上のお年寄り、身体障害者の場合。(幼児・児童の保護者はお子様が乗車するときは必ずヘルメットをかぶせるようにしてください。)
 ※道路、交通の状態から見てやむを得ない場合。

❗ 衝突や転倒した時には
 衝突や転倒をした際は、必ず自転車各部を点検してください。異常がある場合は販売店に相談してください。

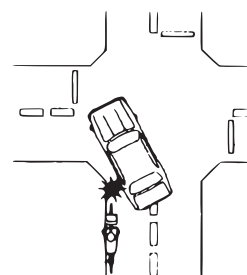
❗ 自動車の横を走り過ぎるときはスピードを出さない。

自動車のドアが急に開き衝突の危険性があります。



❗ 自動車の左折車に注意

車道の左端を走っている自転車が左折する自動車に巻き込まれる事故がよく起こっています。直進しようとするときは、左折車の動きに十分注意し、道路の左端を走るようにしましょう。トラックやバスの真後ろはバックミラーには入りません。信号で停止するときなど自動車の車線には入らないようにしましょう。



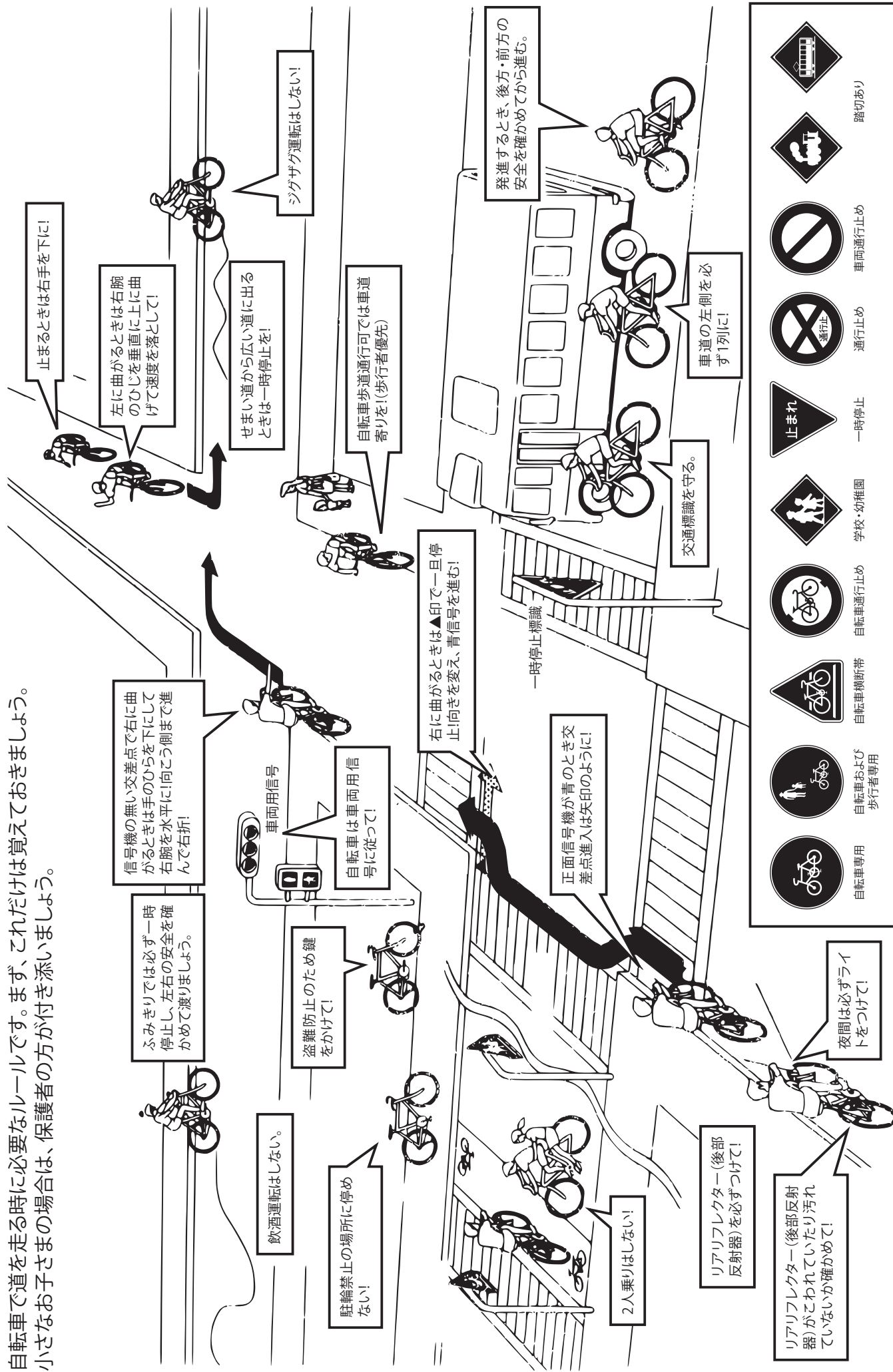
❗ 駐輪時の注意

●駅前や商店街など自転車を乗って行った先で自転車を放置しないようにしましょう。駐輪するときは駐輪所に駐輪しましょう。
 ●平坦な場所に必ずスタンドをロックし施錠しましょう。
 ●自転車使用後は、ブレーキに手を触れないでください。熱くなっている箇所がありますのでヤケドをする恐れがあります。

※図、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

交通ルールを守りましょう

自転車道で道を走る時に必要なルールです。まず、これだけは覚えておきましょう。
小さなお子さまの場合は、保護者の方が付き添いましょう。



点検・チェックリスト

点検時期以外でも異常を感じた場合、点検・調整を受けてください。

※書き方・・・良好○ 不備×

点 検 項 目		2 ヶ月以内		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと	
		点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整
1	大きさは乗り手の体格に合っているか サドルにまたがって、足が地に届くか、またサドルの固定は確実か										
2	●ハンドルの高さは適当か ●乗る人の上体が少し前に傾くように、サドルの前後の位置が調整されているか ●1～2は幼児。お子さまにご留意ください。										
3	フレーム・前フォークに変形や亀裂などはないか										
4	ヘッド・ハンガー小物にガタ・磨耗はないか										
5	泥除けはしっかりと取り付けてあるか										
6	キャリア(荷台)は片寄っていないか、またしっかりと取り付けてあるか										
7	スタンドの取り付けと作動はよいか										
8	タイヤの空気の入リ具合は適当か、タイヤはすり減っていないか										
9	ペダル軸はクランクと直角になっているか										
10	クランクに曲がりはないか、ギヤクランクは滑らかに回転しガタはないか										
11	ペダルは滑らかに回転するか										
12	車輪のふれ・スポークのゆるみ・軸部のガタはないか										
13	ブレーキゴム類、シュー・パット・ライニングなどはすり減っていないか										
14	レバーの感覚は正常で前後のブレーキはよく効くか										
15	チェーンのたるみ・張りは適当か										
16	発電ランプは点灯するか、ネジはゆるんでないか										
17	リフレクターはこわれていないか、汚れていないか										
18	ベルはよく鳴るか、ゆるんでいないか										
19	カギの取り付けと機能はよいか										
20	ギヤチェンジは正確に作動するか、またチェーンが外れないか										
21	フリーホイールの回転と注油はよいか										
22	チェーンケースの形状と取り付けはよいか										
	定期点検・調整を実施した販売店ならびに年月日	年 月 日	(印)	年 月 日	(印)	年 月 日	(印)	年 月 日	(印)	年 月 日	(印)

●点検整備のお願い、
■お買い求め2ヶ月以内に第1回目を、「第2回目」はその後1年ごとに実施してください。なお、点検・整備はお早めに販売店(組立整備資格者)に依頼されることをおすすめします。(有料)
■異常を感じた場合上記の点検を実施し、調整・修理してください。
(定期点検・整備)

防犯登録について

平成6年6月20日より自転車基本法(省略)が改正され、防犯登録が自転車利用者の義務となりました。防犯登録をご希望の方は、お近くの「防犯登録所(自転車販売店)」にて防犯登録をしてください。

防犯登録を受ける際、必要になるもの

- ① お求めいただいた自転車本体
- ② 販売証明書(取扱説明書付属の販売証明書に空欄部の必要事項を記入してください。)
- ③ お客様の身分証明になるもの(運転免許証・健康保険証・学生証など)

※防犯登録を受ける際は別途手数料が必要となります。(お客様のご負担になります。)

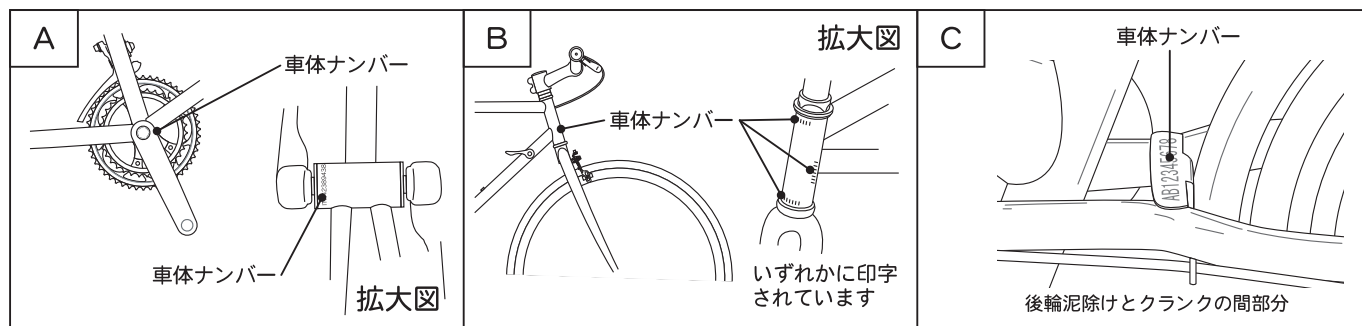
その他、防犯登録についてご不明な点がございましたら最寄りの各都道府県防犯登録協会(自転車商協同組合)にお尋ねください。

大阪自転車商防犯協力会 TEL06-6621-5350

東京自転車商防犯協力会 TEL03-3251-8446

※防犯登録を受ける際に自転車の車体ナンバーを登録します。車体ナンバーの印字箇所については下図をご参照ください。

A、B、Cいずれかの箇所に印字されています。



BAAマーク付自転車について

BAAマークが添付された自転車は、安全で長持ちする自転車为目标に、社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は製造、輸入業者の責任で補償致します。

社団法人自転車協会は直接利用者の皆様への保証を致すものではありません。

対人対物賠償責任保険

自転車に関連する交通事故は全事故の2割を占めています。万一の人身事故に備えて対人対物賠償責任保険に加入しましょう。

お問い合わせ先

商品お問い合わせの際は、商品名・ご購入日・ご購入店を必ずご提示ください。また内容により車体番号が必要であることもご了承願います。

株式会社オオトモ「サポートセンター」 ☎597-0083 大阪府貝塚市海塚2丁目30-20

メール: support@e-otomo.co.jp

※メールでのお問い合わせは24時間実施しています。

弊社では、相談内容の適正さを確保するため、通話内容を全て録音させていただいております。

保証規定

取扱説明書に基づく正常なご使用状態で保証期間内に故障した場合、下記内容にて保証修理、交換、補修部品の送付をお受けさせていただきます。

初期不良（製品お受け取り後1週間以内）を含み、製品に不具合があり製品保証（無償保証）を受けるためには、お買い求めになられた販売店・ご購入年月日・ご購入者様のお名前ご住所・ご連絡先などのお客様情報が必須となります。保証修理をお受けになられる場合は保証書をご提示の上、弊社製品サポートまでご連絡ください。

1. 組立について

- 1-1 弊社の自転車は75%～98%組み立て済み（種類によって差があります）状態での梱包・お届けとなり未完成部分はお客様に組み立てが必要となります。組み立てにはある程度の技術が必要となります。組み立てや調整に必要な工具は、お客様でご用意していただく必要があるものもございます事をご了承ください。
- 1-2 組み立てに要する手間、費用等につきましては、弊社はこれらを負担する事が出来ませんのでご了承ください。
- 1-3 また、弊社の納入した商品に何らかの不具合があった場合につきましても、これによりお客様側で発生した組み立て費用等は弊社でこれらを保証する事が出来ませんのでご了承ください。

2. ブレーキ・変速機等の調整について

- 2-1 契約製造工場にて最終検査、各部調整後に梱包しておりますが、製品輸送中にブレーキや変速機のワイヤーがゆるみ調整がずれる（初期伸び）、またタイヤの空気が抜けてしまう場合がございます。これらは製品特性上発生し得る現象であり、製品不良には該当しないものとなります。お客様ご自身で調整していただくこととなりますので、ご了承ください。
- 2-2 調整に掛かる費用は、全てお客様のご負担となりますので予めご了承ください。
- 2-3 変速機の不具合において、稀にフリー（スプロケット）が動いている為、もしくは変形している為というご報告をいただくことがございますが、フリーが動くのは異常ではありません。（空転時に目立つ現象となります。）変形は、変速を速やかに行うための加工部分の誤認識の可能性があります。ほとんどの変速不具合は、ワイヤーの張り調整、調整ネジによって改善されます。保証対応時、製品不良が確認出来ない時は、A-2、B-12に該当する為、調整費、送料等をご請求させていただくこととなりますのでご注意ください。

3. 修理・メンテナンスについて

製品保証の対象とならない場合の修理、メンテナンス等は弊社では行っておりませんので製品保証の対象とならない場合の修理、メンテナンス等は、最寄りの自転車店などにご依頼ください。お近くに自転車店が無い等の事情で修理、メンテナンスを承る際は、箱に入れていただいたの輸送となります。箱へ入れていただくための梱包作業や、返送後の組み立て作業が必要なることをご了承ください。修理、メンテナンスでお預かりする際は2週間前後の期間がかかります。不具合がみられた場合は直ぐに連絡をいただくようお願いいたします。初期不良が原因となる副次不具合は保証対象外となることがございます。

4. 返品・交換について

下記のような場合はいかなる理由でございしても、返品・交換をお受けすることが出来ません。

ご開梱時に間違いが無いかを必ずご確認ください。

- 4-1 一度ご使用になられた場合、またはその形跡がある商品。
- 4-2 付属品の無い商品やラベルを剥がしている商品。
- 4-3 部品の不足を理由とする返品はお受けできない場合があります。
- 4-4 お客様の責任で、商品が破損、汚損している場合。
- 4-5 お客様ご自身で加工・修理された場合やその形跡がある商品。
- 4-6 良品の返品はお受けすることが出来ませんので予めご了承ください。
- 4-7 お客様のご都合による返品はお受けすることが出来ませんので予めご了承ください。
 - 例：・サイズが合わない。
 - ・色が気に入らない（画面上と実物では多少色具合が異なって見える場合がございますので予めご了承下さい）。
 - ・イメージ通りでない。
 - ・その他弊社がお客様都合と判断した場合。
- 4-8 自転車のフレームには配送時に傷つかないよう可能な限りの梱包をさせていただいておりますが、どうしても小さな傷や凹みが発生してしまうことがあります。これらの小傷は不可抗力となり、症状によっては不良品としての取り扱いが出来ない場合がありますので予めご了承ください。
- 4-9 弊社からお客様に対して直接の返品・返金は一切お受け出来ません。返品・返金に関してはお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

5. 初期不良・部品不足・部品不良について

パーツの初期不良があった場合は、該当パーツの交換対応となります。

この場合、大変お手数をお掛けしますが、お客様自身でパーツの取り外し・取り付けをお願い致します。

- 5-1 初期不良対応期間はお客様が製品をお受け取り後1週間となります。製品に初期不良が見受けられた場合は弊社製品サポートまでご連絡ください。
- 5-2 自転車アクセサリ、自転車部品については初期不良対応のみになりますのでご了承ください。
- 5-3 部品不足・部品不良の場合、またそれらの部品の交換が容易で交換により機能回復可能な場合は部品のみをお送りし、お客様に該当部品の交換をお願いする場合があります。部品交換にて機能回復可能な場合、車体交換はお受け出来ませんので予めご了承ください。
- 5-4 修理でお預かりする場合の代車はご用意しておりませんので予めご了承ください。

6. 箱の保管について

- 6-1 お届けになった商品の箱は、保証をお受けになる際に必要となる場合があります。自転車に初期不良が無いことをご確認いただいた後に処分してください。初期不良対応期間は製品お受け取り後1週間以内となります。製品の返送が必要で、お届け時の元箱をすでに処分された場合、有償になる場合や、返送を受け付けられない場合がありますのでご注意ください。

7. 防犯登録について

- 7-1 初期不良がないことをご確認いただいた後に、**販売証明書**に必要事項を記入のうえ防犯登録を行ってください。
- 7-2 お客様の元に到着しました自転車の車体番号は、弊社では管理ができないものとなっています。そのため自転車を紛失した後にお問い合わせいただきましても、お答えする事が出来ないため、地域の指定にしたがって防犯登録にご加入していただくようお願い致します。防犯登録に加入する事は各都道府県とも義務づけされております。地域によって加入方法、加入金額が異なりますのでお住まいの地域の防犯登録協会にご確認ください。

8. 保証最高限度額

保証金の限度額は自転車販売金額となりますので、ご了承ください。

保証規定

A. 保証の注意事項

- A-1 商品の不良以外(使用方法に起因する不具合や消耗)は保証対象外となりますのでご注意ください。
- A-2 万一お預かりした製品に不具合が見当たらなかった場合は送料をご負担いただく場合がございますので予めご了承ください。
- A-3 工場出荷時・検品時、輸送時にタイヤに汚れが付く場合がありますので予めご了承ください。
- A-4 カラータイヤや、カラーグリップは通常の黒いタイヤやグリップに比べて日焼けに弱いという特徴があり、日光にあたると徐々に変色していきます。一度変色してしまつと元の色に戻すことはできませんので、保管時になるべく直射日光の当たらない場所で保管してください。
- A-5 シートの高さを調整する際に、シートクランプが締まった状態で作業をおこなうとシートポストにキズが付きますので、シートクランプがゆるんでいる状態で十分ご注意ください。シートの高さ調節を行ってください。
- A-6 カートン箱の印刷の仕様により、衣類等に塗料が付着する場合がありますので、持ち運びの際は汚れても問題のない服装で作業を行ってください。
- A-7 カートン箱を開封する際、留め金で衣服を破いたり、ケガをしないようご注意ください。
- A-8 商品改良のため、予告なく価格・色・デザインなどの仕様を変更する場合がありますのでご了承ください。
- A-9 表示しているサイズ・重量に関しては、多少の誤差が生じる場合がありますが製品上の特質があるためご了承ください。
- A-10 この保証書は盗難保険ではありません。盗難保険及び防犯登録については販売店にご相談ください。

B. 保証の適用外

次のような場合は、保証期間内であっても保証の適用外となりますのでご注意ください。

- B-1 取扱注意書に記載してある「警告及び注意」事項及び下記の注意を守らなかった為に生じた事故及び破損。
- B-2 取扱説明書の組み立て手順と異なる組み立てにより生じた故障及び破損。
- B-3 使用者の使用上の不注意によるもの、または使用に起因する部品の劣化。
- B-4 地震・落雷・火災・水害・塩害・ガス害その他天災地変あるいは外部的要因による故障および損傷。
- B-5 開梱後の輸送、移動、落下等による故障および損傷。
- B-6 衝突・転倒・道路の段差等への乗り上げまたは溝落ちにて発生した故障及び破損。
- B-7 2人乗りをした為に生じた故障及び破損。
- B-8 法令違反行為によって生じた事故。
- B-9 構造・機能を改造又は変更したために生じた故障及び破損。
- B-10 手入れ及び保管場所の不備により生じた故障及び破損。
- B-11 タイヤのパンクを含む消耗品により生じた故障及び破損。
- B-12 ブレーキ・変速機の調整不足により生じた故障及び破損。
- B-13 組み立てミスによるねじ山とねじ山の周りの潰れ(ペダル左右取付間違い、締め付けトルク不足による脱落も含みます。)
- B-14 パンク、空気不足のままの使用による不具合。
- B-15 調整不十分のままの使用による不具合。
- B-16 当社メンテナンススタッフが検品した際に明らかに誤使用、事故が起因となり、故障及び破損が生じたと判断した場合。
- B-17 保証書の無い場合。
- B-18 保証書に必要事項が記入されていない場合。
- B-19 保証書の字句等を書き換えた場合、虚偽の記載があった場合、また記載の無い場合。
- B-20 保守・整備の不備又は間違いや不注意、構造の理解不足によって生じた故障及び破損。
- B-21 取扱説明書に定める初期点検・定期点検を行わなかった事により生じた故障及び破損。
- B-22 酷使または一般的に自転車が行かない場所や未舗装路での走行により生じた故障及び破損。
- B-23 レンタルなど不特定多数で使用された場合。
- B-24 再販(中古品)で購入された場合、及び譲渡されたもの、転売物、中古品及びリサイクルショップ等で購入されたものは保証対象外となります。
- B-25 メンテナンスの不十分・保管場所の不備及び経年劣化によって生じた塗装面・メッキ面・金属面その他これに類する不具合およびプラスチック等樹脂部品の劣化・退色。
- B-26 タイヤ・チューブ・ブレーキ用ゴム等ゴム類、ペダル・ベアリング他回転部品・可動部品、チェーン等消耗品の損傷・損耗。
- B-27 釘・ガラス・切削くず・石など鋭利な物体との接触、走行中の衝撃に起因するパンク及び自転車の損傷・損耗。
- B-28 一般に機能上は影響が無いと思われる感覚的現象(音・振動等)や、塗膜の剥離を伴わない微細な傷。
- B-29 使用者による簡単な調整で機能回復できる場合。
- B-30 弊社以外で改造、分解、部品交換をされた場合。
- B-31 弊社にご連絡なしに、かつ同意なしに修理された修理代金、及び他店で調整、修理された箇所やそれに起因する不具合、および調整、修理代金。
- B-32 カゴ・バッグ・その他付属品、ブレーキワイヤー・ギアチェンジ用ワイヤー・ワイヤー取り付け用金具・コード類・各ゴム・樹脂類・電球・レンズ・スポーク・ニップル・スプリング・ブッシュ・ボルト類・ナット類及びお客様お取り付けの部品、身の回り品。
- B-33 日本国外で購入された場合。
- B-34 日本国外で使用された場合。

<製品保証対象外例>

- チューブが裂けた
空気圧不十分なまま走行すると、タイヤとリムの間にチューブが挟まり、チューブが裂けることがあります。このような場合は、お客様の使用方法に起因するため保証対象外となりますのでご了承ください。
輸送時の破損を防ぐため、出荷時には空気は満タンではありません。商品到着時には必ず空気を入れてください。
空気が少ない状態での乗車は、パンクの原因となりかねません。
空気がほとんど抜けている状態から、空気を一気に入れると、タイヤ外れやチューブの挟まり、破裂する等の不具合が起きる可能性が高まります。
空気を入れる際は、一度に入らずに 徐々に入れるようご注意ください。
- ペダルが脱落した
ペダル装着時に、締め込みがゆるい、斜めにねじ込まれている等の現象があると、走行時にネジがゆるみ脱落する可能性があります。このような場合は、お客様の組立方法に起因するため保証対象外となりますのでご了承ください。
- アヘッドパーツの破損
スポーツ車において、ハンドル形状がアヘッドタイプとなっているものは、通常の自転車と違い、固定ネジはステムの縦部に並ぶものとなっております。このタイプのハンドルシステムは天面部のネジを締め付けすぎると、簡単にネジ受けが破損してしまいます。このような場合は、お客様の組立方法に起因するため保証対象外となりますのでご了承ください。
- 自転車店に修理を依頼したが断られた
自転車店によっては自店の販売した自転車以外の修理などを拒否されるお店もあります。このような場合は他のお店にご相談ください。
- 不良による修理に関しては、弊社にて部品を送付し修理工費のご負担をさせていただく場合がございますが、弊社判断による相場との大きな差額、出張費用など、工賃以外の部品代金等は補償できませんのでご了承ください。